

平成22年度 ジュニアスタディーツアー報告書 Junior Study Tour 2010 Report



日本



ブラジル



アルゼンチン



ペルー



ボリビア



アメリカ



カナダ



キューバ



メキシコ



ニューカレドニア



ドイツ

は じ め に

ジュニアスタディーツアーは、海外の沖縄県系人子弟を本県に招待し、県内の中・高校生とともに、沖縄の歴史、文化、自然等について学習し、母県・沖縄との絆を深めることにより、海外県系人社会の発展と次世代のウチナーネットワークの担い手を育成することを目的としています。

本事業は、平成13年に「第3回世界のウチナーンチュ大会」のプレイベントとして実施されましたが、海外県人会等からの強い要望を受け、平成14年度から継続して実施しています。事業開始以来、海外・県内参加者を含め542人の参加者を受け入れてきました。

平成22年度は、7月20日から7月26日まで一週間の日程で実施しました。今回のツアーには、海外10カ国、17の沖縄県人会から21名の参加者と5名の引率者、沖縄県内から6名の中学生と15名の高校生が参加し、県内各地で様々な体験学習を行い、無事全日程を終了しました。ツアーを通して、沖縄県の歴史や文化、伝統芸能について学ぶとともに、みんなでひとつのことを成し遂げることによって、同じウチナーンチュとしての絆、そしてアイデンティティーを強く実感したと思います。

この報告書は、参加者や引率者の感想文とツアー日程や写真等をまとめたものです。この冊子が生涯にわたる記念になるとともに、参加者の皆さんが、このツアーでの経験をきっかけとして世界へ視野を広げ、将来、様々な分野で沖縄と世界の架け橋となる国際人として活躍することを期待しています。

また、今年10月には第5回世界のウチナーンチュ大会を実施いたします。同大会では、ウチナーネットワークとウチナーアイデンティティーを次世代に継承し、世界に向けた新たなネットワークの展開を推進したいと考えております。皆さん一人一人が新たなネットワークの担い手として、同大会に積極的に関わることを期待しております。

結びに、平成22年度ジュニアスタディーツアーの実施に御協力を頂いた多くの関係者の皆様に感謝の意を表し、発刊のあいさつといたします。

平成23年2月

沖縄県観光商工部長 勝目 和夫

ジュニアスタディーツアー報告書

目 次

はじめに
報告書目次

■事業概要	1
■スケジュール（日本語版・英語版・スペイン語版）	2
■記録写真	
7月14日（水）～7月15日（木）海外参加者迎え	5
7月20日（火）オリエンテーション、ウェルカムパーティー	6
7月21日（水）県庁表敬、自然学習（海洋博記念公園・エメラルドビーチ）	7
7月22日（木）自然学習（東の沢）・交流プログラム（キャンプファイヤー）	8
7月23日（金）歴史学習（首里城）・文化学習（県立博物館・三線、紅型体験教室）	9
7月24日（土）平和学習（平和祈念資料館・平和の礎）社会学習（マチグワー散策）	10
7月25日（日）歴史・社会学習（ワークショップ）エイサー披露	11
7月26日（月）学習成果発表会・修了式・さよならパーティー	12
7月27日（火）～7月28日（水）見送り	13
■ジュニアスタディーツアーに参加して	
海外参加者レポート	15
県内参加者レポート	62
海外引率者レポート	87
■資 料 編	
受入実績（平成13年度～平成22年度）	99
参加者名簿（平成13年度～平成22年度までの海外・県内）	100
知事表敬式次第	122
ウェルカムパーティー式次第	123
さよならパーティー式次第	124
ジュニアスタディーツアーグループ表	125

感想文人名索引

■海外参加者

輝美 タバレス 玉寄 マリア エドゥアルダ (ブラジル) ...	15
TERUMI TAVARES TAMAYOSEMARIA EDUARDA	
新里 友三 イルトン 鈴木 (ブラジル)	16
SHINZATO SUZUKI YUZO HILTON	
与儀 ウイリアン 勇貴 (ブラジル)	19
YOGI WILLIAN YUKI	
呉屋 パウラ ダニエラ (アルゼンチン)	20
GOYA PAULA DANIELA	
大城 エリカ クリスティナ (アルゼンチン) ...	23
OSHIRO ERIKA CRISTINA	
喜久山 愛理 (ボリビア)	26
AIRI KIKUYAMA	
カナシロ ナカミネ カルロス ヤスヒデ (ペルー) ...	28
KANASHIRO NAKAMINE CARLOS YASUhide	
ムラタ ウエズ ナミエ エリカ (ペルー) ...	31
MURATA UEZU MAMIE ERIKA	
ペレス ギューラー 日出美 (メキシコ)	33
PEREZ GUERRA HIDEMI	
フォンテス ゴンザレス キレイ (キューバ) ...	35
FONTES GONZALEZ KIREY	
ケイ ジュリア アン (アメリカ)	36
KAYE JULIA ANNE	

■県内参加者

島 袋 安 生 AKI SHIMABUKURO	62
比 嘉 優 仁 YUUNI HIGA	64
前 盛 よもぎ YOMOGI MAEMORI	65
赤 嶺 英 美 EIMI AKAMINE	67
知 念 志鶴河 SHIZUKA CHINEN	69
高 里 夢 子 YUMEKO TAKAZATO	70
神 谷 美 帆 MIHO KAMIYA	71
山 城 美 鈴 MISUZU YAMASHIRO	72
上 原 壮 登 MASATO UEHARA	73
新 垣 日奈子 HINAKO ARAKAKI	74
富名腰 明 里 AKARI FUNAKOSHI	75

■海外引率者

呉屋 新城 春美 (ブラジル沖縄県人会)	87
新垣 まゆみ (ボリビア沖縄県人会)	92
ゴンザレス 石川 ロベルト (キューバ沖縄県人会)	94
喜久山 イヴァン (ニューヨーク沖縄県人会)	95
中山 聡 (ドイツ沖縄県人会)	98

伊佐 ブラトニック リアナ (アメリカ)	38
ISA LIANA	
山城 カイル アレフ (アメリカ)	40
YAMASHIRO KYLE ALEPH	
当銘 紀沙 (アメリカ)	43
HISA TOUME	
ボロウス ジェシー ケンタ (アメリカ)	45
BURROUGHS JESSEY KENTA	
喜久山 ユキ (アメリカ)	48
YUKI KIKUYAMA	
パニス ロバート ケネス (アメリカ)	53
PANIS ROBERT KENNETH	
比嘉 マッケンジー サチ (カナダ)	55
HIGA MACKENZIE SATCHI	
ハリデー 葉月 クイン (カナダ)	57
HALLIDAY HAZUKI QUINN	
中山 ローベルト 拓也 (ドイツ)	58
NAKAYAMA ROBERT TAKUYA	
ボナヴァンチュール オロール (ニューカレドニア) ...	61
BONAVENTURE AURORE	

根路銘 真 歩 MAHO NEROME	76
浜 川 涼 夏 SUZUKA HAMAKAWA	77
酒 井 真 歩 MAHO SAKAI	78
宮 城 朱 里 AKARI MIYAGI	79
金 城 海 里 KAIRI KINJYO	80
渡 麻里江 MARIE WATARI	81
崎 本 未 来 MIRAI SAKIMOTO	82
岸 本 麻 衣 MAI KISHIMOTO	83
名嘉真 千 咲 CHISA NAKAMA	84
楚 南 琴 子 KOTONE SONAN	85

ジュニアスタディーツアー 事業概要

1. 趣 旨

海外の沖縄県系人子弟を本県に招待し、県内の児童生徒とともに、沖縄の歴史・文化・自然などの体験学習をとおして、母県・沖縄との絆を深めることにより、海外の沖縄県系人社会の発展とウチナーネットワークを担う次世代の人材育成に貢献する。

2. 事業内容

(1) 実施期間：平成22年7月20日（火）～7月26日（月）

来 沖 日：7月14日（水）～7月15日（木）

離 沖 日：7月27日（火）～7月28日（水）

(2) 参加者 42名

○海外参加者 13～19歳までの海外県系人21名

○海外引率者 県人会が推薦、生徒の引率及び通訳の役割5名

○県内参加者 沖縄県内の中学・高校生21名

○そ の 他 沖縄県職員・国際交流員・スタッフ・ボランティア等40名程度

①海外・国別内訳【10カ国・（ ）内の数字は引率者数】

・ブラジル	3名（1）	・アメリカ合衆国	7名（1）
・アルゼンチン	2名	・キューバ	1名（1）
・ペルー	2名	・メキシコ	1名
・ボリビア	1名（1）	・カナダ	2名
・ニューカレドニア	1名	・ドイツ	1名（1）

②海外・世代別内訳

・海外参加者 2世＝8名 3世＝7名 4世＝5名 5世＝1名

(3) 学習プログラム

① 自然学習

沖縄の自然や動植物等に触れ合いながらその大切さを学ぶ。

② 歴史学習

沖縄の歴史的な史跡等を巡り、沖縄が琉球王国だった頃の歴史とロマンに触れる。

③ 伝統工芸・芸能体験学習

沖縄の伝統工芸・芸能の体験学習を行う。

④ 平和学習

沖縄の戦跡等を巡りながら、平和の意味を考える。

⑤ 社会学習

沖縄県庁表敬訪問、平和通り散策等をとおして沖縄の現状を学ぶ。

月日 時間	7/19(月)	7/20(火) 1日目	7/21(水) 2日目	7/22(木) 3日目	7/23(金) 4日目	7/24(土) 5日目	7/25(日) 6日目	7/26(月) 7日目
6:30			6:30 起床		6:30 起床		7:00 起床	
7:00			7:00 朝食	7:00 起床	7:00 朝食	7:00 起床	7:00 起床	
8:00		別スタッフ・会場セッティング	8:00 レクセセンター出発 注意事項の確認 8:30 県庁到着 8:45 県副知事表敬式典 (歓迎セレモニー、記念撮影) 9:30 県庁出発 ・車内にて前日の振り回りシートの回収	8:00 出発 ・車内にて前日の振り回りシートの回収	8:00 出発 ・車内にて前日の振り回りシートの回収	8:30 出発 ・車内にて前日の振り回りシートの回収	8:30 出発 ・車内にて前日の振り回りシートの回収	
9:00				9:00 自然学習(山・川) ●東の沢 ・トレッキング		9:00 平和学習 9:00～9:15 ●記録フィルム上映 9:15～10:15 ●平和祈念資料館見学 ●公園内散策 ●平和礎見学 10:45 平和祈念公園出発 11:00 ひめゆり平和祈念資料館 ・戦争体験談(宮良ルリ先生)	9:00 歴史・社会学習 ・ぶんかテンプス館 4レッスンルーム ワークショップ ※床にそのま 着るの デスクはNG	
10:00		10:00 引率者・主催者・スタッフ かんぽレクセセンター集合 事前ミーティング			10:30 歴史学習 ●首里城 ●金城町の石畳			11:00 会場設営開始(テンプス館) スタッフ・ボランティア集合
11:00		11:30 昼食 1Fレストラン	11:00 万国津梁館見学					
12:00		12:30 参加者受付開始	自然学習(海) 12:15 海洋博記念公園到着 12:30 昼食	12:00 トレッキング終了 12:30 昼食	12:30 昼食		12:00 昼食	
13:00	かんぽレクセセンター スタッフ集合 6・7・8・9期生8名含む	13:20 参加者受付終了 開講式 ～オリエンテーション ・概要説明・確認 ・学習ツール配布 ・振り回りシートの配布 ①参加者自己紹介 ②班分け・班長紹介 ③英語学習 ④国の概要紹介1日目	13:15 美ら海水族館見学	(エイサー練習 まで休憩・洗濯)	13:30 県立博物館到着 県立博物館・美術館見学	13:30 優美堂出発		13:00 参加者受付 13:30～15:00 ・前日の振り回りシートの回収
14:00			14:30 イルカショー見学		14:30 県立博物館出発 14:45 伝統工芸体験 ※空手・三・琉球舞踊	14:30 社会学習(街・人々) ●マテグワ散策 ※ガイド 卒業生ボランティア	14:00 学習終了・エイサー講習 (4日目)	14:30～15:30 リハーサル 15:00 来賓・一般参加者受付
15:00	15:00 県内参加者 オリエンテーション (かんぽレクセセンター)	～途中休憩～	15:15 ●エメラルドビーチ到着 海水浴 ビーチレクリエーション	16:00 エイサー講習 (1日目)	16:00 那覇市伝統工芸館 伝統工芸体験 ※紅型・首里織・琉球 漆器	17:00 散策終了	15:30 講習終了・着替え開始 ※ステージ最終チェック 16:00 エイサー演奏	15:30～16:15 学習成果発表会 16:20～16:40 修了式 16:40 さよならパーティー 準備 17:00 さよならパーティー ※進行・演出 卒業生ボランティア ※参加人数200名程度
16:00	PA完備 飲物配布		16:30 エメラルドビーチ出発		17:15 テンプス館出発	17:30 テンプス館出発	16:30 終了 ・振り回りシートの配布 ・解散 ～ ホケムスティー先へ～	
17:00		17:00 交流プログラム ※進行・演出 卒業生ボランティア	ホテル到着20分前 部屋割りの発表 つつじエコパーク到着 夕食	17:30 夕食 (バーベキュー)	18:15 糸満青年の家到着 18:30 夕食	18:00 かんぽレクセセンター到着 18:15 夕食		
18:00	17:30 終了 17:45 スタッフ打合	18:00 終了～荷物部屋移動 18:30 ウェルカムパーティー 夕食…かんぽレクセセンター ※参加人数80名程度	18:00 夕食			19:00 ワークショップ打合せ(引率) 19:15 エイサー講習 (3日目)		
19:00		20:00 パーティー終了	19:30 自国の概要紹介2日目 ・振り回りシートの配布	19:00 交流プログラム ～キャンプファイヤー ※進行・演出 卒業生ボランティア	19:30 エイサー講習 (2日目)		ホームステイ	
20:00			20:30 ～日程終了～ スタッフミーティング	・振り回りシートの配布 ～日程終了～ スタッフミーティング	・振り回りシートの配布 ～日程終了～ スタッフミーティング	・振り回りシートの配布 ～日程終了～ スタッフミーティング		ホームステイ
21:00		～日程終了～ スタッフミーティング						
22:00		22:00 就寝	22:00 就寝	22:00 就寝	22:00 就寝	22:00 就寝		
宿泊地		かんぽレクセセンター	つつじエコパーク	つつじエコパーク	糸満青年の家	かんぽレクセセンター	ホームステイ	ホームステイ

Day Time	Jul 20 (Tue) Day 1	Jul 21 (Wed) Day 2	Jul 22 (Thu) Day 3	Jul 23 (Fri) Day 4	Jul 24 (Sat) Day 5	Jul 25 (Sun) Day 6	Jul 26 (Mon) Day 7
6:30		6:30 Wake-up time		6:30 Wake-up time			
7:00		7:00 Breakfast	7:00 Wake-up time 7:30 Breakfast	7:00 Breakfast	7:00 Wake-up time 7:30 Breakfast	7:00 Wake-up time 7:30 Breakfast	
8:00	Staff set up meeting venue	8:00 Depart Recreation Center Announcements and confirmation 8:30 Arrive at Prefectural Govt. Bldg. 8:45 Courtesy Visit and Ceremony with the Governor (Welcome ceremony & group photo) 9:30 Depart Prefectural Govt. Bldg. *collection of previous day's reports in the bus	8:30 Departure *collection of previous day's reports in the bus 9:00 Nature Study (Mountains) Trekking at <i>higashi no sawa</i>	8:00 Departure *collection of previous day's reports in the bus 10:30 History Study *Shuri Castle *Stone pavements in Shuri-Kinjo town	8:40 Departure *collection of previous day's reports in the bus 9:00 Peace Study 9:00~9:15 *showing of video recording 9:15~10:15 *Tour of Peace Memorial Museum *Stroll through the park *Cornerstone of Peace 10:45 Depart Peace Memorial Park 11:00 Himeyuri Peace Monument * Ms. Ruri Miyara's War Experience Talk	8:30 Departure *collection of previous day's reports 9:30 History/Social Study *Lesson room 4th floor of Buŋka Tembusu Kar Workshop *No skirts (everyone will sit on the floor)	
9:00							
10:00	10:00 Chaperones, sponsors, and staff gather at Kampo Recreation Center Preparatory meeting	11:00 Tour of Bankoku Shinryōkan	12:00 End of trekking 12:30 Lunch/Bentō	12:30 Lunch Culture Study 13:30 Arrive at Prefectural Museum *Tour of Okinawa Prefectural Museum & Art Museum	11:45 Visit the Himeyuri Peace Monument 12:30 Lunch **Yūbidō* in Itoman City 13:30 Depart "Yūbidō" 14:30 Social Study (daily life: town & people) *Stroll in Machigwā Marketplace *Guides: Alumni volunteers	12:00 Lunch 13:00 Workshop resumes 14:00 End of Workshop Eisā Class (4th day)	11:00 Venue preparation begins (Tembusu Kan) Staff and Volunteers gather
11:00	11:30 Lunch - 1F Restaurant	Nature Study (Ocean) 12:15 Arrive at Ocean Expo Park 12:30 Lunch 13:15 Tour of Churaumi Aquarium ~Orientation~ Overall Explanation, Confirmation Distribution of study tools Distribution of report sheets 1) Participant self-introductions 2) Group allocation, announcement of group leaders 3) Language study 4) General introduction of own country (Day 1) ~Break~	(Break or laundry until Eisā class) 16:00 Eisā class (1st day)	14:30 Depart Museum 14:45 Arrive at Naha City Traditional Arts and Crafts Center First-hand experience of Okinawa traditional performing arts *karate, sanshin, Ryūkyūan dance 16:00 First-hand experience making traditional arts and crafts *bingata (Okinawan colorful dyed fabrics), shirī (Shirī weaving), and Bunkai 17:15 Depart Tembusu Kan			
12:00	12:30 Registration begins for participants 13:20 Registration ends for participants 13:30 Opening Ceremony ~Orientation~ Overall Explanation, Confirmation Distribution of study tools Distribution of report sheets 1) Participant self-introductions 2) Group allocation, announcement of group leaders 3) Language study 4) General introduction of own country (Day 1) ~Break~	14:30 Dolphin Performance Show 15:15 Arrive at Emerald Beach Swimming & beach recreation 16:30 Depart Emerald Beach Announce room assignments 20 mins before arriving at hotel 18:00 Arrive at Tsutsuji Eco-Park 18:15 Dinner 19:30 General introduction of own country (Day 2) Pass out report sheets 20:30 ~End of day's schedule~ Staff meeting 22:00 Bedtime	17:30 Dinner (Barbeque) 19:00 Exchange Program ~Camp Fire~ 21:00 ~End of day's schedule~ Staff meeting 22:00 Bedtime	18:15 Arrive at Itoman Seinen no Ie 18:30 Dinner 19:30 Eisā Class (2nd day) 21:00 ~End of day's schedule~ Staff meeting 22:00 Bedtime	17:00 End of stroll 17:30 Depart Tembusu Kan 18:00 Arrive at Kampo Recreation 18:15 Dinner 19:00 Workshop meeting (chaperones) 19:15 Eisā Class (3rd day) 21:00 ~End of day's schedule~ Staff meeting 22:00 Bedtime	15:30 Class ends/change clothes *Final stage check 16:00 Eisā performance 16:30 Finish *pass out report sheets & surveys 17:00 ~End of day's schedule~ ~leave with homestay families~	13:00 Registration begins for participants 13:30~15:00 *Collection of previous day's reports 14:30~15:30 Rehearsal 15:00 Registration begins for guests 15:30~16:15 Presentation for participants to report the results of their study 16:20~16:40 Closing Ceremony 16:40 Preparation for Sayonara Party 17:00 Sayonara Party ※Approx. 200 participants 18:30 Ending & Dismissal
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00	17:00 Exchange Program						
18:00	18:00 End of Exchange Program Move luggage to rooms 18:30 Welcome Party Dinner at Kampo Recreation Center *Approx. 80 participants						
19:00							
20:00	20:00 End of Welcome Party						
21:00	~End of day's schedule~ Staff meeting						
22:00	22:00 Bedtime						
Lodging	Kampo Recreation Center	Tsutsuji Eco-Park	Tsutsuji Eco-Park	Itoman Seinen no Ie	Kampo Recreation Center	Homestay	Homestay

hora	Mar. 20/7 1er día	Mie. 21/7 2do día	Jue. 22/7 3er día	Vie. 23/7 4to día	Sab. 24/7 5to día	Dom. 25/7 6to día	Lun. 26/7 7mo día
6:30		6:30 Levantarse		6:30 Levantarse			
7:00		7:00 Desayuno	7:00 Levantarse	7:00 Desayuno	7:00 Levantarse	7:00 Levantarse	
8:00		8:00 Partida: hotel rekucenter Repaso de las instrucciones	7:30 Desayuno		7:30 Desayuno	7:30 Desayuno	
9:00	Arreglo del local por personal encargado	8:30 Llegada a la Ofic. Prefectural 8:45 Visita al Gobernador (Ceremonia de bienvenida, foto)	8:30 Partida *juntar reportes del día anterior en bus 9:00	8:00 Partida *juntar los reportes del día anterior en el bus	8:30 Partida *juntar reportes del día anterior en bus	8:30 Partida *juntar reportes del día anterior en bus	
10:00	10:00 Reunión previa de Tutores, Organizadores y Personal en Kamporekucenter	9:30 Partida de la Ofic. Prefectural *juntar los reportes del día anterior en el bus	Naturaleza (Montaña) ●Caminata por Higashi no sawa		Estudio sobre la Paz 9:00-9:15 Video documental 9:15-10:15 ●Museo Conmem. de la Paz ●Recorrido por el parque ●Lápidas de la Paz		
11:00		11:00 Visita al Centro de Convenciones Bankoku Shinryokan		10:30 Historia ●Castillo Shuri ●Caminito de piedra en Kanagusuku	10:45 Partida del Parque de la paz 11:00 Museo de la Paz Himeyuri Relato sobre experiencias de guerra (Profesora Ruri Miyara) 11:45 Recorrido por Museo de la Paz Himeyuri	9:30 Historia • Sociedad Tembusukan 4to piso Lesson room Taller ※no usar faldas (se sentarán en el suelo)	11:00 Disposición del local (Tembusu) Reunión de personal y voluntarios
12:00	11:30 Almuerzo en Restaurante 1er piso	Naturaleza (Mar) 12:15 Ocean Expo Park 12:30 Almuerzo	12:00 Fin de la caminata	12:30 Almuerzo	12:30 Almuerzo Restaurante Yubidou en Itoman	12:00 Almuerzo	
13:00	12:30 Llegada y registro de los participantes	13:15 Acuario Chura Umi	12:30 Almuerzo	Cultura 13:30 Museo Prefectural y Museo de Bellas Artes	13:30 Partida de Yubidou	13:00 Continuación del taller	13:00 Registro de participantes
14:00	13:20 Fin de registro 13:30 Ceremonia de apertura ~Orientación~ •Descripción del programa •Entrega de material •Distribución de reportes	14:30 Show de delfines	(Hora de descanso/lavado de ropa hasta la práctica de eisa)	14:30 Partida del Museo 14:45 Artes Tradicionales ※Karate, Sanshin, danza Ryukyu	14:30 Sociedad (ciudad-gente) ●Recorrido por el mercado ※Org. por graduados voluntarios	14:00 Fin del taller Práctica de Eisa (4to día)	13:30~15:00 *juntar los reportes del día anterior
15:00	①Presentación de participantes ②Presentación de grupos y líderes ③Taller de idiomas ④Presentación de c/país (1er día)	15:15 ●Playa "Emerald beach" baño y recreación en la playa		16:00 Centro Artesanal de Naha ※Teñido bingata, Tejido Shuri, Lacado ryukyuniiano		15:30 Fin práctica. Cambio de ropa ※Revisión final de escenario	15:00 Registro de invitados y demás participantes
16:00	~descanso~	16:30 Partida al hotel	16:00 Práctica de Eisa (1er día)			16:00 Presentación de Eisa	15:30~16:15 Presentación final
17:00	17:00 Activ. de Integración ※org. por graduados voluntarios	Designación de habitaciones 20min. antes de la llegada al hotel	16:30 Cena (parrillada)	17:15 Partida de Tembusukan al hotel	17:00 Fin del recorrido	16:30 Fin de presentación -Distribución de reportes	16:20~16:40 Clausura
18:00	18:00 Fin ~ Transporte del equipaje a sus habitaciones 18:30 Fiesta de Bienvenida Cena en Kamporekucenter ※80 personas aprox.	18:00 Llegada a Tsutsuji Eco Park 18:15 Cena		18:15 Llegada: Casa de la Juventud 18:30 Cena	17:30 Partida de Tembusukan al hotel 18:00 Llegada: Kamporekucenter 18:15 Cena	17:00 Estadía con la familia	16:40 Preparativos para la fiesta 17:00 Fiesta de Despedida ※org. por graduados voluntarios ※200 personas aprox.
19:00		19:30 Presentación de c/país (2do día) -Distribución de reportes	19:00 Activ. de Integración ~Fogata~ ※org. por graduados voluntarios	19:30 Práctica de Eisa (2do día)	19:00 Arreglos del taller (tutores) 19:15 Práctica de Eisa (3er día)		18:30 Fin ~ Despedida
20:00	20:00 Fin de la fiesta	20:30 ~Fin de la jornada~ Reunión del personal				Homestay	
21:00	~Fin de la jornada del día~ Reunión del personal		21:00 ~Fin de la jornada~ Reunión del personal	21:00 ~Fin de la jornada~ Reunión del personal	21:00 ~Fin de la jornada~ Reunión del personal		Homestay
22:00	22:00 Hora de dormir	22:00 Hora de dormir	22:00 Hora de dormir	22:00 Hora de dormir	22:00 Hora de dormir		
Estadía	Hospedaje Kamporekucenter	Tsutsuji Eco Park	Tsutsuji Eco Park	Casa de la Juventud en Itoman	Hospedaje Kamporekucenter	Homestay	Homestay

記 念 写 真

海外参加者出迎え 7月14日：キューバ
 7月15日：ブラジル・ペルー・アルゼンチン・ポリビア・メキシコ・
 アメリカ・カナダ・ドイツ・ニューカレドニア



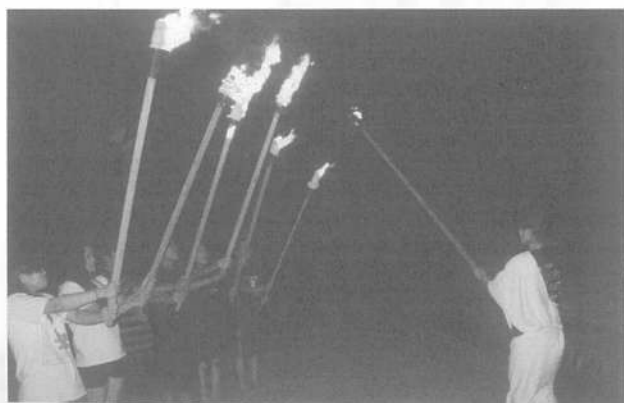
7月20日（火）オリエンテーション・ウェルカムパーティー



7月21日（水）県庁表敬・自然学習（海洋博記念公園・エメラルドビーチ）



7月22日（木）自然学習（東の沢）・交流プログラム（キャンプファイヤー）



7月23日（金）歴史学習（首里城）・文化学習（県立博物館・三線、紅型体験教室）



7月24日（土）平和学習（平和祈念資料館・平和の礎）社会学習（マチグラー散策）



7月25日（日）歴史・社会学習（ワークショップ） エイサー披露



7月26日（月）学習成果発表会・修了式・さよならパーティー



7月27日（火）～28日（水）見送り



ジュニアスタディツアーに参加して



輝美 タバレス 玉寄 マリア エドゥアルダ
 TERUMI TAVARES TAMAYOSE MARIA EDUARDA
 17歳 4世
 ブラジル連邦共和国
 Federative Republic of Brazil
 ブラジル沖縄県人会



ジュニアスタディツアーに参加して

『玉城照美です。よろしくおねがいします』と言っ
 てから急に懐かしく心が温くなりました。

私にとってJunia Study tourは 今までに一番心に残
 る出来事で私の宝物です。私はブラジルで生まれて
 Junia Study tourに参加することが出来てから考え方が
 どんどん変わってきました、両親がそれぞれ違う国の
 間に生まれた私は、父の祖父母が生まれた沖縄の青い
 海、何処までも透き通った青い空、そして沖縄の皆さ
 んが優しくしてくれた心を体験でき、沖縄での楽し
 かった日々は私の人生の素晴らしい思い出になりました。

沖縄の言葉で『いちゃりば ちょで一』その言葉を
 聞いて本当に『一度会ったら みな兄弟一』と言う意
 味がよくわかりました。私は雨の音楽に感動しました、
 私は沖縄の砂で星の形を作りました、沖縄の空にかか
 る虹が唄っている歌を聴きました、沖縄の友達の笑顔
 を思い浮かべ心に書きました。

沖縄に着いた日にウチナーンチュの宝がこんなにあ
 るとは思っていませんでした。沖縄をさよならする日
 は涙そうそうでした。

沖縄の皆さん本当に有り難う御座いました。



新里 友三 イルトン 鈴木

SHINZATO SUZUKI YUZO HILTON

16歳 3世

ブラジル連邦共和国

Federative Republic of Brazil

カンボグランデ沖縄県人会



Junior Study Tour レポート

今から2年前、ジュニアスタディーツアーで沖縄へ行くことについての意味はまだ分からなかったが、私はジュニアスタディーツアーに参加するため試験を受けた。その当時、私は日本語学校に通っていたのだが、あまり熱心に日本語を勉強していなかった。そのため、点数はあまり良くなく、その年はツアーに参加することができなかった。

高校3年生になり、大学受験の年を迎えた。私は今年が一番忙しくなりそうだと考えていた。一日中勉強して、短い期間で将来のことを決めようとしていた。そのような中、母が「日本に行かないか」と私に聞いてきた。実は私が今年のジュニアスタディーツアーの参加者としてカンボグランデの沖縄県人会から選ばれたというのだ。私はとても驚いた。そして、私は今年のジュニアスタディーツアーに参加することとなった。

私は高校に通いながら、旅行の様々な手続きをしなくてはならず、始めは忙しかったものの、徐々に準備を進めていき、最後には準備がすべて整った。私は沖縄で何に出会うか分からなかったこともあり、出発まで緊張していた。

いよいよツアー当日、サンパウロ空港でブラジルとボリビアで他の参加者に会い、私は彼らとともに今回の長い旅に挑戦した。沖縄に到着し、私はまた緊張した。なぜかという、一度も会ったことのない親戚との接し方やコミュニケーションについて不安になったからだ。

だが実際は親戚とのコミュニケーションについては思っていたよりも円滑に進み、相手の言っていたことはほとんど理解することができた。しかし、私から相手に話をするときには頭が混乱してしまったことがあった。ホームステイ初日、私は親戚のことをよく知ることができ、親戚の方が私を沖縄のいろいろな場所へ案内してくれた。

ホームステイが始まって数日が経過した後、親戚とは一時的に離れ、他のツアー参加者に出会うこととなった。他の国のどのような人に出会うのかわからなかった。私には少し不安だった。そして、ツアー参加者

全36人が一つの教室に集まった。その中で、15人は沖縄県人、25人は他の国の方だった。ブラジル、アルゼンチン、ペルー、ボリビア、メキシコ、キューバ、アメリカ、カナダ、ドイツ、ニューカレドニア、日本。フランス語、ドイツ語、日本語、ポルトガル語、スペイン語、英語。これらの言語を話す人たちが、まだ出会って間もなかったこともあり、お互いに恥ずかしがりながらも、それぞれの文化について紹介した。

翌日、世界で二番目に大きい水族館に行き、海の生き物を見ることができた。その後、イルカのショーも見えた。続いて、海岸へ行き、ビーチサッカーをして、海に入った。海の後、つつじエコパークというとても美しいコテージへ向かい、二日間はそこに滞在した。滞在中は山でのハイキングや、前の年の参加者と一緒にバーベキュー、そしてキャンプファイヤーを楽しむことができた。また、その日から難しい課題が課された。それは四日間でエイサーを覚えることだった。毎日エイサーを練習できて、とてもおもしろかった。

ジュニアスタディーツアーはただの遊びではなく、沖縄の文化、第二次世界大戦のことを学ぶことができた。首里城という、中国によって作られた、濃い赤い色と金でできた城を見学することができた。そして、沖縄のものや動物、第二次世界大戦についての展示物がある博物館を訪れた。

私は三線や紅型染めを体験したが、あまり上手くはいかなかった。

各地を訪問している間のバスの中では、皆でカラオケを歌い楽しく過ごすことができた。それがツアー中の一番の思い出になった。

ツアーも終わりに近づいてくると、皆でできるだけ空いている時間を利用して、夜にパーティーをするなど、お別れのことを忘れようとしていた。

最終日の一日前、先生に習ったエイサーを発表した。習う時間は短かったが、それでも国際通りでいろんなお客さんの前で披露することができた。

最終日、皆とのお別れは辛かったが、旅行は終わった。そして、彼らとの新しい友情が始まった。ジュニアスタディーツアーを通じて、いろいろな経験をさせてもらい、新しい人と出会い、大事な友達を作

ることができた。もし二年前に参加していたら、その時はあまりに若く、十分に楽しむことができなかったと思う。この旅を通して、私は将来の夢を決めることができた。その一つは、再び沖縄へ行き、友達に会うことだ。

旅行中に出会った人、手伝ってもらった人、そしてカンボグランド沖縄県人会には感謝したい。また、この素晴らしいプログラムを組んでくれた沖縄県庁の皆さんにも深く感謝したい。私は沖縄県の文化を他国に知らせるかけがえのない体験だと感じ、他の人にもこの体験をぜひ伝えたいと思う。

ありがとうございました。

Relatório Junior Study Tour

A oportunidade veio há 2 anos atrás quando eu ainda não tinha uma noção de como seria viajar para Okinawa. Tive que fazer testes para tentar ganhar essa viagem, sempre freqüentei a escola japonesa, porém nunca levei com seriedade nos estudos. Acabei não passando no teste, perdi por alguns pontos e não consegui ganhar a viagem.

Esse ano é o ano mais corrido para mim, estou no último ano do colegial e irei fazer o teste para tentar entrar na universidade. Estava corrido para mim, estudando o dia inteiro e tentando decidir o meu futuro em pouco espaço de tempo, até que um dia minha mãe chegou para mim e perguntou se eu queria ir para o Japão, não tinha entendido direito até ela me explicar o que estava acontecendo. Acabei sendo escolhido pela Associação Okinawa de Campo Grande para viajar esse ano para Okinawa com o Junior Study Tour, foi uma grande surpresa para mim, era a minha chance de poder conhecer Okinawa.

No começo foi uma correria para mim, tinha que resolver vários assuntos da viagem e tentar acompanhar a escola ao mesmo tempo. Ao final tudo deu certo e acabei conseguindo entregar e resolver todos os arranjos para a viagem a tempo. Estava nervoso, não sabia o que eu iria encontrar em Okinawa.

Finalmente chegou o dia, iria enfrentar uma longa viagem pela frente. No aeroporto de São Paulo acabei conhecendo os participantes do Brasil e da Bolívia, juntos enfrentamos a longa viagem para Okinawa. Quando chegamos a Okinawa estava nervoso, não sabia direito como me comportar na frente de parentes que nunca tivera visto antes, achei que iria ser muito complicado para mim em questões de comunicação.

Não foi tão ruim quanto eu imaginava, foi até tranquilo, conseguia entender bastante o que eles falavam, porém na hora de dialogar me complicava um pouco. Nos primeiros dias de “Home Stay” pude conhecer muito bem os meus

parentes e passear bastante em Okinawa, até deu tempo para fazer algumas compras.

Após alguns dias de “Home Stay” chegou o dia de me despedir temporariamente e finalmente conhecer os outros participantes do Junior Study Tour. Estava ansioso, não sabia os tipos de pessoas de outras nações iria encontrar naquele momento. Nos botaram em uma sala com os 36 participantes, sendo 15 okinawanos e 25 de outras nações. Brasil, Argentina, Peru, Bolívia, México, Cuba, Estados Unidos, Canadá, Alemanha, Nova Caledônia(New Caledonia) e Japão. Português, Espanhol, Inglês, Francês, Alemão e Japonês, todas essas nações e línguas em um só local. Todos apresentaram suas palestras e suas apresentações culturais. Ainda era meio estranho para todos, muitos estavam tímidos ainda com a nova experiência.

No outro dia fomos ao aquário, vimos vários tipos de animais marinhos diferentes, era enorme o local, o segundo maior aquário do mundo. Após o aquário fomos ver a apresentação de golfinhos, algo que nunca tinha visto antes, e logo após fomos à praia, jogamos um futebol na areia e entramos no mar. Após a praia fomos para o nosso alojamento no “Tsutsuji Eco-Park”, um local muito lindo e tranquilo para se ficar. Ficamos 2 dias no “Tsutsuji Eco-Park” o tempo que ficamos lá agente pode fazer uma caminhada nas montanhas, algo que nunca tinha feito em esse tipo de local. Desse dia em diante fomos designados em fazer uma tarefa difícil, o de aprender tocar Eisa em 4 dias, todo dia tínhamos aulas de Eisa, nunca tinha experimentado, porém gostei muito de tocar. Tivemos churrasco com alguns participantes do Junior Study Tour passado e o Camp Fire no final do dia.

O Junior Study Tour não foi apenas diversão, aprendi muitas outras coisas sobre a cultura okinawana e o que eles passaram durante a Segunda Guerra Mundial. Visitei o castelo Shuri-jo, um castelo que fora construído pela China, boa parte dela implantada com ouros e uma forte cor vermelha. Visitamos museus, um com objetos e animais de Okinawa e o outro sobre a Segunda Guerra Mundial, o quanto inocentes de Okinawa sofreram nas mãos dos americanos, o museu mostrava histórias de pessoas que sofreram com a guerra, suas histórias escondidos em cavernas improvisadas e partes de uniformes e fotos de pessoas mortas na guerra, o museu tentava mostrar a importância de se não fazer guerra, o tanto que as pessoas inocentes perderam nessas batalhas e que não tinha nenhuma razão e vantagem em matar pessoas.

Tive também novas oportunidades, toquei Sanshin e fiz bingata, descobri que sou horrível nos dois. Nas viagens de local para outro local aproveitávamos nosso tempo para cantar karaokê no ônibus, uma das coisas mais divertidas

da viagem, todos escolhiam músicas e cantavam juntos, até eu me arrisquei a cantar uma, porém não deu muito certo.

À medida que o tempo ia acabando todos tentavam aproveitar o máximo do tempo possível, fazendo algumas festinhas de noite com o pessoal. Sim, ninguém queria se despedir e perder toda a amizade que fora feita dentro da viagem. No penúltimo dia apresentamos com o pessoal o que tínhamos aprendido com o melhor professor qualificado para nos ensinar a tocar o Eisa, não foi fácil aprender nesse curto período de espaço, porém foi um sucesso, tocamos na Kokusai Dori com várias pessoas nos olhando. No último dia foi o pior, tínhamos que nos despedir de todos os participantes, era o fim da viagem porém um começo de uma nova amizade entre todos.

Com o Junior Study Tour, pude aprender muitas coisas, conhecer pessoas de outros locais e fazer amizades importantes na minha vida. Tive sorte de não ter ido 2 anos atrás nessa viagem, eu ainda era novo e não tinha muita maturidade que tenho comparado nos dias de hoje. Graças a essa viagem pude fazer escolhas que eu ainda tinha dúvidas em decidir para o meu futuro, uma delas e voltar para okinawa para estudar e reencontrar com as pessoas que pude fazer amizades nessa viagem.

Gostaria de agradecer muito todas as pessoas que conheci e me ajudaram na viagem, a Associação Okinawa de Campo Grande por me dar essa oportunidade única e também ao pessoal de Okinawa por montar esse programa maravilhoso, dando oportunidades de outros países conhecerem sua cultura. E concerteza irei passar adiante a experiência que tive para as outras pessoas à respeito de Okinawa.

Muito obrigado.



与儀 ウイリアン 勇貴

YOGI WILLIAN YUKI

15歳 2世

ブラジル連邦共和国

Federative Republic of Brazil

ブラジル沖縄県人会



ジュニアスタディツアー レポート

2010には 僕は JUNIOR STUDY TOURで 沖縄へ 行ってきました。

はじめ JSTを知ったのは 去年さんかした 僕の いとこが 教えてくれたからです。かぞくの すすめで しけんを して、うんよくえらばれた ことを 僕は すごくうれしかったです。

ブラジルから 出る日は はじめて 海外へ 一人で 行くから 少し 心配でしたが ブラジルやボリビアの かたがたが いしょに 行ってくれたので 安心しました。飛行機の たびが 終わり なはの 飛行場へ ついたら しんせきのおばさん と おぢさんが 僕を むかえてくれて 沖縄で 買い物や はなびたいかいに つれていてくれました。みじかい 時間 だったけど いつも おじさんと おばさんと いろんな ところへ いき とても 楽しかったです。

JSTの プログラムが はじまったときは 英語や スペイン語が あまり わからない 僕が さんかしゃの みんなと うまく 話せるか ふあんでした。

さいしょの日は みんなは まだ はじめて 会うから あまり 話さなかったけど ウェルカムパーティー や 去年のさんかしゃの みなさん の ゲームで みんなを もりあげてくれました。

二日と三日目では おきなわの 自然を 体験しました。ちゅうみ水族館で 沖縄の いろんな 魚と 大きい ジンバイザメは すごかったです。そして エメラルドビーチでは あんなに きれいな 海の水を はじめて 見ました。次の日は ひがしのさわの 森のなかで たくさん あるきました。そして はじめて えいさ の れんしゅを しました。

四日と五日には しゅりじょうや 沖縄県の博物館で むかしの 人が 使っていた物や 沖縄に いる はぶや鳥も 見ました。

あとは 僕には はじめてやる さんしんと びんが たも しました。平和のいしじ と ひめゆりんの と の 見学は とても かなしかったです。戦争で なくなった たくさんの 人の 写真 や物を見て、

そして ひめゆりのと で けがを していた 人たちの ことを みていた 人の はなしを聞いて せんそうは いけないな と 思いました。

プログラムの 最後の 二日は みんなで れんしゅした えいさを はびょうしました、みんなで たいこを たたくのは とても 楽しかったです。そして 去年の スタッフが こくさいどおりの いろんな ばしょに つれていてもらいました。

飛行場では みんなと はなれてまた ブラジルへ 帰るのは とても かなしかったです。たったの 一週間で こんなに いい友達 や こんなに 学ぶとは 思いませんでした。僕は 沖縄 の みんなさん、ブラジル沖縄県人会、ジュニアのみなさん に こんなに いい体験を させてもらって 心からかんしゃしています。いまからは 国に 戻って ブラジル沖縄県じんかいを できるだけ 手伝いたいと 思います。

ありがとうございました。



呉屋 パウラ ダニエラ

GOYA PAULA DANIELA

17歳 3世

アルゼンチン共和国 Argentine Republic

在亜沖縄県人連合会



イチャリバ チョーデ

まず初めに自己紹介をしたいと思います。私の名前は呉屋パウラ17歳、ずいぶん前からこのツアーに参加した友人達の話聞きいており、いつかは自分も何度か面接を受けようと思いつながらも結局いつも何かの事情でそのチャンスを逃してきました。しかし今年の冬休みの終わるころに友人の勧めにより参加を決意しました。

他の候補者を目の前にしたときは絶対選ばれないという気持ちでいっぱいでした。決定のお知らせを受けた時は信じられないのと同時にうれしい思いでした。このツアーによって私の友人でもあるエリカのことをもっと知ることができました。空港で迷ってしまうのではないかと不安になりました。というのは、一人で遠くに行くのは初めてだったのと、会ったことのない親戚や40人近くの参加者に会うことの緊張感もあったからです。

沖縄に着いたときには信じられない気持ちでした。自分の祖父母の地を知ることになるなんて。。。たくさんの思いが頭の中を駆け巡りました。最初の5日間は親戚の家にお世話になり、その時に昔私の祖母が小さい時に住んでいた家に案内してくれました。日本語がわからない私に対しておじさんたちが一生懸命に昔話や沖縄の文化について伝えてくれました。

ジュニアスタディーツアーの他のメンバーと初めて顔を合わせるまでは待ちきれない気持ちと緊張感でいっぱいでした。

最初は参加者との友情どころかコミュニケーションも取れないだろうと考えていました。しかし、精一杯頑張ろうと決めていました。

その日はいろんな活動やオリエンテーション、さらに歓迎会が行われ、いままで抱いていた恥ずかしさを忘れ、みんなと打ち解けることができました。とても印象的な楽しい夜になりました。

2日目は私の大好きな自然についてでした。美ら海水族館に行きました。私の人生の中で一番美しいと思いました。イルカのショーを見た後はビーチに行きました。日が経つにつれてみんなとも更に打ち解けていくことができました。

3日目は東の沢と玉辻山へ歩いて行きました。虫の大嫌いな私にとっては恐怖の体験でした。ちょうど同じ日にエイサーの合同練習をしました。最高でした。私もアルゼンチンで祭り太鼓のメンバーをしているため、とても楽しむことができました。その後、前のジュニアスタディーツアーに参加をした人たちがバーベキューに加わりさらにキャンプファイヤーを囲んだゲームなどをして気がついたらみんなで踊っていました。

4日目には首里城に行きました。サンシンの教室にも参加をし、最後は美術館にも行きました。

夜はルームメイトが日ごとに変わる仕組みになっていたおかげでほとんどの女の子達と話すことができました。遅くまで互いの国の習慣についての話などをしながら少しずつすてきな友情が芽生えてきました。

5日目は平和について学びました。平和祈念館で戦争を生き延びた看護師の話がとても衝撃的でした。話が終ったとき手を差し出され挨拶をかわしました。その時、すごい時代を生きた女性に対し尊敬の念を抱きました。

6日目には沖縄移民について学びました。この日はウチナンチューであることの本当の意味をその場にいた全員が学ぶことができたと思います。

この日の夜がみんなと過ごす最後の夜だとわかっていたためみんな家に帰るのを惜しんでいました。ミニパーティーが大広間で開かれた後、平和通りでのパレードに出演するための最後の練習をしました。帰り道ではホームステイが1日でもいいから延びないかという思いになり、みんなと別れが近づいていると思うと、みんなで泣いてしまいました。

おじさん達が待っている家に帰った時みんなという時間が少なくなっているのを感じ切なさと同時に皆さん達と過ごせていることに幸せを感じました。

次の日みんなと会った瞬間抱き合いました。まるで長い間会っていないかのようなようでした。一人一人ジュニアスタディーへの感謝の気持ちを書き、それを読み上げる時、涙が溢れ言葉につまりました。

みんなで励ましあいながら読みあげました。一緒にいる最後の時だったのです。その後各国のプレゼンテーションが行われとても楽しかったです。“島んち

ゆの宝”をみんなで歌いながら泣いていました。ジュニアスタディーのTシャツを着ていたのでお互いメッセージを書きあいました。

お別れが一番つらかったです。たくさんの素敵な人と知り合えた喜びを感じていましたが別れてしまうのは本当につらかったです。

このたくさんの忘れ難い瞬間とこの2週間沖縄で過ごした日々、家族と再会できたこと、沖縄に行って41人の違う国の兄弟たちに会えたこと、この全てを実現してくれた沖縄県庁の皆様にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。カラオケ、笑い、会話、たくさんの“愛してる”をありがとう。毎朝起きるたびに、ジュニアスタディーに選ばれて本当に恵まれているという気持ちになります。お陰様でたくさんの素敵、かけがいのない思い出を作ることができました。

いつかまた沖縄でみんなに再会できることを夢見ています。この経験により私たちは血でつながっているという“絆”によりたとえ言葉がちがうといえども壁は越えられるということを全員実感したのだと思います。

みんなを愛してます！！

"Ichariba choode"

En primer lugar quiero presentarme, Soy Paula Goya y tengo 17 años.

Al principio siempre escuchaba a mis amigos hablar sobre la beca a Okinawa y sus experiencias, anécdotas y siempre me decía que al año siguiente intentaría ir a la entrevista pero por algún motivo u otro nunca pude presentarme.

Este año al volver de mis vacaciones, mis amigos me alentaron y me animé a ser una de las aspirantes para viajar. No me tenía mucha fe, ya que algunos de los chicos que se habían presentado estaban en mejores condiciones que yo. Sin embargo me eligieron y sentí una alegría inmensa en mi corazón, no podía creerlo, estaba atónita.

Al emprender el viaje pude conocer mejor a mi compañera Erika. Estaba ansiosa, con miedo de perderme en el aeropuerto, ya que era la primera vez que viajaba sola y nerviosa porque iba a conocer a mis familiares y a otros 40 chicos que compartían este sentimiento conmigo.

Cuando llegué a Okinawa no podía creerlo, era mi primera vez en la tierra de mis abuelos y muchas emociones juntas pasaron por mi cabeza. En esos primeros 5 días que pude pasar en la casa de mis tíos abuelos me llevaron a conocer la casa donde vivió mi obachan de pequeña y a toda mi familia que vivía en Okinawa. A pesar de que no hablo japonés, mis tíos abuelos se esforzaban

por explicarme y contarme acerca de mis antepasados, de la cultura de Okinawa y de hacerme sentir lo más cómoda posible.

Cuando llegó el momento de ir a encontrarme con los chicos del JST estaba realmente ansiosa y nerviosa, pensaba que iba a ser muy difícil entablar una conversación y más aun una amistad con ellos pero por mi parte iba a dar todo mi esfuerzo.

Ese primer día hubo actividades de integración y una fiesta de bienvenida que nos ayudó a apartar la timidez y a acercarnos y conocernos. Fue una tarde/noche muy divertida y dinámica.

El segundo día me encantó porque fue el día de la naturaleza. Conocimos el acuario Chura Umi, el más hermoso que vi en mi vida! , fuimos al show de delfines y por último a la playa. Cada día iba conociendo un poco más acerca de los chicos.

El tercer día fue el día de la caminata por Higashi no sawa y el monte Tamatsuji, fue muy impresionante por lo menos para mí, ya que les tengo terror a los insectos.□

Ese día tuvimos la primera práctica de Eisa que fue genial ya que yo soy miembro de Matsuri Daiko y lo disfrute muchísimo. Además fue la noche de la parrillada en donde los ex participantes hicieron juegos muy divertidos y luego vino la fogata que fue muy linda ya que nos pusimos a bailar.

Al cuarto día me gustó mucho conocer el castillo Shuri y el taller de sanshin y también fuimos a un museo de bellas artes.

Todas las noches distribuían de manera distinta las personas en los cuartos, y era una de las cosas que más me gustaba ya que gracias a ello pude conversar con casi todas las chicas. Nos quedábamos hablando hasta tarde de las diferentes cosas que hacíamos en nuestros países y de a poco y sin darnos cuenta se iba formando una linda amistad.

Al quinto día nos tocó el estudio sobre la paz. Creo que fue uno de los días más emotivos para mí porque recorrimos el museo de la paz y escuchamos a una de las enfermeras que sobrevivió de la guerra. Cuando terminó de hablar y me estrechó la mano para saludarme, sentí una sensación de respeto y admiración hacia ella, ya que es una mujer muy fuerte que superó el sufrimiento para que las personas conozcan de verdad acerca de lo que se vivió en esa época.

Al sexto día pude aprender y conocer acerca de la emigración okinawense, de la historia de Okinawa. Fue muy importante ese día porque todos supimos la verdadera importancia de ser un uchi nanchu.

Ese día sabíamos que era nuestra última noche juntos,

entonces hicimos una minifiesta en la sala de recepción. Nadie quería irse a dormir.

Luego de ese taller tuvimos nuestra última práctica de Eisa ya que nos íbamos a presentar en la esquina de Heiwadori. Cuando terminamos nadie quería volver a su homestay aunque sea por un día. Desde ese día ya comenzábamos a sentir que se acercaba el momento de despedirnos y comenzamos a llorar.

Cuando volví con mis tíos abuelos por un lado me sentía muy triste porque me estaba separando de los chicos por un día pero al verlos a ellos también sentí felicidad, los extrañaba.

Al otro día cuando volví a ver a los chicos, nos abrazamos como si nos hubiésemos separado por un tiempo largo. En el último día nos tocaba la presentación final de cada uno. Ese fue un momento indescriptible, cada uno debía escribir un pequeño agradecimiento dedicado al JST. Cuando fue mi turno para leer, las lágrimas no cesaban. Todos nos alentábamos ya que estábamos todos llorando o al borde de las lágrimas. Todos sabíamos que ese era nuestro último día juntos.

Al terminar de expresar nuestros agradecimientos, cada país hizo su presentación y fue muy divertido.

Cuando comenzamos a cantar Shimanchu nu Takara las lágrimas continuaron. Por último nos firmamos con mensajes hermosos las remeras que JST nos habían obsequiado.

La despedida fue lo más triste, fue un momento de abrazos y llantos, de alegría y tristeza. Alegría por haber conocido a estas hermosas personas y tristeza porque era nuestra despedida.

Por todos estos momentos tan inolvidables que pase en esas 2 semanas, por haber conocido más acerca de la vida de mis abuelos, por permitirme conocer y abrazar a mis tíos abuelos y por llevarme de Okinawa a 41 hermanos más que aunque seamos de distintas partes del mundo nos une la sangre Okinawense, quiero agradecer a la prefectura de Okinawa por darme esta oportunidad alucinante que supe aprovechar con todas mis fuerzas.

Gracias por los karaokes, las risas, las charlas, los "TE AMO". Cada día me levanto y pienso en lo afortunada que fui por haber sido seleccionada y compartir estos hermosos recuerdos del JST con ellos.

Tengo la esperanza de que algún día pueda volver a viajar y reencontrarnos todos. Finalmente todos pudimos comprobar que el idioma no es una barrera cuando la sangre nos une.

Los amo a todos!!!!



大城 エリカ クリスティナ

OSHIRO ERIKA CRISTINA

16歳 3世

アルゼンチン共和国 Argentine Republic

在亜沖縄県人連合会



2010年沖縄ジュニアスタディーツアー

私はジュニアスタディーツアーに参加をしてから世界を今までとは違う観点から見るようになりました。そして私の祖先や新しい仲間を見つけることができたことに感謝します。

今まで会ったことのない親戚に会えたことなど、この機会つくってくれたそして現実にくれたツアー関係者や参加者への気持ちは言葉では表せません。

沖縄に着いた日は自分がそこにいるという事が信じられませんでした。夜になっておばさんにご飯を食べに出かけました。タコスライスという料理を食べ本当においしかったです。それから他の親戚を訪ねたり、本部町やヤンバルの花火を楽しんだり玉泉洞ではお土産を買いました。他のツアー参加者と初めてあったときは凄く緊張をしていました。私の言葉はみんなに理解してもらえるのだろうか？逆に私はみんなの言葉を理解できるのだろうか？という不安でいっぱいでした。でもみんな必死に自分の言いたいことを伝えようとしているのをみて安心しました。そしてみんなとコミュニケーションがとれていくようになりました。

かんぽレクセンダーでのオリエンテーションが終わった後、ゲームを行い（いくつかのゲームは前回ツアー参加者が企画）みんなとの距離を縮めることができました。

そのあと各国の紹介を行い、最後にはウェルカムパーティーを行いました。その次の日は県庁を訪問しました。そこで私たちを迎い入れてくれたのは副知事でした。このツアーはこの方なしでは現実化されるものではないと思っていたのでこのような方たちの前にして感激していたのはいうまでもありません。

美ら海水族館、エメラルドビーチにも行きました。水族館は驚くほど美しく大きかったです。アルゼンチンの水族館では見ることのできない魚を見ることができました。

それから美ら海は世界で2番目に大きな水族館だということを知りました。ビーチはとても美しくアルゼンチンのそれとは少し違っていました。砂は白く水は透き通っていて水温もそんなに低くありませんでした。ホテルでは各国紹介の続きをしました。

翌日は朝早くから東の沢をトレッキングしました。谷の深いところまで行きたい組と、そうでない組に分かれました。私は深いところまで行く組に入り他の組みより早く歩き終わりました。そのあとミネラル水の水源に行き、驚くほど大きなダムを見ました。この日は自然について、たくさん学びました。

それと今までにみたこともない動物をたくさんみることができました。私にとって山を歩くのは初めての体験でした。そのあとエイサーの練習をしました。

それから前回ツアー参加者とバーベキューしました。最後はキャンプファイヤーで遊んだり踊ったりしました。

首里城へも行きました。城内の説明によるとこの城は、日本だけではなく中国の建築構造も取り入れられていると聞きました。しかし第2次世界大戦のときに破壊されて現在の首里城は殆んど復元されている建物だと知りました。首里金城、県立美術館も行きました。少ししかまわることができませんでしたが美しいデザインに触れることができました。その後は三線を弾きました。

初めての経験でしたがとても気に入りました。私の2人のおじさんとおばさんも三線を弾けるため少し彼らに近づけた気持ちでした。その後、紅型染めをしました。楽しく綺麗でしたがとても難しいものだとわかりました。ホテルに帰ったあとはエイサーの練習をしました。5日目は一番悲しい日でした。みんなで平和記念館に行き、戦争のビデオを見ました。そこではアメリカ軍についての説明と沖縄の人がそれに対してどのように戦ったのか、戦争の犠牲者の数などを知ることができました。記念館を見学して戦没者の名前が彫られている碑をみました。そこでタクヤ君は自分の親戚の名前を見つけました。宮原ルリさんの自伝を聞きました。戦争を生き延びた女性であり戦争の話をしてくれたのです。話が終わると1人1人握手をしてくれました。その瞬間みんな感動していました。少し落ちついてから、まちぐわあー、平和通り、国際通りをすべての参加者と歩きました。戦争時代からそのままにしてある通りも歩きました。陶器を売っている店がたくさんありました。ホテルに戻りエイサーの練習をしました。私と何人かの踊りができていない人たちは1

時間居残り練習をしました。とても疲れていたのですが先生も一緒に頑張りました。

文化てんぶす館の教室に参加をし、ここでは沖縄移民の話を聞きました。少し体を動かした後、お昼ご飯を食べエイサーの練習のあと発表会をしました。亀井ひでかずさんの生の歌声に合わせて踊りました。これは一生の思い出になります。その夜は何人かの親戚と一緒にご飯を食べました。帰国前日、文化てんぶす館で最後の合同練習をして発表会に備えました。それらが終わった後はさよならパーティーが始まりパウラと一緒にタンゴを踊りました。最後にみんなでエイサーを踊り、舞台の上でシマンチュウの宝を歌いました。お互いのTシャツにサインや寄せ書きをしました。お別れをしたあと、何だかツアーが終わったことが信じられない気持ちでいっぱいになりました。空港ではたくさん泣きました。早朝にもかかわらず他の参加者が見送りにきてくれました。

アウロレと3人帰りました。アルゼンチンについてはじめてしたことは沖縄で出会った1人とインターネットでの会話でした。来年ウチナーンチュ大会があるのでそこで会えたらと思っています。新しい友人たちとの出会いとこのツアーを通して得ることができた知識をいつまでも大切にしたいと思います。

このツアーをこれからもずっと続けて欲しいと願っています。なぜならこのような体験は他では得ることができないことであり、沖縄の文化を世界中に残していつて欲しいからです。本当にありがとうございました。

Okinawa, JST 2010

Haber participado del Junior Study Tour logró que viera el mundo desde un punto de vista diferente, conocer mis raíces, las de mis antepasados y nuevos amigos; sin mencionar que me dio la oportunidad de conocer a familiares que en mi vida había visto, y por todo ello no tengo palabras suficientes para describir qué tan agradecida estoy hacia todos los que hicieron posible este tour y también los participantes, muchísimas gracias.

El día que llegué a Okinawa no podía creer que estaba allí, siempre había querido ir. Llegamos a la noche y fui a comer con mi tía y probé el “taco rice” realmente me gustó. Los siguientes días visité a mis familiares, vi los hanabi en Motobu, Yanbaru, fui a Gyokusendou y compré regalos.

El primer día con los chicos del tour estaba algo nerviosa porque no sabía cómo sería, si me entenderían o si sería capaz de entenderles. Cuando vi que todos hacían lo posible para entender y hacerse entender me quedé aliviada, podía comunicarme. Luego de hacer la orientación en el Kamporekucenter, nos conocimos mejor mediante

juegos (algunos organizados por los ex-becarios), hicimos la presentación de algunos países y al final del día el “Welcome Party”.

Al día siguiente visitamos al gobernador, donde nos recibió la vice-gobernadora, sé que el gobierno de Okinawa fue el responsable del viaje, por lo que estaba emocionada, sin mencionar que estábamos ante una persona tan importante! Fuimos al Acuario Chura Umi y a la playa Emerald Beach. Es increíble lo grande que es el acuario, la verdad es hermoso, pude ver animales acuáticos que no hay en los acuarios de Argentina y aprendí que Chura Umi es el segundo acuario más grande del mundo. La playa es espectacular, prácticamente lo contrario a las playas de Argentina, la arena blanca, el agua cristalina y tibia... De vuelta en el hotel terminamos las presentaciones de los países.

Comenzamos el día con una caminata por Higashi no Sawa donde nos separaron en dos grupos, quienes querían entrar al río profundo y quienes no, yo estaba con los que no entraron y terminamos antes el recorrido y fuimos a una planta mineralizadora de agua, donde había un dique impresionante; ese día aprendí mucho sobre la naturaleza y vi muchos animales que nunca creí ver. Esta fue mi primera caminata por las montañas. Tuvimos nuestra primera práctica de eisa y luego hicimos una parrillada con los ex-becarios, por último el “camp fire” donde jugamos y bailamos.

La primera parada fue el Shuri-jo, pudimos entrar y nos explicaron que el castillo tiene influencias tanto chinas como japonesas, por eso posee ambos estilos de arquitectura y que fue completamente destruido en la Segunda Guerra Mundial, lo que se ve ahora es la reconstrucción total del castillo. Caminamos por Shuri-Kinjo. Fuimos al Museo Prefectural y Museo de Bellas Artes, donde estuvimos poco tiempo pero aún así pude ver hermosos diseños. Luego tocamos shanshin, fue la primera vez que lo hice y sinceramente me encantó, mis dos abuelos tocaban y mi tía también me hace sentir un poco más cerca de ellos; después teñimos bingatas, fue muy divertido y me pareció muy lindo, no sabía que tan difícil podía ser. Volvimos al hotel y tuvimos práctica de eisa.

El quinto día fue el más triste de todos porque fuimos al Museo Conmemorativo de la Paz, donde vimos un video sobre la guerra donde explicaban cómo fue la táctica de los Estados Unidos, cómo los enfrentaron los Okinawenses y cuántas personas murieron; recorrimos el museo y fuimos a ver las lápidas donde están los nombres de las personas fallecidas, allí Takuya encontró a un pariente suyo. Escuchamos el relato de la señora Ruri Miyara, una sobreviviente que nos explicó sobre su experiencia durante

la guerra, cuando terminó nos agradeció a todos por haberla escuchado y nos saludó dándonos la mano a cada uno, lo que nos conmovió aún más. Después de tranquilizarnos fuimos a caminar por el mercado Machigawa, Heiwa dori y Kokusaidori con los ex-becarios; pasamos por unas calles que siguen en pie desde la Segunda Guerra y allí hay muchos locales donde se hacen y venden cerámicas. Volvimos al hotel y tuvimos la práctica de eisa, un par de chicos y yo que no nos salía la coreografía nos quedamos una hora más, a pesar de la hora y lo cansados que estábamos todos, incluyendo al sensei, hicimos lo mejor que pudimos.

Fuimos a un taller en Bunka Tembusu Kan, donde nos hablaron sobre los inmigrantes okinawenses e hicimos un pequeño ejercicio, luego de almorzar seguimos con el taller hasta que empezara la última práctica de eisa. Después de los últimos preparativos hicimos la presentación y estuvo cantando Hidekatsu Kamei-san en vivo mientras bailábamos, fui inolvidable. Ese día era homestay y cené con algunos de mis parientes.

El último día antes de volver nos encontramos en Tembusukan, ensayamos y nos preparamos para la presentación final, terminamos y empezó el “Sayounara Party” donde tuve que bailar tango junto con Paula, al final todos hicimos eisa otra vez y cantamos “Shimanchu un Takara” arriba del escenario, firmamos las remeras y nos despedimos; no parecía una despedida y yo no podía creer que ya hubiese terminado.

El día de vuelta estábamos llorando en el aeropuerto porque algunos de los chicos del tour nos fueron a despedir aunque fuese muy temprano, éramos las primeras en volver junto con Aurore. A penas llegué a Argentina empecé a hablar con los chicos por internet y los extrañaba mucho, sería muy lindo encontrarnos en el Uchinanchu Taikai el próximo año.

Por todo esto vuelvo a agradecerles por todo, las nuevas amistades y el nuevo conocimiento. Espero que se siga realizando el tour porque es una experiencia única y debería seguir difundiéndose la cultura de Okinawa alrededor del mundo, muchísimas gracias.



喜久山 愛理

AIRI KIKUYAMA

17歳 2世

ボリビア多民族国 Plurinational State Bolivia

ボリビア沖縄県人会



2010ジュニアスタディーツアー

JSTについて聞いたときは不安もありましたが、参加してみようという気持ちになりました。ボリビアから外国に行くということは今回が初めてでしたが、日本の沖縄を知るチャンスだと思い、応募することを決意しました。

とても緊張する旅行でしたが、沖縄に向かう途中、引率者の新垣さんのおかげで緊張も少しずつほぐれていきました。ブラジルへ着いた時にはブラジルの参加者の皆さんと出会い、沖縄に着くまでにはもう友達になっていました。

ホームステイ先では親戚の方々のおかげで楽しい毎日を過ごしました。従兄弟達とも会いました。また、伯父のおかげで、私たちより後に着いたスーツケースも無事に私のところに届きました。

ホームステイ先での4日間はとても短く感じました。そして、いよいよJSTが始まりました。日本語が分からないことにとて不安を感じていました。みんなに励まされ、「大丈夫、日本語が分からなくても心配ないよ」と言われましたが、不安は募るばかりでした。その不安を抱え、ブラジルの参加者と再会しました。ブラジルから沖縄まで一緒だったというだけで昔から知っている友達に再会したようでした。最初のプログラムのゲームやダンスをとおして少しずつ不安も消えていきました。そのため、一日目の終わりには同じ言葉話を話さなくても、とにかく分かってもらおうという気持ちが、お互いの気持ちを通わせていることに気づきました。

ただ沖縄の文化、歴史、習慣などだけでなく、沖縄に住んでいる人たちの愛情と心のぬくもりを感じました。沖縄を知ることでウチナーンチュとしてのアイデンティティーを認識しました。

移動中のバスの中で参加者全員でカラオケをしました。一緒に歌った歌や、他の参加者の歌っている声は、今でも耳に残っていて、なつかしく思い出します。

エイサーの練習期間は短かったけれども、その短い時間をフルに利用し、皆で、力を合わせて、練習しました。私は、初めてエイサーを踊りました。とても貴重な体験でした。エイサーを教えてくれた先生、あり

がとうございました。

JSTではたくさんのことを学び、経験し、訪問しました。短い期間でこんなにたくさんのことを体験できたことは、言葉で言い尽くせないほどのです。

JSTをとおして一番印象に残ったことは、平和祈念資料館を見学したときでした。そこで、私たちのこれからの課題として人と人、国と国が仲良くなければいけないことを強く感じました。

最終日は皆と（新しい家族と）別れると思うと寂しくなりました。色んな国のダンスを見ることができました。そして、みんなで練習したエイサーの成果を披露しました。最後に、全員の感想を発表する場があり、みんなの声を聞いていると涙があふれてきました。母に言われたように「イチャリバチョーデー」、国は関係なく、みんなと家族になることができました。

ただ、ありがとう！という気持ちでいっぱいです。このツアーを企画してくださった皆様ありがとうございました。

これからもこのイベントが毎年できるよう祈っています。「どうも、ありがとうございました。」

P.S. 皆さんのことは忘れません。これからも日本語をもっと勉強し、またもう一度沖縄に戻ってきますから待っていてください。

JUNIOR STUDY TOUR 2010

Cuando supe sobre este Tour yo me anime a participar pero tuve un poco de miedo, pues sería la primera vez que conocería Okinawa-Japón y también la primera vez que saldría fuera de mi país Bolivia.

Fue un viaje realmente cansador, pero en el viaje fui perdiendo la timidez gracias a mi tutora la Sra. Mayumi, además conocí a los participantes de Brasil que se volvieron mis amigos antes de que comenzara el programa JST.

Los días que estuve con mis familiares pude conocerlos, me trataron muy bien y gracias a Dios ellos me ayudaron con el retraso de mis maletas, realmente estoy muy agradecida con mi tío y mi prima que me abrieron las puertas de su hogar.

Los cuatro días de estadía pasaron muy rápido, el primer día del programa estaba muy nerviosa y aunque varias personas me habían dicho que el no saber japonés no importaba mucho, no podía evitar preocuparme por eso, con esa misma inquietud me volvía a reencontrar con mis amigos de Brasil. Después de los juegos, y bailes gracias a los voluntarios parecía que todos eran amigos desde hace mucho tiempo atrás, lo más impresionante y algo que me impulso fue que entre nosotros no importaba el idioma; todos tratábamos de comunicarnos en japonés, inglés, español y hasta con señas.

Los días que pase en JST no solo conocí tantas cosas de Okinawa sino también lo cálido y cariñosa que puede llegar a ser su gente, también que los descendientes nos identificamos y llegamos a sentir a Okinawa como si fuera nuestra tierra. Era “kawaii” verlos y oírlos cantar a los chicos en el karaoke del bus, era gracioso realmente, nunca voy a olvidar sus voces.

Las prácticas de Eisa fueron pocas, pero supimos aprovecharlas a lo máximo, fue la primera vez que bailaba Eisa, me gusto mucho, muchas gracias sensei. Aunque se que hemos visitado tantos lugares, aprendido, visto y vivido tantas cosas juntos no me alcanzarían las palabras para expresarlo todo.

Una de las actividades que me impactó fue la visita al Museo De La Paz. Es algo que nunca olvidare, todo lo que aprendimos sobre la Paz y qué importante es que nosotros como hermanos o como Nación tengamos una buena relación.

El ultimo día debo confesar que estaba muy triste y sentía que me iba a separar de mi gran familia que habí a conseguido, varias personas lloramos al escuchar lo que cada uno había pasado en JST, Disfrutamos mucho los bailes típicos de otros países y bailamos Eisa por última vez. No importaba que seamos de diferentes lugares, como mi madre dice ICHARIBA CHOUDEE.

Solo me queda agradecer a cada uno de los participantes y a los organizadores por haber hecho este Tour tan especial, por favor no dejen de realizar este Tour pues vale la pena, realmente cambia vidas. DOMO ARIGATO GOZAIMASHITA.

Posdata:

Los amo a todos, prometo que me esforzare en aprender japonés para poder volver a Okinawa.



カナシロ ナカミネ カルロス ヤスヒデ

KANASHIRO NAKAMINE CARLOS YASUhide

16歳 3世

ペルー共和国 Republic of Peru

ペルー沖縄県人会



2010年ジュニアスタディーツアー

参加する前、友達を作ること、文化交流をすること、先祖に関してたくさん学び、そして行きたかった場所に行くことが自分を成長させてくれ、帰ってきてから役に立つことをいろいろと学び、人生のすばらしい経験になると期待していました。でも、みんなとコミュニケーションができ、楽しく過ごすことができるほど特別な物になるとは想像もしていませんでした。

初日は、新しい友達を作ったり、習慣・文化交流、お互い学びあったりするという期待で一杯だったというのを思い出します。実施したゲームや各国紹介のプレゼンテーションでいろいろなことを学ぶことができました。

2日目は、沖縄県庁を訪問した後は様々な国が参加した会議が行われた万国津梁館も訪問しました。それから、間違いでなければ世界で2番目に大きい美ら海水族館にも行きました。ビーチに行く前に、イルカショーを見ましたが、天気がよくなかったのにもかかわらず濡れるために一番前に座りましたが、結局濡れませんでした。その後、ビーチに連れて行ってもらい、お互いをすることができました。サッカーをしたり、海に入ったり、楽しい時間を過ごすことができました。

3日目は、前日に夜遅くまでみんなで自分の国について話し合ってたからお互いをもっと知ることができましたが、疲れていました。午前中は自然へのハイキングでした。1つのグループは濡れる道を通りました。とても楽しかったし、みんなで助け合いながら進んでいきました。午後は、初めてのエイサーの練習とパーベキューがありました。とてもおいしくて、たくさん食べました。夜はゲームがあり、キャンプファイアもありました。この日の最後にはみんながかけがえのない友達になっていたことに気付きました。

4日目は、首里城に行きました。前から行きたかった場所だったし、写真でしか見たことがなかったから貴重な体験になりました。それから、沖縄そばを食べました。とてもおいしかったです。その後美術館に行き、三線の弾き方、染色の仕方を学びました。夜は部屋の1室で集まりがあり、写真をたくさん撮りました。でも、うるさくしていたので自分たちの部屋に戻され

ました。

5日目は、平和祈念資料館に行きました。あるおばあさんが戦時中の攻撃によって苦しんだ体験を話してくれました。彼女は同じ過ちを私たちが繰り返さないように知ってほしかったのです。午後は国際通りに行きました。国際通りをずっと歩き重要な場所を訪問しました。太陽が出ていたのでとても喉が渴いていましたが、とてもおいしいジュースをもらい、飲み終わったら着いたときよりも喉が渴いていたことを覚えています。夜は最後のエイサーの練習とミニミーティングがありました。みんなでいる最後の夜だったので写真をたくさん撮りました。

6日目は、疲労が溜まっていました。それは、全然寝ていなかったからです。各国に移民した沖縄の祖先による歴史のクラスがありました。そこで自分のアイデンティティや自分の先祖について学ぶことができました。午後はエイサーの発表の準備に取り掛かりました。リハーサルの時まだ振り付けを間違えていましたが、発表の時、一生懸命やって間違えなかったからとても嬉しかったです。琉球国祭り太鼓とミルクムナリの歌手のショーを見ることができとても光栄でした。夜は自分たちの家に戻りましたが、みんなのことを思い出していました。そして遅くまでスピーチの原稿を書いていました。

7日目は、みんなを見る最後の日でした。「さようならパーティー」のために国際通りに集合しました。パーティーは私たちのスピーチで始まりましたが、僕はとても緊張していて、ちゃんと発音できなかったからみんな理解してくれたのかどうか分かりません。1人1人が気持ちのこもったメッセージを伝えたので僕は決して忘れません。その後、ナミエと一緒にペルーのプレゼンテーションを行いました。とてもおもしろく、楽しいダンス「エル・アルカトラス(El Alcatraz)」を踊りました。そして、最後にエイサーを踊りました。それから、別れの時が来ました。みんな抱き付き合ったり、みんなで分かち合った貴重な時間を振り返っていました。一緒に楽しい時間を過ごし、短期間でお互いを知り、全てを捧げ、そして残念なことにもしかしたらもう2度と会わないかもしれないかけがえのない友達、兄弟のような人たちと別れること

が僕にとってツアーの中で一番つらい時間でした。

次の日に帰国便が出るようになっていました、僕達よりも先に出た人たちと会えなかったことがとても残念でした。でも、JSTのスタッフの人たちが見送りに来てくれて、写真をたくさん撮り、別れを告げました。最後に会った一時を懐かしく思い出します。それは、最後に見る時だと思い、残念で、涙が落ちていきました。「帰りたくない!」「みんなとここに残りたい!」でも、僕はまた会えると思います。どうやってかわかりませんが、必ずまた会えます。今までありがとう。

とても気分がいいです。この機会を最大限に活かすことができ、いつでも自分らしさを発揮することができました。かけがえのない友達を作り、一時も無駄にしないかったです。

僕のような自分の先祖の国を知りたがっている人たちにこのような研修を提供してくれる沖縄県に感謝しています。そして、このような貴重な経験を与えてくれたペルー沖縄県人会に感謝をすると共に、さらに協力するという義務感を感じています。

「人間の友情を超える物はない。なぜなら、最も自由で、純粹で、濃厚であるから」

ヘンリ・ラコルダイレ

JUNIOR STUDY TOUR 2010

Antes de ir al tour, tenía muchas expectativas, quería hacer amigos, intercambiar culturas, aprender más sobre mis orígenes, y conocer lugares que yo anhelaba, sabía que sería una gran experiencia para mi vida, que me ayudaría a madurar como persona, aprendería muchas cosas, que después me iban a servir, pero nunca imagine que todo esto sería algo tan especial, que llegaría a poder comunicarme con todos, que la iba a pasar tan bien.

El primer día lo recuerdo como un día lleno de esperanzas por conocer gente nueva, poder intercambiar costumbres y culturas, y aprender uno del otro. Pude aprender mucho con los juegos que realizaron y con la presentación de los países.

El segundo día visitamos la prefectura de Okinawa, después el Centro de Convenciones Bankoku Shinryokan en donde ocurrió una reunión importante entre diversos países. Después visitamos al acuario de churaumi el cual tengo entendido que es el 2do más grande del mundo, y antes de irnos a la playa vimos una presentación de delfines en el cual a pesar del sol nos sentamos en las primeras filas para mojarnos, pero nunca nos mojamos. Luego nos llevaron a la playa, en donde nos pudimos conocernos mejor, jugamos futbol, nos bañamos y pasamos grandes momentos.

El tercer día estábamos cansados ya que una parte de la

noche la pasamos conversando cosas sobre nuestros países y nos pudimos conocer mas. En la mañana nos reunimos para ir al paseo natural, en el cual un grupo pasamos por el camino en donde te mojabas, fue muy divertido, nos apoyamos entre todos para poder seguir adelante. En la tarde hubo el primer ensayo de EISA y una barbacoa, estuvo muy rico, comí un montón. En la noche realizaron juegos y luego hubo una fogata. Al final del día me sorprendió mucho ver que todos ya éramos grandes amigos.

El cuarto día fuimos al castillo shuri y me pareció una gran experiencia ya que yo tenía muchas ganas de conocer ese lugar, ya que solo lo había visto por fotos después en la tarde fuimos a comer Okinawa soba, y estuvo muy rico, después fuimos al museo de bellas artes y aprendimos a tocar sanshin y a teñir una tela. En la noche tuvimos una reunión en un cuarto, y nos tomamos muchas fotos, pero tuvimos que regresar a las habitaciones porque hacíamos mucha bulla.

El quinto día fuimos al museo de la paz, una oba-san nos dio un testimonio de los momentos que paso en la guerra y lo mucho que sufrió con los ataques que ocurrían, y sus intenciones eran que aprendamos de ella para que no volvamos a realizar los mismos errores del pasado. En la tarde fuimos a kokusai dori en donde nos llevaron a caminar y a conocer lugares importantes, recuerdo que tenía mucha sed, por el sol, y después nos invitaron, un jugo muy rico, cuando lo acabe, tenía mas sed, que cuando llegue. En la noche tuvimos el último ensayo de EISA, y luego una pequeña reunión, era nuestra última noche que íbamos a pasar juntos y nos tomamos muchas fotos.

El sexto día fue muy cansado, ya que no había dormido casi nada, y tuvimos clases de historia sobre otros descendientes de okinawenses que emigraron de Okinawa a diferentes países, pude aprender más sobre mi identidad, y sobre mis orígenes. En la tarde nos alistamos para la presentación de EISA, ensayamos pero todavía me equivocaba en algunos pasos, tuvimos la presentación, y me sentí bien porque lo hice con muchas ganas y no me equivoque, tuvimos el honor de ver la presentación de Ryukyu koku Matsuri Daiko y del cantante de la canción Mirukumunari. En la noche regresamos a nuestras casas, y yo ya extrañaba mucho al grupo, y me pase la noche escribiendo mi discurso.

El séptimo día, era el ultimo día que iba a poder ver a todos, nos reunimos en kokusai dori para el sayonara party, empezó la presentación con nuestros discursos, y no tengo idea si me abran entendido, ya que me puse muy nervioso y no pronunciaba bien. Cada uno dio un mensaje muy especial lleno de sentimientos que nunca olvidare. Después realice junto a Namie la presentación de Perú, bailamos

“el alcatraz” un baile muy gracioso y divertido, y después bailamos por última vez EISA. Luego vino la despedida, todos nos abrazamos y recordamos los momentos que compartimos, para mí fue la parte más difícil del tour, despedirme de grandes amigos, hermanos de corazón que pasamos muy buenos momentos juntos y me gusto mucho lograr conocerlos en poco tiempo y entregarles todo y me dio mucha pena porque pensaba que ya no nos íbamos a volver a ver.

Al día siguiente partía el vuelo y me dio mucha pena no volver a ver a los demás participantes de otros países, ya que sus vuelos salieron antes, pero amigos del JST nos fueron a despedir, nos tomamos muchas fotos, nos despedimos, y aun recuerdo con mucha nostalgia los últimos momentos que nos vimos, ya que pensé que era la última vez que los iba a poder ver, me dio mucha pena y cayeron muchas lagrimas, ¡ya no me quería ir! ¡Quería quedarme con ustedes! Pero yo se que si nos vamos a ver, de algún modo pero los voy a volver a ver. GRACIAS POR TODO.

Me siento bien, ya que pude aprovechar esta oportunidad al máximo, di lo mejor de mí en todo momento, ice grandes amigos y no desperdicie ningún momento.

Estoy muy agradecido con la prefectura de Okinawa por brindar este tipo de becas a personas como yo, que tienen muchos deseos de conocer el país donde vienen sus antepasados. Y me siento comprometido de apoyar más a mi kenjinkai, al cual estoy muy agradecido por brindarme esta gran oportunidad.

“La amistad es el más perfecto de los sentimientos del hombre, pues es el más libre, el más puro y el más profundo.”

Henry lacordaire



ムラタ ウエズ ナミエ エリカ

MURATA UEZU MAMIE ERIKA

13歳 3世

ペルー共和国 Republic of Peru

ペルー沖縄県人会



2010年ジュニアスタディーツアー

2010年のJSTに参加する機会を与えてくれた沖縄に感謝しています。

誕生日の日に私は友達と一緒にいました。すると突然母から電話がありました。

「ナミエ、あんた沖縄へ行けるのよ。」

私は興奮のあまり大声で叫んでしまい一緒にいた友達が驚いてしまいました。長い間 答えを待っていたのです。毎週土曜日にペルー沖縄県人会に行っては、「回答来てる？」と聞いていました。でも答えはいつも「まだ。」でした。私にとってこれは最高の誕生日プレゼントでした。

移動は長かったですが、やっと沖縄に着きました。信じられない暑さでした！

荷物をピックアップし、外ではJSTの人たちが待っていました。でもとてもおもしろかったのが、彼らは私たちがこんなに早く着くとは思ってもいなかったみたいだからです。でも…「着いたのです！！」ペルーの国旗を出し、写真を何枚か撮られました。

JSTの1日目はすごく緊張していました。何をしてもいいのかわからなかったからです。大ホールに入りJSTについて説明されました。その後みんな自己紹介をしました。それから、元参加者の人たちとゲームをしました。

みんなで踊ったラ・マカレナ(La Macarena)は一生忘れられません。ダンスが苦手な私が踊っていたのですから。

2日目はビーチ、そして水族館へ行きました。バス停まで行くのに階段を上がらなければならないことを覚えています。エスカレーターと普通の階段がありましたが、男の子たちが上まで上がる競争をしていたのがとてもおかしかったです。

カラオケも忘れることができません。みんなで歌っている姿がとてもおもしろかったです。

3日目は山登りをしました。道中、「あぶない!!!」や「だいじょうぶ？」などお互いを気遣う声が頻繁に聞こえました。

5日目は糸満とひめゆりへ行きました。戦争について見たり聞いたりするのはとても悲しかったけれど、

前へ進むことを抱かせてくれました。

その日は、エイサーの最後の練習の日でもありました。振り付けが覚えられなかった1グループは遅くまで練習しました。でもできるまで頑張りました。途中で止めることはありませんでした。その努力は自分の誇りであり、自分をもっとウチナンチューだと感じさせてくれました。

6日目は、国際通りで、練習したエイサーを踊りました。その日は、翌日のさよならパーティーのためにまた戻ってくるためにホームステイ先に帰りました。さよならパーティーの日はほとんどの人が泣きました。初めはみんなこのツアーで学んだことを発表しました。それから、まだやっていなかった出し物をしました。カルロスさんと私はたくさん練習をしていました。出来栄えのほどはわかりませんが、うまくいったと思います。

その日はたくさんの友達とお別れをしました。悲しかったです。「いつまた会えるのかな？」と、考えていました。

その夜楽しく過ごしたことを考えていました。色々な場所を知り、おじいちゃんが生まれた沖縄についても知り、たくさんの思い出と一緒に作った友達も出来ました。

空港ではJSTの友達が見送りに来てくれました。別れるのはつらくて、泣くのを我慢していたけれど、やっぱり泣いてしまいました。飛行機の中ではもっと泣き、沖縄で楽しんだ日々を思い出し、帰りたくなかったのです。

心に残る素晴らしい日々に、ありがとう！

みんな、お疲れ様でした！

Muchas gracias! Thank you! Muito obrigado! ありがとうございます！ DANKE SCHÖN! merci beaucoup! にふえーで一びる！

JUNIOR STUDY TOUR 2010

Quiero agradecer a Okinawa por haberme dado la oportunidad de participar en este JST 2010.

El día de mi cumpleaños estaba con un grupo de amigos y en eso recibo una llamada de mi mamá y me dijo:

¡Hija te vas a Okinawa!

Estaba emocionadísima, grite y mis amigos se quedaron mirando raro. Había esperado mucho tiempo, todos los sábados iba al kenjinkai y preguntaba: ¿ya está la respuesta? Y siempre la respuesta era un no. Ese fue el mejor regalo de cumpleaños.

Fue un largo viaje, pero al fin llegamos a Okinawa. ¡Que calor hacía!

Recogimos las maletas y afuera nos esperaba un grupo de JST. Fue muy gracioso por que pensaron que nuestro vuelo iba llegar mas tarde pero... ¡ya estábamos allí! Sacaron la bandera de Perú y nos tomaron unas cuantas fotos.

El primer día del tour estaba muy nerviosa, la verdad no sabía que hacer. Entramos al auditorio en donde nos explicaron de que trataba el tour. Despues de eso cada uno se presento. Luego hicimos unos juegos de integración con los exJuniors,

La Macarena, lo que bailamos, no lo voy a olvidar, a mi que no me gusta bailar... estaba bailando.

El segundo día fuimos a la playa ¡Y al acuario! Me acuerdo que para ir al bus teníamos que subir escaleras, había la eléctrica y la normal y me dio mucha risa cuando vi a los chicos haciendo una carrera hasta arriba.

Algo que no voy a olvidar va a ser el karaoke. Todos cantando, fue muy gracioso.

El tercer día subimos el cerro. En el camino todos nos cuidábamos a cada rato se escuchaba un ¡Abunai! O un ¡Daijoubu?

El quinto día fuimos a Itoman y a Himeyuri, la verdad ver y escuchar todo lo que decían sobre la guerra era muy triste pero me inspiro a seguir adelante.

Ese día también tuvimos nuestro ultimo ensayo de eisa. Un grupo nos quedamos hasta tarde ensayando, ya que no nos salía, pero ganbatteamos hasta que nos saliera. No paramos. Ese esfuerzo que hacía me enorgulleció, me hacía sentir mas uchinanchu.

El sexto día bailamos en kokusai dori lo que practicamos en eisa. Ese día teníamos que regresar a nuestro home stay para al día siguiente volver para el Sayonara Party.

El día del sayonara party muchos lloraron, al principio de la ceremonia cada uno hablo de lo que apendio en el tour. Luego pasamos con las presentacioes que faltaban. Carlos y yo habimos practicado bastante, la verdad no se como salió, espero que bien.

Ese día me despedi de mucha gente, estaba muy triste, ¿Cuándo nos volveremos a encontrar? Pensaba.

Esa noche me quede pensando de lo bien que había pasado. Conoci muchos lugares, conoci mas sobre la tierra de mis ojichans e hice muchos amigos con los que tengo muchos recuerdos.

En el aereopuerto un grupo del JST fueron a despedirnos. Fue muy difícil dejarlos y la verdad no quería llorar pero termine llorando. En el avión llore mucho mas, me acorde de todo los buenos momentos y de verdad no quería irme.

Por todos los momentos que guardo en mi corazón, Arigatou

Minna! Otsukaresama deshita!

Muchas gracias! Thank you! Muito obrigado! Arigatou gozaimasu! DANKE SCHÖN! merci beaucoup! NIGEE DEBIRU!



ペレス ギューラー 日出美

PEREZ GUERRA HIDEMI

13歳 4世

メキシコ合衆国

Estados Unidos Mexicanos

メキシコ沖縄県人会



ジュニアスタディツアー

ジュニアスターデューに参加したことは一生忘れられない経験です。この機会では沖縄の親戚とふれあうことができ、とってもよかったと思います。

親戚の皆さんと一緒に本家の墓に行って、祖先の話の聞きました。その後、おばあさんの家につれてもらいました。おばあさんはとっても親切で、折り紙を教えてもらったり、一緒に手作り巾着を縫ったりしました。初めての裁縫でとっても印象に残りました。従姉妹たちと一緒にビーチや買い物はとっても楽しかったです。

JSTの最初のパーティ?では、とっても緊張していました。いろんな国、それぞれの言葉だったけど。。。きつとみんな同じ気持ちでいたと思います。でも、少しずつ、違う言葉でもなんとかコミュニケーションができて、すぐに友達になりました。

美ら海水族館に行った日はとても楽しかったです。大きな魚、面白い魚、不思議な魚、怖い魚も見ることができました。その後ビーチに行きました。海で泳ぐ事が大好きなのでとてもうれしかったです。

つづじエコパークの遠足ではいろんな経験ができました。多分、JSTの中で一番楽しかった日でした。山の中を歩くのは面白かったです。何人かがドキドキしていました。その理由は虫が怖かったからです。誰かが冗談で『川の中で蛇を見たよ』と言った時、みんなびっくりしたけど、その後は大笑いしました。夜はおいしいバーベキュー、キャンプファイヤー、みんなと一緒に踊って、ゲームをして、とても楽しかったです。翌日、平和記念公園の見学ではJSTの中で一番心に残った思い出です。太平洋戦で沖縄の人たちが苦しんだ事は想像もできません。資料館ではこの戦争で看護士の活動した女性の話を聞いて、我慢ができず、涙を溢れてしまいました。戦争は二度と送るのではありません。戦争では苦しみばかりで、勝ち組はありません。

みんなと一緒にエイサーを踊る事ができたのは素晴らしいかったです。メキシコでミルクムナリを習ったけど、沖縄の練習や教え方は同じではないので、とってもいい経験でした。本番沖縄のグループのパフォーマンス

マスとフェーシーは言葉で伝えられない素晴らしさでした。

JSTに参加できた事は一生忘れられないと思います。ここで学んだ事は他のところで学ぶ事ができません。祖先の古里をもっと知る事ができて、沖縄県と沖縄の皆さんのすばらしさと優しさをわかりました。

沖縄でたくさんの友達ができ、いろんな人にお世話になりました。みんなと一緒に過ごした時間は短かったけど、幼い頃の友人のような感じでした。これからもこのままいい友達でいてほしいです。みんなが自分の国に帰っても、連絡を取るように約束をしました。

初めての一人旅行で、いろんな経験が出来たことは両親の応援があったからです。

最後に、この機会を与えてくれた沖縄県庁とスタッフのみなさんに心から感謝しています。

JUNIOR STUDY TOUR 2010

Ir al JST fue una experiencia inolvidable ya que en este viaje pude convivir y conocer aun mas a mi familia que se encuentra en okinawa.

Cuando estuve con mi familia visite la ohaka, esto me encanto porque es muy interesante aprender acerca de mis antepasados, luego mis tios me llavaron con mi abuela y me gustó mucho estar con ella porque me enseñó a hacer manualidades como el origami pero lo que mas me gusto fue que me enseñó a hacer unas bolsas de mano que yo misma hice cosiendo; cuando estuve con mis primas fue muy divertido porque me llevaron a la playa y a hacer algunas compras.

Me acuerdo que cuando llegue con las personas del JST estaba muy nerviosa y la verdad es que todos nos sentiamos así ya que eramos muchos y todos hablabamos diferentes idiomas pero a pesar de eso nos logramos comunicar y nos fuimos haciendo amigos conforme pasaba el tiempo.

El dia que fuimos al acuario yo estaba muy emocionada porque pude ir de nuevo al acuario más grande del mundo en donde hay distintos tipos de peces, algunos muy graciosos, otros que dan algo de miedo y uno que otro era muy raro; despues del acuario fuimos a la playa y como a

mi me encanta el mar y nadar realmente lo disfrute mucho.

Cuando llegamos al tsutsuji eco park hicimos muchas cosas y creo que fue la parte del tour en la que me divertí bastante porque fuimos a la caminata en la montaña y muchos le tenían miedo a los insectos que luego veíamos, pero yo me asuste cuando íbamos en el río y de repente los compañeros que iban conmigo hicieron una broma diciendo que habían visto una serpiente en el agua, eso fue muy divertido pero aterrador a la vez; cuando anocheció hubo una parrillada y la parte más divertida de esa noche fue la fogata que fue muy divertida porque bailamos y luego hicimos juegos muy divertidos.

Luego de ese día fuimos al museo de la paz fue una de las cosas más interesantes y más tristes que vi y hasta llegue a llorar porque en este museo me conmovió demasiado ya que se habla de la segunda guerra mundial y de cómo la vivieron las personas que vivían en okinawa en ese entonces. Lo que más me interesó fue que pudimos conocer a una de las enfermeras que vivió el terror y el dolor de aquella guerra, ella nos pudo platicar algunas cosas de lo que recuerda y nos dijo que no podía existir otra guerra mundial porque habría mucho sufrimiento.

Otra parte que disfrute mucho en este viaje fue cuando practicamos eisa, y me encantó ensayar mirukumunari porque a pesar de que yo sabía el baile me sentí diferente al practicarlo en el país en donde nació el taiko. Y me encantó cuando vi al grupo de taiko de okinawa bailar en una presentación, porque tenían cuando gritaban transmitían una sensación completamente indescriptible.

Esta ha sido una gran experiencia que nunca voy a olvidar porque en este viaje aprendí muchísimas cosas nuevas para mí sobre la bella Okinawa, tierra de mis bisabuelos. Además de que conocí a muchas personas que me apoyaron en todo momento y que poco a poco se fueron convirtiendo en grandes y muy buenos amigos a los que siempre voy a querer, recordar y que en estos momentos los extraño como si los hubiera conocido de toda la vida.

Agradezco a mis padres por su apoyo en este viaje, pues a pesar de ser todavía muy pequeña es la primera vez que viajo sola sin su compañía y ha sido una experiencia que me ha dejado muchas enseñanzas, muchos amigos y mucha gente buena con la que espero seguir en contacto.

Gracias al gobierno de Okinawa por esta oportunidad y a todos los que colaboraron.



フォンテス ゴンザレス キレイ

FONTES GONZALEZ KIREY

16歳 4世

キューバ共和国 Republica de Cuba

青年の島県人会



沖縄滞在の感想

ジュニアスタディーツアーは私の人生にあった最高のイベントの一つだというだけでなく、最も素晴らしいことだったと言えます。何故かという、親戚や、素晴らしくて忘れられない人々との出会いや、全然違う文化と伝統も知り、料理なども経験することができたからです。

学んだこと、経験したことが多すぎて、国に帰ってもほとんど毎日、沖縄でできた友達と一緒に沖縄にいる夢を見えています。彼らは友達というより、私の兄弟です。話し方、文化、肌の色、考え方が違いますが、みんな同じように、沖縄の血が流れているおかげで繋がっています。出身地がどんなに遠く離れていても、一生断ち切れない絆で結ばれていると思います。

最初はスペイン語を話せなかった人と友達になるのは少し難しかったけど、お互いにみんなのことを深く知りたかったので、コミュニケーションを取るために色々な方法を探しながら話し、また、身振り手振りで表現して会話しました。

滞在中の一週間、家にいるような、そして自国から出たと言うことを感じませんでした。5分おきと言ってもいいくらいに、性別に関係なく「TE AMO（愛している）」と叫んでいたことが印象に残りました。

一番悲しかったのは最後の日でした。ずっと泣いていました。日本語が分からなかったスペイン語圏の参加者はみんな理解のために準備されていた通訳用のトランシーバーをもらい、使っていましたが、通訳を聞いてしまったら泣いてしまうので、泣かないように何回もそのトランシーバーを外しました。

Testimonio de mi estancia en OKINAWA.

El Junior Study ha sido uno de los mejores sucesos de mi vida, hasta se puede decir lo más maravilloso; ya que en este me dieron la oportunidad de conocer a mi familia, a personas maravillosas e inolvidables, otra cultura totalmente diferente a la mía, otra tradición, otra comida, etc. Fueron tan impresionantes las cosas que aprendí que casi todos los días sueño que estoy en OKINAWA junto

a todos los amigos y amigas que hice en mi estancia, más bien hermanos y hermanas.

Pues me pude dar cuenta que nos diferenciamos en nuestra forma de hablar, en nuestra cultura, en nuestro color, en nuestra forma de pensar; pero nos une una cosa, por todos nosotros corre por nuestras venas sangre Okinawense, y, esto nos une para toda la vida aunque nuestro lugar de origen este a mil millas. Al principio fue un poco difícil hacer amistad con los participantes que no hablaban español, pero después era tanto nuestro anhelo de conocernos que buscábamos cualquier vía o forma de comunicarnos (hasta con mímicas o gestos). En toda esa semana me sentí como si nunca hubiera salido de mi país, me sentía en casa. Recuerdo también que cada 5 minutos nos gritábamos “Te amo” sin importar el sexo a quien se lo decías. El último día fue el más triste, ya que no parábamos de llorar a los hispanos que no sabíamos hablar japonés nos dieron traductores para poder entender, yo cada rato me lo tenía que quitar para poder de esta forma parar de llorar.



ケイ ジュリア アン

KAYE JULIA ANNE

15歳 2世

アメリカ合衆国

United States of America

ミシガン沖縄県人会



ジュニアスタディツアー 2010

ジュニアスタディツアーは沖縄について沢山の事を学ぶ場を私に与えてくれたのは他にはありません。また、私の祖先についてより理解が出来ました。

ツアーの初日に私は世界各国の人達と出会えましたし、こんなにも沢山の人々に出会えるとは思っていませんでした。また、英語圏住んでいる私には多くの言語を聴くのは驚きでもありましたが、他国の事を学べる場を作ったのが沖縄でした。

次の日は、とても独特なことを学びました。私は今回が初めての美ら海水族館の訪れですが、実際こんなにも凄い所だとは思っていませんでした。とても大きな水槽の中には今までテレビでも観たことない魚達が泳いでおり、後に沖縄の友人が言うにはいくつかの魚達は沖縄だけに発見された種類との事でした。沖縄独特の種類の魚が存在するのには驚きました。

トレッキングでは沖縄の自然の美しさを学びました。広大な草木の生い茂った中を私達は歩き巨大に成長した木の幹を観察の際、ガイドによる説明では世界一大きなどんぐりが幹の中で成長しており、また向かい側方向には世界一小さいどんぐりが沖縄に生存している事でした。また、私達は森の中の小川を通るとその小川は甘く安全な飲み水だとガイドの説明があり、私は試しにその水を飲んでみたら甘く、自然の中に新鮮な小川の水が存在するこの島に驚きました。

ツアーの4日目、私達は広大な歴史と美しい建物の首里城を見学しました。首里城の第一印象は外観と中も中国風な建物だと思いました。私達は中に入り城の歴史について沢山の事を学び、初期の城は大昔に建造したが戦争と悲惨な火事により観測者の記憶により再建築されたとの事でした。また、沖縄は中国と交友関係の歴史があり中国は日本国対沖縄の戦いの際に保護をし、沖縄からは奴隷達と産物を中国に送ったそうです。その為、城は中国の強い影響を受け建造され、金のドラゴン、赤色とゴールドの特徴のある内装がいたる所に観られました。深い歴史を持った城はとても興味深い事でした。

翌日、私達は平和祈念公園を訪れ沖縄戦の興味深い記録映画を観ました。アメリカの学校教育では何ひと

つ破壊的な沖縄戦について学ぶ事がなく、それ故に私は平和祈念公園に訪れるまで戦争についてまったく何も知りませんでした。

日本軍の防衛はアメリカと比べ劣っていた為、民間人が脱出する前にアメリカは陸を占領しました。民間人は戦火の狭間で殺されたり、田舎に逃走するがその後飢え死にした事実を知りました。沖縄は第二次世界大戦で悲惨な戦場になり、その後連続的な爆弾投下と敗北により日本軍は最終的に降服しました。現在は日本とアメリカは連合国となりアメリカ軍の基地が沖縄に健在し平和は二カ国間で確保されています。

祈念公園の後に私達はひめゆり平和祈念資料館を訪れました。最初に宮良ルリ先生の戦争体験談を聞きました。体験談は詳細な情緒で彼女が学生時代にクラスメイト達と負傷した兵士らを手当てした事でした。救急医療は洞窟の中であり、飲み水を得るには大変で彼女の役割はその水を汲みにいく事でした。敵の兵士に破裂弾と爆弾投下に用心したのは戦時中は民間人であろうが子供なども日本兵と同じくアメリカ軍に残忍に殺された事実でした。女学生達の日々は全ての事に用心しながら仲間が希望を見失えば励ましあい救助活動を行なったそうです。それはとても感動した語りで、私は忘れる事は無いでしょう。

最後にジュニアスタディツアーで私は沖縄の人々や文化など沢山の事を学びました。最も重要なことを学んだのは、平和祈念公園で平和は私たちの世界で一番大切なことだと悲惨な過去があったが明るい未来は築ける、また良い方向に変化することは途絶えないだろう。世界は過去の過ちを学び、そして明るく安全な未来を築けることだ。

私にジュニアスタディツアーの素晴らしい機会を与えてくれた事にとても感謝します。また忘れる事の無い素晴らしい思い出になりました。

Junior Study Tour 2010

The Junior Study Tour allowed me to learn so much about Okinawa, I wouldn't learn any other way. The Junior Study Tour let me understand my heritage at a greater level.

On the first day of the Junior Study Tour, I met people

from all around the world. I really didn't expect to see so many people, all in the Junior Study Tour. I was so shocked to hear so many languages being spoken, because everyone that lives around me, speak English. During the country introductions, I learned so much about other countries, and how they are connected to Okinawa.

The very next day, I learned something very peculiar. It was my first time visiting an aquarium, so I really didn't know what to expect. Walking by the immensely large fish tanks, I saw fish that I have never seen before, not even on television. My Okinawan friend later told me that some fish in the aquarium were exclusively found in Okinawa. It surprised me to learn that Okinawa had its own species of fish.

When we went trekking in the forest, I learned so much about Okinawa's beautiful nature. While going through the vast wilderness, we saw a tree that had a huge growth on the trunk, and the guide told us that it was an acorn inside the trunk. In fact, that tree had the largest acorn growth in the world. The guide then pointed in the opposite direction, towards a tree. He explained that Okinawa also has a tree with the smallest acorn growth in the world. We also encountered a stream in the woods. The guide told us that the water was sweet and safe to drink, and we could barely believe it! I tried the water, and it did taste sweet. It was so unbelievable to know that an island would have a fresh water stream.

During the next day, we went to Shuri-jo Castle, and I was astounded by the immense beauty and history of that place. I first noticed how the Shuri-jo Castle looked very Chinese, inside and out. We walked through the Castle, and I learned so much about the history of the castle itself. The original Castle was built many many years ago, but after the battles and a terrible fire, it was rebuilt, based on only the memory of observers. I also learned about Okinawa's relationship with China. China used to provide Okinawa with protection against Japan, and in return, Okinawa gave slaves and products to China. Chinese influences were very prominent throughout the castle. Golden dragons, the color red, and gold accents were seen everywhere in the interior. It was so interesting to look through a place that holds so much history.

The day after, we visited the Peace Memorial Park. We watched a documentary of the Battle of Okinawa, and it was so very interesting. In my American school, the curriculum doesn't even mention Okinawa, not to mention the devastating battle that took place there. Therefore, I knew nothing of the battle, before going to the Peace Memorial Park. I learned that Japan's defenses were no match for the United States', and so the United States

was taking up land before the civilians could escape. The civilians either were killed in the crossfire, or fled to the countryside, where they later died of starvation. Okinawa was the worst place to be during World War II. After consecutive bombings and terrible defeats, the Japanese military finally surrendered. Now years later, Japan and the United States are allies, and United States even has a military base in Okinawa. Peace has been secured between these two nations.

After leaving the Peace Memorial Park, we went to the Himeyuri Peace Monument. Upon entering, we went straight to a room to hear Ms. Ruri Miyara speak about her war experience. She spoke in great detail and emotion, telling us about how as a young school girl, she and her fellow school mates had to help wounded soldiers. She spoke of how the hospital was in a cave, and just to get water was a great challenge. She had the job of fetching water, and to do so, she had to be cautious of enemy soldiers, shells, and bombs. Because at that time, American soldiers would ruthlessly kill the Japanese people; soldier, civilian, child, it didn't matter. Therefore, the girls had to take great caution in everything they did. She also told about when her companions were losing hope, and her encouraging words helped them back up. It was such an inspiring speech; I don't think I could ever forget it.

All in all, from the Junior Study Tour, I learned so much about Okinawa, the people, and the culture. Most importantly, I learned from the Peace Memorial Park, that peace is the most factor in our world. The past may be horrid, but the future must be bright. There is no stopping of change for the better. Our world must learn from past mistakes, and create a brighter, safer future.

I am truly grateful to have had this amazing opportunity to take part in the Junior Study Tour, and it will be something I will always remember.



伊佐 ブラトニック リアナ

ISA LIANA

16歳 2世

アメリカ合衆国

United States of America

コロラド州沖縄県人会



ジュニアスタディーツアーを終えて

JSTの申し込みを提出してから、連絡が届くのを心待ちにしていました。沖縄に久しぶりに行けること、それも独りで旅ができることを知ったとき ずいぶんうれしかったです。でもあの時に頭に浮かんだことと

実際にJSTで体験したこととは全然比べられないものでした。このジュニアスタディーツアーは私の期待をはるかに超えていました。

ツアーは一週間という短いものでしたけれど、沖縄の自然・歴史・文化など、沖縄のすべての部分を教えてくれました。島の美しさと自然を守ることの大切さを学びました。私達のルーツと悲しい歴史も詳しく勉強して、平和の大事さが分かりました。県人会では経験できない、沖縄の文化に直接ふれあう機会になりました。

そしてこのツアーでは、世界中からの人達とふれあう機会にもなりました。同じルーツを持っている同世代のウチナンチューと話せる機会は初めてでした。また、沖縄の学生の参加者とも、貴重な時間を過ごしました。海外の参加者は、それぞれ違う言葉話を話すけれど、何人かと協力して、通訳や、ジェスチャーで理解し合ったり、新しい単語を学びました。

言葉の壁だけではなく、他にもいろいろな壁を乗り越えました。このツアーのおかげで 初めて独りで旅をしたり、ホームステイを経験したりしました。緊張しながらも、大勢の人の前であいさつしたり 発表したりしました。周りの状況にすぐ適応にできる柔軟性のある能力は、すごいことで、そして私達の世代に必要なものだと思います。ジュニアスタディーツアーの体験からもらったこの能力と沖縄について学んだことを力にし、きっと世界を改善できます。

母国に帰ってきて、私の体験してきたウチナンチューの文化を周りの人達に伝えたいというあふれる思いでいっぱいでした。沖縄空手のクラスで今回の体験を写真を使って発表してお土産の黒糖を皆で試食しました。そして沖縄県人会のピクニックでも会員やその家族の方に黒糖をふるまい、ツアーでの体験を伝えました。私が入っているコロラド州沖縄県人会にもっと役立ちたいです。メンバーの少ない県人会に

若い世代の人達を増やして盛り上げていきたいです。ジュニアスタディーツアー 2010年に参加できたことを大変感謝しています。

In Retrospect: Junior Study Tour

As I wrote my application essay for the Junior Study Tour, I did not know whether I would be selected to go to Okinawa or not, and I anxiously waited to hear back. When I finally did, I was elated to find out that I would in fact be going back to Okinawa. In anticipation for the trip, I envisioned my splendid time there. However, the experiences JST ended up giving me cannot be compared to what I imagined it would be—JST surpassed my expectations exceptionally.

The tour was a short seven days, but it gave us a complete 360° perspective of Okinawa. We studied the island's nature, history and culture, leaving out nothing. We saw the beauty and purity of the island, and learned the importance of protecting nature. We studied the story of our ancestors, from history of the people to the bitter stories of war. Through this, we learned necessity and importance for world peace. Most memorably, we experienced first hand the culture of Okinawa—something that is not possible to experience only at our respective local Kenjinkais.

In addition to everything that we learned about Okinawa itself, JST gave us the opportunity to meet people from around the world who share a history and culture. This was my first time being able to connect with people who are so similar to me in age, experiences, and ancestral roots. Interacting with the local students outside of the classroom was a new experience as well. Although the participants in JST came from all over the world, and therefore spoke a huge variety of languages, we sometimes had a difficulties communicating. But this did not stop us. We worked together translating from language to language, figuring out different ways to express what we wanted to ask or say, and in the end ended up learning new words and phrases in other languages.

Over the course of the tour, we not only overcame

the language-barrier, but also several other obstacles as well. It was the first time for many of us to travel without our family or to home-stay. We also had to overcome stage-fright, as we gave speeches, presentations, and performed eisa dance and other talents in front of large audiences.

This ability—the capability to be flexible and to adjust with our surroundings and overcome any sudden obstacles—is something amazing and also a necessity for the people of our generation. Along with this ability, the history we learned and the passion for peace we obtained from taking part in this tour can definitely allow us to better the world.

After returning home, I was overflowing with the urge to share my experiences with everyone around me. I gave an extensive presentation of Okinawa to my karate class to help them better understand the origin of the martial art they were practicing. And at my Kenjinkai's summer picnic, I told shared my experiences in Okinawa in front of everyone and shared the notorious brown sugar candy. My appreciation for my heritage has grown extensively; I would like to help out my Kenjinkai in any way possible. There are very few members, and I plan to promote the club and spread its interest among the younger generation in my community. I couldn't be more grateful for being able to participate in the Junior Study Tour 2010.



山城 カイル アレフ

YAMASHIRO KYLE ALEPH

15歳 4世

アメリカ合衆国

United States of America

北米沖縄県人会



ジュニアスタディーツアー 2010

幼少の頃から、僕は家族の沖縄のルーツには、めったに触れ合う事はありませんでした。ペルーの文化の中で育った僕は、沖縄について聞こうとも思わなかったです。中学時代に家族の友人が「ちゅらさん」と言うドラマが始まるよと紹介されました。最初は、あまり見たいという気持ちはなかったけれど、第1回のエピソードを見てからすっかり沖縄の文化に興味が湧きました。それから、沖縄へも行って見たいと思うようになりました。9歳の時、僕は、琉球民謡を教えます石原先生から三線を学び、沖縄についての本を読み、そして両親に沖縄はどんな所か尋ねました。やっと、ジュニアスタディーツアーで沖縄に行ける機会が与えられ自分自身の新しい体験に直面しました。

飛行機の旅は長くて疲れていましたが、沖縄に到着した瞬間からエネルギーが湧きました。次の日の朝になって始めて沖縄の暑さと湿気に気づきました。ホームステイの一週間は、朝早く起きて、叔父さんの仕事を手伝いました。その後、買い物や観光にも連れて行ってもらいました。沖縄の美しい白い砂浜を見た途端その風景にすっかりほれてしまいました。高速道路を走るのも楽しかったし、色々な沖縄の木や自然も見ました。ホームステイの一週間は、沖縄にいる親戚ともって親しく話し、買い物もして、そして体験したことのない事ばかりで、とても有り難く思いました。

ジュニアスタディーツアー (JST) の初日は、標準の手続き、登録、そしてルームの説明等があり、他の参加者とゲームをやり始めてから、やっと楽しめました。ゲームの後、部屋の割り当てがあり他の参加者に自己紹介をしました。英語とスペイン語を話せる北米と南米のメンバーとは、わりと早く打ち解けて話す事が出来ましたが、日本人の参加者とは話したいという気がしなかったが、みんながコミュニケーションの努力をしているのを見て、自己紹介する気になりました。短期間なのに、皆はすぐ仲良くなり、結局、このJSTで出会った方々は、僕の人生の中に大きい印象を残しました。

二日目と三日目は「自然学習」の日々でした。僕が一番楽しんだのは水族館でした。そのイルカ・ショー

は、見たこともない物で、すごかったです。ショーが終了した後は、みんな無言でした。アメリカにある遊園地、シーワールドのような体験を期待していましたが、このショーは、しとやかでリラックスした気分でした。水族館の後、ビーチで泳いだりして遊ぶ時間がありました。沖縄の温かいすみきった海と白い砂浜は、カリフォルニア州のことをすっかり忘れていました。そして、プログラムに順次してどんどん進む必要がありました。

次の日は東の沢を散策して、ハブに出会いました。危険なため、すぐ殺す必要がありました。4時間ほどハイキングした後、バーベキューとキャンプファイアがありました。その夜は、もってゲームしたり、エイサーを習ったり、お互いと知り合ったりする時間でもありました。集まっていたみなさんは、同じ言葉は話せなくても家族のようにいいコミュニケーションが出来、キャンプファイアでゲームで遊ぶ時間を過ごせた事が一つの良い思い出となります。ゲームでの競争心は激しかったけれど、でもみな協力的でしたし、だれも批判せず酷評されなかったです。これは、ツアーの中で感激した思い出となりました。

四日目は「歴史学習」でした。首里城では、沖縄の文化は、中国からの影響が大きい事を学びました。首里城はどのように潰して再建されたかとの説明もありました。その後、自分のペースで友達と首里城内を見学しました。その日は、那覇市伝統工芸センターに寄って、三線の練習もしました。沖縄で実際に三線講師と会えるのも、かっこいいと思いました。簡単な会話も出来たし、先生は、僕の三線を線引くレベルについてほめてくれました。その後、紅型を作りましたが、自分では、あまり良く出来てないと思いましたが、講習会では先生にほめられました。うれしい思いで一日が終わり、そして糸満青年の家で一泊して、又エイサーの練習をしました。

五日目はとても感動的な一日でした。ひめゆり平和記念を表敬訪問し、そしてマチグラーを散歩しました。ひめゆりの塔では、高いタワーを友達と見つけて、15分間ぐらい周囲の風景をカメラで写しました。マチグラーでは、いろんな物を見ましたが、サングラスをかけている豚の顔はとても珍しくおもしろいと思いました。

した。ぶらぶらして、ホテルに帰る時、バスでカラオケをしました。カラオケも非常にいい思い出になりました。歌える、歌えないは関係なく又、どの国の言葉に限らず、全員で歌ったり、手拍子で楽しんだりしました。これが、みんなと過ごせる最後の夜でしたので、スタッフは簡単なさよならパーティーを開き、写真ばかりを写したり、みんなと会えないさびしさをお互いに伝えあいました。

ツアーの最後の日、気が狂いそうでした。その日の一部はワークショップがあり、沖縄の文化が世界に広がっていることを学んだり、エイサーの最終お稽古もしました。長い時間頑張ってお稽古したため、結構うまく出来ました。太鼓のたたきもうまく合っていて、とてもいい感じでした。やっと終わって、周りの人の拍手を聞いた時、とても安心しました。エイサーのパフォーマンスが終わって、ホームステイに戻らなければならないかと思うと少々悲しくなりました。

車に乗る瞬間、もうすでに、ツアーで出合ったお友達がいなくなって寂しいとおばさんに話しました。僕は、スピーチを書く時には、心にあるすべての感情を書きたいと思いました。

さよならパーティーは、わらいと涙ばかりでした。スピーチをしながら、泣いた人も多かったです。男生徒の方も泣いていました。僕は、深い悲しみを感じました。パーティーは、午後5時に終わりましたが、皆は、抱き合ったり、写真を写したりして7時まで残りました。現在、電子メールやフェイスブックのサイトで連絡し合っています。それぞれの状況を知らせたりして、参加者達との再会を楽しみにしています。ニフェーデービル。ジュニアスタディーツアーの皆さん、2010年の夏は僕にとって最高の夏であった事に心から感謝しております。

Junior Study Tour 2009

Growing up as a child, I was rarely ever exposed to the Okinawan roots of my family. I was always raised by the Peruvian culture, and it never crossed my mind to ask about the Okinawan side of my family. It wasn't until my middle school years, that a family friend of ours introduced an Okinawan drama to us called "Churasan". I was a little hesitant at first to watch the drama, but it only took the first episode to get me interested in learning more about the Okinawan culture. I yearned to learn the Sanshin, more about Okinawa, and most of all, having the opportunity to visit Okinawa. At the age of nine, I was already enrolled in Sanshin classes with Ishihara Sensei, reading books about Okinawa, and asking my parents what it was like there. Now that I had the opportunity to go, I feel as though I have discovered a whole new side of me.

When I finally reached Okinawa after the long and tiring flight, my energy level rose. I was excited, for it was my first time being in Japan. It wasn't until the morning of the next day, that the humidity and heat of Okinawa had really hit me. Throughout the whole week of homestay, I would wake up early and help my Uncle with his work. Afterwards, he would take me shopping and sight-seeing. The moment I saw the beautiful white beaches of Okinawa, I fell in love with the scenery. Even the freeway was enjoyable to drive through, seeing all the trees and natural beauty of Okinawa. I was able to get closer to the family I have that resides in Okinawa, finish my shopping, and appreciate a lot of new things that I've never experienced before, during the week of my homestay.

The first day of the Junior Study Tour was all standard procedure. We registered, they went over the rules, etc. It wasn't until we played small games with each other, that I began to enjoy the time. After the games, we were assigned our rooms and during that time, I decided to introduce myself to the other participants. I was able to connect with the North American and South American members really quickly, mainly because I know how to speak both Spanish and English. I was hesitant at first to speak to the Japanese participants, but after seeing everyone else putting forth effort, I decided to happily introduce myself. Everyone got along so well in such a short time, and in the long run, these people that I had met in the tour have made such a huge impact on my life.

The second day and third day were "Nature Study" days. One place I really enjoyed was the aquarium. The dolphin show was the first I had ever seen, and it was so amazing! I was speechless at the end of the show. I was expecting some kind of Seaworld experience, but this was so much more graceful and relaxing. After the aquarium, we had time to swim and play in the beach. The warm and clear Okinawan water and white beaches seemed to just make me forget all about California, and I didn't want to leave anytime soon. The ending of the second day was bittersweet, only because I wanted to stay at the beach longer, but we needed to stay on track.

The next day, we went trekking through Higashi no Sawa where we actually encountered a live Habu next to the trail we were walking. They actually had to kill it right away, in order for us to not be in danger of getting bitten. We hiked for about 4 hours, followed by a big barbecue and campfire afterwards to satisfy our stomachs. We spent the night playing more games, learning Eisa, and just getting to know each other a little more. I'd actually have to say that the campfire was one of the most memorable moments because, during the games, we all acted like family and just

had such good communication, regardless of the fact that not all of us speak the same language. Everyone showed support in the competitive games, and no one was ever let down. I feel this was the most inspiring and influential part of the tour.

Day four was History Study day. We were able to go to Shuri-Jo Castle and we learned a lot about the Chinese influence on Okinawan culture. They had explained to us how they re-built the castle and how it became destroyed in the first place. We were given time later to just look around and see the building ourselves, with friends. That same day, we went to the Naha City Traditional Arts and Crafts Center, where we practiced Sanshin. It was cool seeing an actual Sanshin instructor in Okinawa. We were able to lightly converse and she had complimented me in my Sanshin skills. After, we began making "Bingata" fabrics, and although from my perspective, mine looked somewhat bad, the instructor had complimented me in my finished product. I was flattered and smiling the whole day. We stayed overnight at Itoman Seinen no Ie where we also practiced Eisa once again.

The fifth day of the tour was intense. We visited the Himeyuri Peace Monument, where we paid our respects, and strolled through the Machigwa Marketplace. In the Himeyuri memorial, there was a large tower that me and my friend found, where we spent about 15 minutes taking pictures of the view around us. In the marketplace, we all were allowed to look around, though I wasn't used to seeing the heads of dead pigs with sunglasses on. After the stroll, we made our way back to the hotel, killing time by singing karaoke in the tour bus. The karaoke had also been a very memorable part of the trip. It didn't matter if you could sing or not, or what language the song was, we all just either clapped or sang together. Because this was the last time we would be spending the night together, the staff had allowed us to have a short farewell party, where we just took pictures with each other, and told how much we would miss each other.

The last day of the tour was nerve-racking. First, we spent the beginning of the day doing workshops and learning about how Okinawan culture spread through many parts of the world, then came our last practice of Eisa. We practiced long and hard, and in the end it paid off. It sounded so good when everyone was on beat and in sync. A feeling of relief had broken through when we were finally done and all we could hear was the applause of the crowd. Sadly, everything comes to an end, and right after the Eisa performance, we had to return to our homestay.

I remember telling my Aunt the moment I stepped into the car to go to homestay, that I had already begun missing

my friends from the tour. When I prepared my speech, I literally poured my heart out and put all emotion into what I wanted to say.

The Sayonara Party was filled with smiles and tears. Many people had cried while giving their speech. Some of the guys were crying too, while I felt a deep sadness in my chest. The party ended at five o'clock, but everyone stayed until seven, just hugging and taking photos with everyone. We all still communicate through e-mail and even Facebook. We're constantly updating each other on how we are, and I really can not wait, until the day I see these people again. "Nihe Debiru". Thank you Junior Study Tour for making Summer 2010 my best summer ever.



当銘 紀沙

HISA KRISTINA TOUME

17歳 2世

アメリカ合衆国

United States of America

サンフランシスコ沖縄県人会



サンフランシスコ県人会の皆様

去った7月に沖縄ジュニアスタディーツアーに参加しました。それは、私にとって、とても大きな贈り物でした。時間と労力を割いて私を支えてくださり、この素晴らしいユニークな体験を実現させてくださった県人会の皆様、大変ありがとうございます。

この旅行で感じたものを少ない言葉で表現するのはとても難しいのですが、振り返ってみると、記憶、コミュニケーション、尊重といったいくつかの思いが浮かび上がってきます。

私は沖縄の人々の、勇気のある歴史のとらえ方に感銘を受けました。沖縄の人々は暴力や抑圧について過去と現在の実態を認識していますが、それは罪悪感や報復を促すために、騒ぎ立てたり話を言い換えたりするためではありません。資料、博物館、スピーチの中の個人の視点は、聞かせるという目的のためにはっきりとシンプルに表現されています。できるだけたくさんの方の声を聞くことは、歴史ができる限り真実に迫るということです。

看護婦として徴兵され、蒸し暑く重苦しい壕の中で働いた生存者の体験談を聞いた後、私は疑問に思いました。彼女が亡くなってしまったら、その真実は消えてしまうのだろうか？

もしそれぞれの聞き手一人一人が覚えているのであれば、それが忘れられることはないでしょう。

すべての人々がしっかりと落ち着き、かつ、力強く覚え続け、その視点を共有すれば、いつの日か人々は平和の価値を理解するようになるかもしれません。

また、それぞれが同じ言語を話す際の、コミュニケーションの自由と限界について考える機会を与えられました。今回、ボリビア、ペルー、メキシコ、キューバ、ポルトガル、ニューカレドニア、沖縄からの女子参加者と相部屋になる素晴らしい機会がありました。少ない言葉でもしばしば、よりはっきりと意思を伝えることができたと思います。また、動作を解説しようとするみんな啞然として座っていた、というような可笑しい瞬間が何度かありました。

ある晩、黒いムカデが床をはってきて、沖縄の子たち4人が悲鳴を上げて飛びあがりました。美人で、そ

して生意気なキューバのキレイはサンダルを拾うと、躊躇なくムカデを叩きました。「ありがとう！」「ありがとう！」「ありがとう！」それぞれが叫ぶと、キレイはスペイン語でたずねました。「あの子たちはどうして叫んだの？」また、私たちには共通の自意識、恐怖感、そしてユーモアもありました。ある夜は、眠りに落ちながら、またとない瞬間を見逃しているような気すらしました。

伝統、年齢、経験、差異、歴史、神聖な場所への畏敬の念は、沖縄の社会を特徴づけています。

沖縄の人々は外見、貧富、社会的地位に関係なく、内に秘めた尊厳と自信を抱いていることが分かります。また、公共施設はよく維持管理されていると感じました。そして、人々が高齢の方々に対して尊敬と愛情を抱いている様子にはとても心を動かされました。精神的、物理的な協調性の衰退が起こり、それが評価され、受け入れられるのは、それが自然のことだからです。誰の手にも負えないことに面と向かい合いながら、恐れを知らないその様子に驚かされました。

伝統的な舞踊であるエイサーは、沖縄のこのような特徴が入り混じっているものの典型ともいえます。それぞれの動きに、怒り、勇ましさ、反抗心、優美さ、喜び、安堵、緊張感、楽観主義、そして喪失感がこめられた凄まじいパワーをもつ壮大な踊りです。

沖縄での学びは主に、日本に対する米国の視点と比較できるような、より包括的な歴史評価への興味心をさらにあおり、私のここでの勉学に影響を与えました。大規模な軍事基地へ対し、米政府と沖縄の人の間に衝突があることは以前から知っていましたが、日本本土と異なる沖縄の文化的、歴史的差異という概念については深く考えたことがありませんでした。

自身のアイデンティティや歴史に対する沖縄の人々のとらえ方について、建設的な政策や教育を考えるために、過去の背景を取り入れてみようと思います。ディベートの授業は、これらの問題を指摘し、日本を自治国家であると捉えることに異を唱えるディスカッションをもつための理想的なフォーラムになっています。沖縄が今日の外交政策分析から避けられていることへの苛立ちを表した沖縄県による学術誌を滞在中にもらいましたが、まずはこの雑誌からリサーチを始め

たいと思います。第二次世界大戦中、沖縄は野蛮で発展が遅れていると日本本土から言われましたが、それでも日本人として同じように徴兵されました。

沖縄での経験は、私の言語、地理、時間の違いに対する理解に影響を与えました。ジュニアスタディーツアーへの参加を通して、私は世界中の人々と会話し、一人一人からその経験や思い出を聞き集め、自分のものへと吸収することができるようになりました。歴史が止まることはありません。理解しようという個々の努力によって生きたものとなるのです。

Kenjinakai San Francisco,

July of last summer I participated in the Okinawa Junior Study Tour. It was a tremendous gift. Thank you so much to each member of this community who supported me with their time and energy, making my unique and wonderful experience possible.

It is difficult to describe my feelings about the trip in a few words, but some ideas seem to surface throughout my reflections: the importance of remembering, communication, and respect.

I was inspired by Okinawa's courageous view of history. The past and present realities of violence and subjugation have been acknowledged but not sensationalized or retold to inspire guilt or retaliation. Personal perspectives, in literature, museums, and speech are expressed with clarity and simply for the purpose of being heard. Listening to as many voices as possible is as close to the truth as history can come. After hearing the personal story of a survivor conscripted to work as a nurse in damp and stifling caves I wondered if that truth would disappear after her death. It cannot be forgotten if each listener remembers. Powerful and composed women and men push themselves daily to remember, to share these perspectives so people may one day understand the value of peace.

I was also given the opportunity to think about the freedoms and boundaries of communication when individuals speak the same language. Sharing a room with girls from Bolivia, Peru, Cuba, Mexico, Portugal, New Caledonia, and Okinawa was a fantastic experience. In fewer words, I often communicated with greater clarity. There were also many wonderful moments in which we all sat dumbfounded, trying to decipher movements. One night a black centipede inched across the floor and the four Okinawan girls jumped up, screaming. Kirey, a beautiful and sassy Cuban girl picked up her sandal and slapped it against the centipede without reservation. "Thank you! Thank you! Thank you!", each exclaimed. Kirey asked in Spanish, "Why did they scream?". Yet, we shared the same

self-consciousness, fear, and humor. Each night when I fell asleep I felt as though I was missing a unique moment.

Reverence towards tradition, age, experience, difference, the past, and sacred spaces mark Okinawan society. I found that Okinawan people carry themselves with a quiet respect and confidence uncorrelated with their physical appearance, wealth, or social standing. Communal spaces were treated with care. I was extremely moved by the respect and love with which elderly people are regarded. The decline of mental and physical cooperation is experienced, appreciated, and accepted because it is natural. Fearlessness in the face of something no one has control over was shocking.

Eisa, the dance of tradition, typifies the intersection of these characteristics of Okinawa. It is an immense dance with tremendous power in each movement- anger, bravery, rebellion, grace, joy, release, tension, optimism, and loss.

My studies in Okinawa chiefly impacted my education here by further piquing my curiosity about a more inclusive evaluation of history that balances the perspective of the US with that of Japan and the US. I was previously familiar with the conflict between the US government and Okinawans as Japanese citizens in response to the large active bases, but a concept I had not considered in depth was Okinawa's cultural and historical distinction from mainland Japan.

In respect to the way in which Okinawans regard their identity and history, I am attempting to integrate the past into thinking about productive policy and education. Debate class has become an ideal forum to articulate these thoughts and open up a discussion that challenges representations of Japan as an autonomous country. This research began with Scientific Journals by Okinawan public officials given to me while in Okinawa that described the frustration of being circumvented in foreign policy analysis today. During WWII, Okinawa was classified as barbaric and backwards by mainland Japan yet conscripted as one.

My experience in Okinawa influenced the way I understand the distinctions of language, geography, and time. Through my participation in the Junior Study Tour I was able to listen and speak to people from all over the world, collecting the experiences and memories from each person and making them my own. History is not static, but alive through our attempts to understand it as individuals.



ボロウス ジェシー ケンタ

BURROUGHS JESSEY KENTA

16歳 2世

アメリカ合衆国

United States of America

ペンサコーラ沖縄県人会



沖縄ジュニアスタディーツアーについて

2010年のジュニアスタディーツアー（JST）に参加したジェシー・ボロウスです。アメリカのフロリダ州ペンサコーラ県人会から選ばれました。今回のツアーは私の今までの中でもっとも充実したものでした。アメリカから参加した7人の中の一人として選ばれてとても光栄に思っております。今回のツアーは今までのどのツアーにも比べられないほど思い出に残るものでした。世界各国から集まった42人、ドイツ、ニューカレドニア、ペルー、アルゼンチン、ブラジル、ボリビア、キューバ、メキシコ、カナダ、アメリカ、そして沖縄その人たちと知り合えてとてもよかったと思います。

初めてみんなと交流を持つ日に、どうやってみんなと知りあいになれるかと思い緊張していました。部屋に入り周りの人々を見て“ここにいるみんなと友達になることができたならどんなに素晴らしいことか”と思いました。そしてこのツアーの終わりには想像以上にみんなと親しくなれ、この1週間で41人というかけがえのない友を得ることができました。今回知り合った人々、もちろん県関係者の方々のことは決して忘れることがないと思います。誰一人孤立することなく、一人一人が結ばれ一つになった。こういう風に強く結ばれることができたのは私たちみんなが“ウチナアンチュ”の血を引いてるからだと思います。どこの国から来ようが、私たちはみんな沖縄という1つの共通点を持っています。

私はフロリダに住んでいますが、ここにいる友達で沖縄の血を引いてるのはほんの少しで、残りの友達は沖縄のことを知らない人がほとんどです。JSTに参加した人々とは特別な関係ができ、その関係は決してなくなるものではないと信じてます。

私は13歳の時にJSTに申請しましたがあの時は選ばれませんでした。今になって思えばあのときに選ばれなくてよかったと。3年前の私は現在に比べるといろんな面でまだまだ経験が足りなかった。でも今回沖縄に行ったら私は沖縄についていろんなことを知りたいという気持ちで満ち溢れていました。そして世界各国から来た人々とも3年前に比べるとずっと深く知り合えることができたと思います。

今回のJSTは県関係者の方々の協力がなければここまで素晴らしいものにはならなかったと思います。スタッフの皆さんはとても優秀ですすべての面で十分得る準備がなされていました。皆さんとても楽しく、エネルギーで、そしていつも笑顔の耐えない方々でした。最高のスタッフの皆さん、これ以上何も言うことがありません。そしてアメリカ、キューバ、ボリビア、ドイツ、ニューカレドニア、ブラジルからの引率者の方々もとても素晴らしい人でした。

人と知り合うということは時には困難なことです。でも41人のウチナアンチュと知り合えたのは何か特別なものでもあります。それはとても自然でたやすいものでもありました。1つの方法としてみんなでやったゲームは1つの緊張ほぐしのきっかけにもなったと思います。ゲームのおかげでみんなが親しくなれ1つになれたこと。特に感じたのは初日にゲームを行ったことによってみんながリラックスできたことそれはとてもいい考えだと思います。それとほかにもみんなと親しくなれる方法としてとにかくいろんな人と接する事、初日の部屋割りでは私は誰かアメリカから来た人と同室になりたいと思ってたけど、それとは逆にペルーから来たカーロスと同室になり、でも結果としてはその彼が今回のツアーでは私のベストフレンドになりました。1つ感謝してることは学校でスペイン語を習ったことが役に立ったということ。英語、日本語、スペイン語の3カ国語を通訳できたこと。お互いに片言の言葉でコミュニケーションを取り、すべて理解できなくても相手の気持ちがわかるほどになってました。

JSTの前に数回沖縄に旅行で行き、私自身沖縄についてはほとんど知ってるつもりでした。しかしそれは私の勘違いであることに気がつきました。沖縄はとても歴史が深く、とても美しい島であること。せめてあと数日あればもっといろんなことを学べたのではないかなと思うと残念です。それと玉線峯や伊江島などにも行くことができたならもっとよかったと。私の曾おじいさんは第二次世界大戦のとき米軍として伊江島に滞在していました。私の母方とは別に父方の方も何か沖縄とのかかわりがあったということ、今後機会があれば是非沖縄を訪ね、もっと沖縄について深く調べたいと思います。

JSTのプログラムはとてもすばらしいものでした。思い出に残ってる1つの中にみんなで夜遅くまでおしゃべりをしてすごしたこと。そのおかげでもっと相手のことを知ることができ、また私のこともみんなに知ってもらいきっかけができました。みんなでEメール、住所、フェイスブックを交換しあいました。私は人とのつながりはとても大切なことだと信じています。もしお互いの交流がなければここまでの友情を築くことができなかったと思います。JSTで得た関係をずっと大切に築いて生きたいと思います。

もう一つ楽しかった思い出としてバスの中でカラオケをしたことです。いろんな歌を歌ったけど、特にみんなの好きな曲は“トトロ”です。よくみんなで口ずさんでました。それとみんなが好きな言葉“テアモ”スペイン語で意味は愛してるよ。友情の愛という意味で、お互いに忘れることなくまたいつの日か再会する日が来ることができるのを信じてます。

先にも述べましたがJSTで学んだことや得た友達は一生忘れることのないほど思い出に残るものです。現在も多くの人と連絡を取り合っています。

このJSTのプログラムはほんとにすばらしいものでこれからもずっと続けてほしいと願ってます。ウチナーンチュの血を引いている人でまだ1度も沖縄を訪れたことがない人や数回しか沖縄に行ったことがない人にとって、沖縄の歴史や文化を学ぶのに絶好の機会だと思います。そしていつの日か私はアメリカからの引率者としてJSTに参加できたらいいと。そしてすばらしい機会を与えてくれた県人会と会長さんにもとても感謝しています。今回得たことはすべてが心の中に刻まれてて、決して忘れることはないと思います。

Okinawa JST Report

Hi, my name is Jessey Burroughs, and I went on the 2010 Junior Study Tour from Pensacola, Florida, Kenjinkai USA. It was one of the best experiences in my life. I am glad and lucky to have been one of seven chosen in America. I wouldn't have traded the trip and experience for anything. I am so thankful and blessed that I got to meet 41 other people from all over the world like Germany, New Caledonia, Peru, Argentina, Brazil, Bolivia, Cuba, Mexico, America, Canada, and of course Okinawa.

When I first went, I was kind of nervous, I didn't know what to expect. I didn't know how the people were that I was going to meet. When I first walked into the conference room, where everyone first met, I looked around and said to myself, "It would be awesome if I got to be friends with everyone in here!" At the end of the Junior Study Tour 2010, I made more friends than I could have ever imagined to make. 41 new friends in one week was an

absolutely amazing experience. I will never forget the faces of everyone I met, including the staff. I loved how easily everyone got along, there were no separate groups between everyone and everyone came together as one. I think it was easy because we are all part uchinanchu. No matter where we came from, we all had that one thing in common, and it was phenomenal. In Florida, my home, I only know of a small handful of people who are uchinanchu and the rest of my friends are American with no Okinawan lineage. There was a special connection between everyone and that connection will never diminish or disappear.

I applied for Junior Study Tour three years ago and wasn't chosen, I was bummed at that time. But now that I think of it, I am glad that I didn't get to go three years ago, because three years ago my want to expand my knowledge was limited compared to now. This past summer when I went to Okinawa, my mind was ready to soak up as much information as I could. Plus, if I went three years ago, I wouldn't have met such great people from all over the world, my amigos, my friends.

Junior Study Tour 2010 wouldn't have been successful without the amazing staff. The staff was so organized and always on top of everything. They were all so much fun and were always energetic with the biggest smiles on their faces when seeing us. I believe we had the best staff members and I wouldn't have wanted anyone else. Included with the amazing staff were the representatives from the countries, like America, Cuba, Bolivia, Germany, New Caledonia, and Brazil.

Meeting new people is not always an easy thing to do. But meeting the 41 uchinanchu was something spectacular. It seemed so natural and easy. I think that the games we played helped a lot because they served as ice breakers. The games made everyone interact with each other and work together as one. Doing that on the first day was the best thing to do to start the trend for everyone to start interacting with each other. I think another factor that helped start communication with the others is that we had different roommates almost every night. At first, I had hoped I got to room with someone from America so communication would be easy, but I got to room with Carlos, who became my best friend from this trip, and he was from Peru. Thank goodness I learned Spanish in school because that helped out a lot through the Junior Study Tour as I ended up translating between English, Japanese, and Spanish. He knew as much English as I knew Spanish. Communication was fun and yet an interesting experience. We easily figured out what we were trying to tell each other. That easy communication clicked between everyone.

I've been to Okinawa a few times before the Junior Study

Tour and I figured I knew pretty much all about Okinawa, but I was proven incorrect. Okinawa is full of so much history, fun, and beauty. I was disappointed when I found out we couldn't do everything in Okinawa because of the short amount of time we had. I wish we would have had at least a couple more days together. I would have liked to have gone to the Okinawa caves and Ie Jima. My great grandfather served in the United States Army and helped defend Okinawa from the Japanese on Ie Jima. So part of my family history is in Okinawa, besides my mom's side of the family. I would love to visit Okinawa again in the future to explore and learn more.

What an awesome program the Junior Study Tour is! I had the best time in my life. My best memories of the Junior Study Tour are the night everyone stayed up until 2 in the morning, just hanging out and talking with each other. I got to learn more about other people and their lives in their home country, and they got to learn about me. We shared each other's email addresses, home addresses, and Facebook usernames so will always be in contact with each other. I believe communication is very important between people. If we lose communication with each other, relationships will be lost and I never want to lose all the friendships that were created on the Junior Study Tour, memories I will always remember and keep in my heart.

Another amazing memory I have of Junior Study Tour was karaoke on the bus. That was so much fun! We sang a lot of original songs that everyone knew, especially TOTORO. When everyone was first introduced to this song on the bus, Totoro was always being mentioned. Another phrase that became latched on to everyone was "Te Amo!" which means "I love you". The friendship "love" in the phrase is saying that we will never forget each other and we will all meet again some day. And I really do hope we will all meet again someday.

Like I mentioned earlier, Junior Study Tour 2010 was one of the best experiences in my life and I will never forget all the fun memories and friends I have made. I still, up to this day, keep in contact with all the Junior Study Tour members, including the staff and the representatives.

I hope this great program continues for a really long time. It is a perfect opportunity for those who are uchinanchu but have never been or rarely been to Okinawa to study their culture and history. And one day, I would love to get the opportunity to be a representative for America or a staff member of the Junior Study Tour in the future. Thank you Okinawa Kenjinkai and Kazuko san, the president of the Pensacola, Florida branch of the Kenjinkai, for such an amazing experience that will never perish from me. I will never forget everyone and everything we did together.



喜久山 ユキ

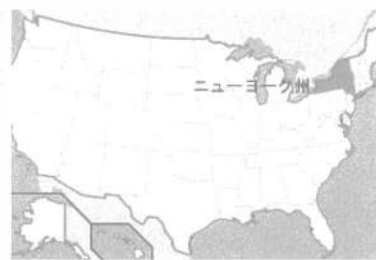
YUKI KIKUYAMA

17歳 3世

アメリカ合衆国

United States of America

ニューヨーク沖縄県人会



2010年JSTレポート

今回は、人生に一度あるかないかって言うぐらいのチャンスが、私におとずれました。私は1999年にアメリカに来てから、一度も外国へ行きませんでした。アメリカに来てからの11年間は、"メルティング・ポット"の文化を私の中の日本とペルーの文化に取り入れて暮らしてきました。私は自分の祖先の事はあまり知らなくて、おじいちゃん達は沖縄からペルーに渡った移民で、もっと豊かな生活が出来るように頑張ったと話は聞いていました。しかし最近になって私は沖縄にもっと興味を抱くようになりました。

2007年に私と私の家族はニューヨーク沖縄県人会のメンバーになりました。それ以来、会の集まりがある度に私はダンス、歌、食べ物、言葉などと、沖縄の文化にもっと触れるようになっていきました。私は自分のバックグラウンドの事をもっと学べてとても嬉しかったですが、沖縄に行って本当の自分の故郷に行ってみたって言う気持ちが少しずつ芽生えてきました。

兄からジュニアスタディーツアーの事を聞いた時は驚きました。こんなに素敵なプログラムが存在するんだと私は感動しました。私はJSTに応募したところ、数日後に受かったと言う連絡を聞きました。私は驚きと喜びでいっぱいでした。なぜなら、私はアメリカに来てから一度も外国へ行った事はなかったですし、その上夢だった念願の沖縄行きが決まったからです。私にとって7月は本当に長かった月です。JSTが待ち遠しくて落ち着いていられませんでした。そして、早く沖縄に着いて沖縄独特の開放感あふれる私の故郷に行きたいと思っていました。

14時間の旅のあと、私と兄は那覇空港に着きました。すでに違う雰囲気でした。人を外向かう他の人々、メンソ〜レ〜と言っているシーサーなど早速沖縄の雰囲気まんせんでした。そして私達のホームステイ先の友達が出迎えてくれました。その人は兄の友達ですけど、私も彼女に会うのは数年ぶりでした。そして彼女の家に行きました。最初の五日間の自由時間は色んな事をしました。兄、友達、私の3人で伊江島に行きました。色んなところで美味しい物を食べたり、海などに

行ったりして自然の写真をたくさん撮りました。国際道りにも行って買い物をしました。那覇の街はとても賑やかでたくさんの人達がとても元気に商売をしたりショッピングを楽しんだりしてました。この雰囲気もあったせいか、私は日を追うごとに沖縄がもっともっと好きになっていきました。

5日目の終わりが近づくに連れて、私は少しずつ緊張していきました。私は日本語がそんなに流暢に喋れないから、JSTが始まったら私は友達が作れるのかどうか心配になっていきました。しかし当日、カンボホテルに着くと、私と同じぐらいの年齢の人達がいっぱい集まって、スタッフの一人が私をカナダ組の参加者達に紹介してくれました。私は早速みんなと意気投合して急に楽しくなってきました。そして少しずつ、他の国の参加者達とも話しをして緊張がだんだんなくなっていきました。私は最初のミーティングでとなりに座ったコロラド州出身のリアナちゃんとても仲良くなりました。30分もしないうちに、私は早く参加者達みんなとお話がしたいなと思ってわくわくしていました。

最初はゲームをしたり、自己紹介をしたりとお互いの事が学べる事をしました。そして、参加者達の出身国の勉強をしたりと結構もりあがりました。JSTのスタッフ達はみんなが楽しめる事をたくさん考えてくれました。この日のディナーではみんなで一緒に乾杯をし、一緒に食べて、一緒に笑ったりしてここからみんなだんだん仲良くなっていきました。8時ぐらいになったらみんなでブラジルのダンスを踊ったり、BEGINの島人ぬ宝を歌ったりしてウエルカム・パーティーを無事終わりました。凄く楽しい一日となって、私はその日の夜はなんの心配もいらないんだ!と思ってほっとしました。

次の日は荷造りをして県庁に向かいました。私達は国ごとにならび、沖縄県知事の挨拶を待ちました。沖縄県の代表者達の挨拶の後、みんなはJSTの参加者達の沖縄訪問を心から喜んでくれてるんだなと私は思いました。

自然学習は美ら海水族館から始まりました。さすがに世界で一番大きい水族館の一つと言われている美ら海水族館はみんなの笑顔を見て分かるように、入る前か

らみんなに期待と興奮を与えています。ある人達は一番人気のサメやマンタ、エイなどを見て一番喜んでいましたが、他にも珍しい魚や生き物達、滅多に見られないものをたくさん観察している者もたくさんいました。みんなは興味深々で水族館内をまるでスローモーションで歩くかのように見学しました。水族館を出た後はイルカ・ショーを見ました。凄く高く飛ぶイルカ達を観た後は、みんなは暑さでへとへとでした。次は真夏の日差しで熱くなった体を冷やしに、エメラルドビーチと言うところに行きました。みんなはビーチバレーをしたり、陰で涼しんだりして一旦リフレッシュする事が出来ました。そしてその後は、つつじエコパークに向かいました。

エコパークはもしかしたら私が一番気に入った場所かもしれません。なぜなら一番自然に触れていられた場所だからです。つつじエコパークにいた二日間、私達はバーベキューをしたりしてみんなと一緒に楽しい時間をすごしました。他にも川でのトレッキングやキャンプファイヤーなどもしました。この二日間で、私達は自分達がどれだけうちとけこんでいるのかを証明出来たと思っています。例えばトレッキングなどでは、男の子達は、他のみんなが溺れないように見守ってくれてました。こう言う機会でもないグループでの団結力って言うのはなかなか試せられないと思うんですけどこの時みんなは、まさに一致団結でした。

もう一つJSTでとても楽しかった事は部屋割りでした。2日おきに違うグループと部屋を組んで色んな仲間と話をする事でお互いの事をもっと学ぶ事が出来ました。とてもいい経験になったのは、言葉が完全に通じなくてもジェスチャーなどを使って自分の言いたい事を一生懸命伝えようとすれば相手も一生懸命聞いてくれて、最後は伝えたい事が相手に分かってもらえるんだなって分かった事です。

4日目は首里城を訪れました。そこでは、琉球國でのかつてのライフスタイルや王様達の事などを学びました。14世紀で行われていた貿易や戦争の事なども学びました。その次は美術館にも行って、沖縄に生息する動物達をたくさん見る事が出来ました。そして沖縄には蛇がたくさんいるんだなと思いました。

この日はしめくくりはトシ先生との2回目のエイサーダンスの練習でした。糸満青年の家の体育館では1時間半にわたってエイサー初心者達はステップの一個一個を一生懸命覚えて、エイサー経験者達は他のみんなのサポートに回りました。この時、私はまだまだ練習が必要でした。

5日目の戦争と平和をテーマにした見学は、非常に考えさせられる一日となりました。平和祈念公園では戦争の残酷な写真を見て目に涙を浮かべる人もいました。私にとって一番ショッキングだった物はもしかしたら資料館の中でみた復元の戦争当時の洞窟でした。

中に入ってみると、家族と兵隊のモデルがありました。赤ちゃんが泣き止まないと殺される状況の中、母親は一生懸命赤ん坊の口を塞いで静かに苦しみをこらえていました。戦争の間、どれだけの家族がどれだけの辛い思いをしたのだろうと考えようとすると、胸が痛くなってきます。

ひめゆりの塔では私達はひめゆり学徒隊の一員であつた一人の御方からお話を聞く事が出来ました。彼女の語った様々な悲惨な話は、本当に信じがたい残酷なものばかりでした。彼女の“ありがとう”と言う言葉と握手は私は絶対に忘れません。彼女の戦争に対する教えは、私に非常に強く伝わりました。

私達はいよいよ那覇市の国際道りにやってきました。国際道りは元々何件かしか店がなかったらしいですけど、色んな人達がビジネスを始めてあつたと言う間に店は増え続けたと聞きました。国際道りは戦争直後に生まれた賑やかな場所となっていたので沖縄県民に希望を与えました。長い那覇市内での散歩の後はJSTのスタッフから冷えたデザートのご馳走がありました。スタッフのみんな、ありがとう！

6日目、私達はワークショップに参加して世界の色んな国に渡ったウチナンチュー達の話をお互いの意見を交わしあいました。ハワイ、ペルー、ブラジル、アメリカなどに渡った人達の体験談を聞きました。特にペルー育ちの沖縄人の方のお話を聞いた時には同感するものがいくつかありました。私も元々はペルーで生まれた日本人なので、正直、自分のアイデンティティーって言うのは今までよく分からなかったです。でもこのワークショップの後、自分って何人なんだろう？って考えた結果、私は沖縄人なんだなあって言えるようになりました。今回は沖縄の文化や歴史、人々や他の色んな事を学ぶにあたって、私はやっぱり沖縄人なんだ！って思えるようになった事に凄く嬉しく思っています。この日の最後はみんなでミルクムナリをたくさんの人前で踊りました。私は何回か間違えましたけど、少ない練習の中、ここまで出来た事は私は嬉しかったです。エイサー本番の後はみんな涙でした。なぜなら、次の日がいよいよお別れだって分かっていたからです。さよならパーティーがみんなと一緒に入れる最後の時間って思うと心は裂けそうになったけど、みんなは一生懸命笑おうとしていました。

最後のお別れパーティーは本当に楽しかったです。みんなは、個々の国の踊りをやったり、楽器を弾いたりなどして色んな才能を持っている事に驚きました。ペルー、ボリビア、アルゼンチン、キューバの踊りやドイツの楽曲をピアノで弾く仲間、沖縄の歌まで出来る仲間がいたのでみんなびっくりでした。この日の夜は、色んな違った文化が一つとなったような気がしました。参加者達が一人ひとり最後のスピーチをする時間はとても切なくなりました。しかし、最後はみんな

で一緒に踊って、一緒に歌ったので、その瞬間私達の絆は一層深まったと私は信じています。最後はたくさんの思い出を心の中におさまりきれないぐらいにいっぱい詰めて、私達は最後のさよならパーティーを終えました。今回JSTで作った色々な国の友達はずっと私の大切な宝物として私の心の中にしまっておきます。私達は今はお互い遠く離れているけど、インターネットがあるのでいつでも話が出来ます。

最後の空港でのお別れはとても辛い時間でした。たくさんの仲間が涙して、"帰らないで"と言ってきます。毎年のように沖縄に帰って来たらいいのになあと私は思いました。最後の記念撮影のためにみんなはカメラを回しあいました。お互いの連絡先なども、最後にもう一度確認です。時間が迫るにつれ、空気は寂しいものになっていきました。でも、ウチナーンチュウが言うように、これはさよならなんかじゃない。そう、これはただの“またあとでね”なのです。私はこのJSTでの1週間で、学校で学ぶ1年分以上の物を学んだと思います。私は沖縄と関係者の方々に私の長年の夢を叶えて下さった事を心より感謝しています。そして、JSTのスタッフと引率者の方々、参加者達全員の安全と通訳を最後までやって下さってどうもありがとうございます。みんなのおかげでこのプログラムは大成功しました。JST2010年! どうもありがとうございます!

2010 JST Report

An opportunity of a lifetime was unraveled to me when I least expected it. Ever since I came to the United States in 1999, I have not left the country. In the 11 years that I grew accustomed to the "melting pot" of this nation, I combined American culture into my Japanese-Peruvian life. I began to realize how little I knew about my ancestors' background; all I knew from my Japanese descendants were that they were Okinawans and they moved to Peru in hopes of a better home and a stable job. It was not until recently that I became more interested of my heritage.

After my family and I became a member of the Okinawa American Association of New York in 2007, I began to appreciate my cultural inheritance; we celebrated our tradition by means of food, dance, and songs to sing. It was interesting that I learned more about my people and felt the close-knit togetherness of the Okinawans. However, in the back of my mind, I truly wanted to visit the country where my ancestors were descended from.

It was a surprise when my older brother told me about the yearly Junior Study Tour Program, funded by the Okinawan Government. This program enables students to travel to Okinawa for free and learn about the social, historical, and economical aspects of the once independent country. It also

brings together the students alike to fortify a friendship linked with a common bond—being Uchinanchu.

When my acceptance to this year's Junior Study Tour was notified, I was in shock, yet in awe. I have not had the chance to travel since my immigration to the United States and my chance to actually learn first-hand about my motherland was a thought I only saw in my dreams. Waiting for the month of July was a torture! I could not wait to be in the relaxing atmosphere of the island, meet new people, and embark in a once-in-a-lifetime journey.

Upon arrival to Okinawa after an intense 14-hour flight, I noticed the clean and fresh environment right away. Around me, people were welcoming at the airport and the signs on the walls had shiisas saying, "mensore~!" I was smiling already. My brother and I met our home stay friend, whom I did not see in years, and off we went to her home. Within the first five days of my newfound freedom, I went to IE Island, ate at several different restaurants, took numerous of photographs, and shopped at Kokusai-dori Street! My love for the people of Okinawa and the land grew as the days went by because of the loving nature of the ambience in the air; everyone's mood was about as happy as a child.

As our five-day freedom came to an end, I was hesitant and nervous to start the JST program: hesitant because I felt as though I did not know enough Japanese to hold a conversation and nervous that I would not make many friends. When I arrived at the Kampo Hotel for the welcoming party and introduction of the program, I delayed my entrance for a couple of minutes and embraced myself.

When I entered the fourth floor, I saw many teens my age clustered in groups already and I felt left out. Thanks to the some of the staff who got me talking to the Canadian representative of JST I felt more at ease. Minute by minute, I discovered students from Peru, Mexico, New Caledonia, and Okinawa itself. Once everyone was settled in the welcoming room, I befriended Liana, a representative from Colorado and we immediately got along. I was surprised by the vast amount of students from all over the world. After a half hour, I actually became impatient to meet them all!

We played games to talk to each other, introduce one another, and learn about the countries the students were coming from. The JST staff made the atmosphere of the room very fun and enjoyable. During our welcoming dinner, the governor of Okinawa introduced himself and a toast was shared. Everyone began eating together, laughing together, and most importantly, bonding together. Never have I seen the many smiles on people's faces at the same time. By eight o'clock, the party came to a close after we danced to some Brazilian music and sang Shimanchu Nu Takara by BEGIN. It was an overall a highly hospitable

night and I was glad I had nothing to worry about after all.

The next day, we packed our bags and headed towards the Government Building where the respective countries lined up with their flags, waiting to hear from the governor about our visit. With it, I learned that Okinawa was very delighted to have every member of the Junior Study Tour learning together about their ties with the peaceful island.

We kick-started the nature study of the program by going to the Churaumi Aquarium! Once known as the biggest aquarium of the world, everyone's excitement to see the underwater animals was displayed with smiles. Although some people went on their own to see the sharks and fish, collective groups was pointing at nature's wonders. Curiosity filled the different rooms as we all walked slowly at the different exhibitions. I met more friends on the way as we walked to see the dolphin show. The intense heat from the sun left everyone hot and tired as we all sat and watched the dolphins jumping around the air. We went to Emerald beach to cool down, play volleyball, or just sit by the shade for an hour, and went to our next camping site at Eco Park.

Eco Park was probably my favorite part of the program because of its close proximity to nature. During our two-day stay, we had a barbeque to get everyone along, a trekking journey through the river, and a bonfire party. Those two days proved to be the most crucial time to bond because during the trekking, fellow students helped one another to stay afloat from the water, something I could not have achieved by myself. I learned to trust my new friends and they learned to trust me as we watched each other's way to not slip and fall.

Most importantly, the rooming accommodations were really exciting throughout this whole trip. Having to dorm with different girls every other night, I learned more about them and their countries. Even if I could not speak perfect Japanese, or some Spanish-speaking girls could not speak perfect English, we all used gestures to understand one another and it was an interesting experience. We never gave up trying to figure out what we were saying to one another, which made me keep my hopes up high of communicating after the program was to end.

On the fourth day, I learned the most about the cultural aspect of Okinawa. On our trip to the Shuri-jo Castle and the Prefectural and Art Museum, the predecessor emperors of the country were discussed. Their way of life, war, and business was traced as far as the 14th century. At the museum, Okinawa's aesthetic nature and animals were displayed in glass cases about its impact and importance to the island. A lot of snakes like to crawl around the grounds of Okinawa!

The day came to a close with our second Eisa class with our teacher "Toshi sensei" at the gym of the Itoman Seinen no Ie. For an intense hour and a half, the beginners tried their best to remember the steps of the dance, while the already learned members of the group patiently helped around. At the time, I was yet to remember the steps very vigorously.

The peace study segment of the program during day five was the most thought-provoking and emotional day of the week. The visit to the Peace Memorial Museum brought some to tears as they viewed photographs of helpless children and military soldiers wounded during the Second World War. One exhibit room shook me the most; a room had a replica of a cave hiding a family with a soldier and a crying baby. Apparently, if the baby did not keep quiet, the soldier was forced to kill the baby and I saw the tears in the mother's eyes...I could not imagine the pain and suffering many families had to go through during these hard times.

At the Himeyuri Monument, we were honored and lucky enough to have a surviving member of the Himeyuri students recall about her experience during the war. Her accounts were very graphic that I could not believe it were real. To have her say "thank you" to me and shake my hand was something I could never forget. Her speech about wishing to spread the word about the cruelty of war had me at the edge of my seat. To say she is no superhero would be an understatement.

On a lighter note, we strolled down Kokusai-dori Street to learn about the social portion of Okinawa. Kokusai-dori Street was originally a street where all the entrepreneurs began their small business that boomed to more stores like a domino effect. It was after the struggle of the World Wars that brought hope to the community as the economic status began to rise again. After walking around window shopping, everyone got a frozen treat to enjoy the summer day! Thank you again to the staff members who gave us a nice dessert!

On the second to the last day, a workshop was held to discuss more historical and social facts about the Uchinanchu people. This time, we learned about the immigration of Okinawans to Hawaii, Brazil, Peru, and America. It was interesting listening to a story about the cultural identity about a Japanese-Peruvian girl, just like me. I used to be confused with my identity, as to whether or not I was either or, though I am Japanese by blood. However, during the last days of the program, I began to realize that I feel more Okinawan after I learned so much about my past, my people, and traditions. I learned to view the world in a more nature-loving way and learned to be more understanding after all the cultural and historical

studies. I felt more at home.

The day ended with lots of music and dancing as the members of the Junior Study Tour performed the Miruku Minari Eisa dance in front of the public! I made minor mistakes, but the thrill to show the people how much I learned in so little days made me happy that I am Okinawan. The performance ended in tears because of the departure from our new found friends. Although it was not our last day together, knowing that we all had to bid farewell tomorrow at the party was devastating, but everyone did their best to smile.

The farewell party on the last day was enjoyable! Many students shared performances from their country, like dances from Peru, Bolivia, Argentina, and Cuba. Others did musical performances from Germany, while some sang Okinawan songs. It made me happy to see how different cultures all came together in that one night, topped off with testimonial speeches by every member of the group. It truly was a sad evening, but as we sang and danced away into the night, the memories will be forever bonded and kept within our deepest memories. All the friends I made from different countries are eternally kept in my heart and in touch via internet. It makes me happy that even though the distances are apparent, we will still in touch.

Our official farewell to each other at the airport was very difficult, due to the tears many have shed and their begging demands to not leave. It would be much easier and comforting to come back every year, but wishful thinking has its faults. Cameras were passed around to have our last portraits of our smiling faces, and personal information was passed to keep in contact. The air was indeed saddening, but like the Okinawans say, it was not a goodbye, only a, "see you later." Within one week, I learned more than what I could have learned in a full year's worth in school, and I would not have it any other way. I wish to deeply thank Okinawa for the gratifying opportunity I always wished for. For all the staff and chaperones who made sure of our safety and understanding during translations, having their aid had made the program a great success! JST 2010 thank you!



パニス ロバート ケネス

PANIS ROBERT KENNETH

16歳 3世

アメリカ合衆国

United States of America

沖米沖縄県人会



ジュニアスタディツアー 2010

2010年ジュニアスタディツアーへの参加の機会は、本当に人生に一度きりのもので、僕自身を変えるきっかけとなりました。ツアーはウチナンチュの遺産として残されたものと僕を密接につなげ、と同時に、世界中の人々と友情を築く機会を与えてくれました。このジュニアスタディツアーに参加するチャンスを得、本当に恵まれていると感じています。

今回は僕にとって初めての沖縄訪問となりましたが、この初体験がとても思い出深いものになってうれしく思います。ジュニアスタディツアーのグループと過ごした短い一週間の中で、新しい友達をたくさん作り、様々な文化を体験することができました。私たちは異なる言語や国々で分かれていたけれども、ウチナンチュの遺産という共通点でつながっています。沖縄の人々はみんな親しみやすく包容力があるという気質をもっています。すぐに子供たちは友情を築き、自国の言語を教え合いました。コミュニケーション、文化といったバリアは私たちを隔ててしまうほど強いものではありませんでした。

ツアーのプログラムはすべて、とても楽しむことができました。中でもエイサー、キャンプファイヤーの時間、トレッキングは格別でしたが、一番面白かったのはエイサーでした。僕たちは様々なスキルと経験を持つメンバーと、4日間かけてエイサーの練習を行いました。

僕は幼いころから祭太鼓に参加しているので、エイサーはより自然に感じられたようです。その他にもたくさんの子供たちが僕と同じような状況で、一日目のうちに振付を覚えました。そして、振付を覚えているみんなが、他の人たちを助けていた様子に感心しました。みんながそれぞれの県人会で、どれほど思いやりがあり思慮深いかがよく伝わりました。僕たちみんなが、これは個人での踊りではなく、グループとして演じるものなんだと実感することができました。この演技には私たちが重ねてきた頑張りが出ていました。祭太鼓の大切さが今分かります。それは、演技だけでなく、活動を通して人々をつなげるということです。

3日目はキャンプファイヤーを囲んでゲームをし、

みんなが一つになりました。ゆっくりと島の美しさを堪能する良い機会となり、とても刺激的でした。ゲームを終えた後は、キャンプファイヤーを囲んで一つになり、歌を歌いました。このキャンプファイヤーは私たちが結んだ絆を象徴していました。

東の沢と玉辻山のトレッキングは僕にとって一番刺激的な体験でした。みんな何が起これるのかも分からず道を進んでいきました。途中、ハブ、うなぎなど沖縄ならではの生き物に遭遇する経験をしました。このように多様な生物が息づく川が沖縄にあるとは、思いもよりませんでした。このハイキングで、参加者全員と話をしてお互いの出身国のことについて話す機会が与えられました。これらのプログラムでは僕の先入観と異なる沖縄を発見し、僕たちはみんな似たような抱負や目標をもってジュニアスタディツアーに参加した生徒なんだということが理解できました。

ツアーに参加した時点では、僕の沖縄の歴史文化の理解は限られたものでした。平和祈念資料館では、沖縄の人々が長年耐えている暗く厳しい体験について理解するようになりました。資料館のツアーでは、先ず、1945年に起こった日米間の沖縄戦の残忍性を表現したビデオを鑑賞しました。ビデオは偽りのない戦争を描き、流血、苦痛、非道さを映し出していました。県民ではない僕の立場から見ても、なぜ人がこの平和な島にあれほどの暴力を押し付けることができるのか理解しかねます。そのような疑問を胸に、資料館を見て回りました。僕と同じ年代で亡くなった10代の若者の写真を見て考えました。「彼らが何をしたらこんな苦しみや痛みを味わわなければならなかったんだ。」納得できず苦い気持ちで残りの展示を見ていました。「このように激戦が繰り返されたこの島を僕が楽しんでいるのに、この子供たちはどうして苦しまなければならなかったのか。」資料館を更に進むと、戦争を止めるように強く求めた一遍の詩を見つけました。「戦争がもたらすのは苦しみと痛みだけ……私たちは厳しい教訓を学んだ。過去を思い出し、学び、平和のために努力する……今は平和の島、決して忘れない。」この詩は、生存者の視点から戦争の意味を説明しており、僕は深く考えさせられました。過去を白紙に戻すことはできないと私たちは知っていますが、沖縄の人々は

過ちから教訓を得、平和に向けて前進し続けようと努力しています。戦争に耐えなければならなかった沖縄の住民の運命を考えると悲痛な思いになりますが、平和で満たされた沖縄の未来への期待も僕は抱いています。

沖縄の歴史を学んだ後で、僕は沖縄の美しさのありがたみがよりよく分かりました。この島が通ってきた苦しみを理解した後は、海の水の静けさ、空の青さそして太陽の輝きを前にもまして強く感じるようになりました。沖縄の人々は単に避難場所の確保のためだけでなく、子供たちに島のありのままの美しさを経験する機会を与えるために、故郷を守って戦いました。ジュニアスタディーツアーで与えられた機会には、言葉で表すことができないほど感謝しています。このツアーで養った友情は一生ものです。僕のジュニアスタディーツアーの目的は、自分自身の遺産を知り、人として成長することでした。そしてまた、僕はこの経験と知識をそのほかの10代の若者に、ネットワークを通して広げていく必要があることに気が付きました。またいつか沖縄を訪ね、日本語と方言でコミュニケーションをとれるようになり、沖縄県政府の助けになりたいと思います。僕たちを歓迎してくれた人たちみんなとも、連絡を取り続けるつもりです。

仲井眞弘多沖縄県知事、交流推進課長、担当者の伊地さんへ、沖縄のすべてを見せてくださったことに感謝したいと思います。そして特に、李久高勝子県人会長へ、グループを代表する機会を与え、僕の願いを叶えてくださりありがとうございます。両親、兄弟、親戚、友人からも支えてもらい、とても感謝しています。ジュニアスタディーツアーの一員となることを叶えて下さり、本当にありがとうございます。

2010年ジュニアスタディーツアーの参加者として僕を選んでくださり、沖縄県に感謝の意を表したいと思います。皆さんに心から感謝致します。どうか皆さんで僕が将来、活発に多くを生み出す沖縄人になれるよう、教え導いてくださるよう、お願いしたいと思います。



比嘉 マッケンジー サチ

HIGA MACKENZIE SATCHI

15歳 4世

カナダ Canada

バンクーバー沖縄県友愛会



沖縄

沖縄は僕の人生の中で最良の経験となりました。

そこで出会ったたくさんの印象深い若者達のことを、一生忘れないことでしょう。そして平和祈念資料館や、とても美しく熱い砂浜、東の沢トレッキング、美ら海水族館などとてもたくさんの興味深く、楽しい体験をしました。

僕が最も楽しんだ東の沢トレッキングでは、ちょっと見かけた川うなぎ、手づかみしようとして噛まれた川エビなど、数々の面白い生き物たちを見ました。そしてこのトレッキングの途中で、ハブに出くわしたのは怖かったけれども、一生忘れられない思い出となるでしょう。美ら海水族館では、とても珍しい海の生き物たちを見ることが出来ました。多数のエイ（エイの保有数はこの水族館が最も多い）が泳ぎ回っており、同じ水槽の中にいる3匹の巨大くじらサメ、そして常時片目を開けて海の底で寝ているというサメ、またミミズのような舌を発光させながら、小さな魚をおびき寄せる深海魚など、ほんとにすごい水族館でした。

これらの自然体験もそうですが、そこで出会った人々のことも決して忘れません。僕がジュニア・スタディーツアーで素晴らしい経験ができたのは、すごくいい人たちとその愛と親切にはぐくまれていたからだと思います。そして、僕達何人かは同じ言葉を話してませんが、それが壁になるという事はなく、むしろ言葉は文化的なもので、それぞれのルーツを知る手がかりになると思います。

僕達の宿泊先はとても快適でした。そのうちでも特に気に入ったのは、東（Higashi）キャンプです。

皆で何時間もポーカーをしたり、それに場所の名前が僕の名字のHigaと似ていることもあります。（もちろん漢字は違うのですが）比嘉という名字は沖縄では、たくさんあることを知りました。僕は比嘉とついてあるものは、何でも写真に撮ることが好きで、浜比嘉島にある浜と比嘉の交通標識、電話帳の比嘉ページ、そして比嘉時計修理店の看板など、数多く写真を撮りました。

また、沖縄に山ほどある自動販売機は飲み物を売っていますが、食べ物売っていないこと、マクドナル

ドでビックマックはなくて、その代わりにサムライ・ポークバーガーがあるのには非常に驚きました。

Okinawa

Okinawa was one of the greatest experiences that I have ever had in my life. There I met many very interesting kids that I will remember for the rest of my life. There we did tons of amazing things such as visiting the war memorial museum, going to the beautiful hot and sandy beaches, hiking up an amazing river and going to the Okinawan aquarium.

The excursions that I liked the most were when our group hiked up the river and we encountered a habu (poisonous snake) in Japanese and even though it was a frightening experience, it is one that I will remember for the rest of my life. As we continued hiking the river we found many more exciting creatures crawling, swimming and jumping about such as the river eel we briefly saw or the river shrimp that pinched me when I grabbed it. Another amazing time I had was when we visited the amazing aquarium in Okinawa; there we saw the most amazing sea creatures. There were manta rays (the only aquarium to have that many manta rays), 3 giant whale sharks (all in one tank), sleeping sharks that would lay down on the ground all the time but always had one eye open and finally deep sea fish that have worm like tongues that glow to attract smaller fish. These two experiences were the most amazing thing for me to see there except an unforgettable thing were all the people. I think my experience was so great because everyone was so great and loved to be with the other kids even though some of us didn't speak the same language. A great thing about my trip was that I found language was not a barrier but more of a cultural thing that helped me understand where everyone came from.

The places we stayed were incredible; my personal favourite was the Higashi camp site because all of the guys played poker for hours and the campsites so similar to my last name Higa even though in kanji they're different. I also found out that Higa is quite a common last name in

Okinawa and I loved to take pictures of anything that had it such as Hama-Higa Island (Half Hama, Half Higa), all the Higa's in the Telephone books or the Higa watch repair shop.

An amusing thing about Okinawa was there were hundreds upon hundreds of vending machines except none of them served food, only drinks! Not only were the vending machines different but even the mcdonalds were different, there they didn't have a big mac but instead a samurai pork burger which I thought was absolutely incredible!



ハリデー 葉月 クイン

HALLIDAY HAZUKI QUINN

15歳 2世

カナダ Canada

バンクーバー沖縄県友愛会



交流を通して 沖縄の再発見

今回、ジュニア・スタディーツアーに参加して、この企画がとても貴重なものだ実感しました。ツアー中のプログラムも凄く良くて、そして何よりもこの企画の関係者の方々、ボランティアの皆さんの親切さと熱気には、とても感動しました。僕はツアー期間中、一刻も退屈することなく、本当に楽しい時間を過ごしました。

ツアー当初、僕は日本語が話せないのも、とっても緊張していました。しかし、言葉が壁になるよりは、むしろその困難を乗り越えての楽しみが生まれました。僕は他の参加者達の英会話を補助して、他の参加者達は僕の日本語が上達するよう助けてくれました。最も楽しかったのは、世界中から集った参加者たちと団らんし、友人になれた事です。この交流を通して、うちなんちゅうが世界の隅々まで広がって生活していることを学びました。

ツアー期間中、多種多様なフィールド・トリップとワークショップがありました。それぞれがとても興味深く、楽しくて良い学習になりました。平和祈念資料館で沖縄戦の悲惨な実態を知り、どうやってあのような状態を生き抜いてきたのか、想像できませんでした。

また、野外活動で東の沢トレッキングでは、沖縄の亜熱帯の自然を満喫しました。豊かに生い茂る森林の深さ、巨大なくも、そして突然現れたハブなど。

そして、とてもエキサイトな経験は日出克のライブ・ミュージックで琉球国祭り太鼓とエイサーを踊ったことです。とても光栄なことで多分、僕の一生に一度の経験だと思います。

ジュニア・スタディーツアーで体験した沖縄の文化、芸能、慣習などは、僕にとって本当にいい経験でした。

僕の生活する場所は、沖縄から世界の反対側ですが、僕達の内に存在するうちなんちゅうの魂で繋がっていると感じます。このツアーで経験した事、学んだ事を僕の県人会の同世代の若者達と分かち合いながら、沖縄の文化遺産を活性させていきたいと思っています。

Re discovering Okinawa though the Junior Study Tour

I think that the Junior Study Tour program is an incredible program to experience. The trips were great and especially I was impressed by the kindness and the energy of the organizers and the volunteers. I was always having a good time and wasn't bored once during the entire trip.

When I first met all the other members of the tour I was really nervous because I don't speak any Japanese. But that didn't really prove to be a problem. If anything it made everything more fun. I got to help some kids speak more English and they helped me to improve my Japanese (and other languages too). One of the things that I enjoyed most about the trip was just talking to other participants from all around the world and getting to know them. I had no idea that there were other Okinawans spread so far and wide.

During the tour we went on many field trips and workshops. They were really fun but also very interesting and especially educational. At the Peace memorial museum I learned so much about Okinawan hardships it was hard to believe that anyone could go anything like that. The out trip that I enjoyed the most was the trekking through the forest of Higashi no sawa. During that hike I really got the feel of how tropical Okinawa was, from the lush growth to the over large spiders and sudden appearance of Habu.

For me the most exciting part of the trip was the Eisa performance with Ryukyu koku Matsuri Daiko. I was also much honored to have performed to the live music of Hidekatsu. It was a once in a lifetime experience.

Junior Study Tour was definitely a great experience for me, I had a great time and I learned a lot about Okinawan culture and heritage. Even though I live on the opposite side of the world I still feel connected to all Okinawans by the Uchinanchu spirit within us. I want to share my experiences with Junior Study Tour with the younger generations in my kenjinkai to keep the Okinawan culture alive.



中山 ローベルト 拓也

NAKAYAMA ROBERT TAKUYA

14歳 2世

ドイツ連邦共和国

Bundesrepublik Deutschland

ドイツ沖縄県人会



「ジュニア スタディー ツアー 2010」

初めに私はこの素晴らしい一週間の為にお礼を述べたいと思います。とても良くオーガナイズされたツアーで本当に楽しみ、それと共に、私の人生への沢山の経験を積みました。

まず、第一日目：私には全ての事が新しく、コンタクトもうまくいきませんでした。たぶん他の人達もそうだった事でしょう。私はとても興奮していて、自己紹介や自国紹介の時などは、とても緊張していましたが、それに続くリレーションで雰囲気も和らぎ、他の人達とも少し仲良くりました。“ウェルカムパーティ”ではもっと沢山の人達と知り合うことができ、県や主賓の方々のお話や、例えばジェシーの空手や、マホさんとアカリさんの三線演奏などが、とても印象に残っています。

2日目：朝食の後に県庁を訪問し副知事から、印象深い歓待を受けました。セレモニーの後、“万国津梁館”へ向かい、そこで接待され説明を受けた時に、初めて“万国津梁”の意味を知り、沖縄が当時、中国や日本そして東南アジアの国々への架け橋でありたかった事を知りました。2000年に催された“G8 沖縄サミット”はその意味でも大変興味深いと思いました。その後“エキスポパーク”を訪れ、沢山の色とりどりの魚が泳ぐ大水族館や、それに続いた、イルカショーなどが印象に残っています。最後にビーチサッカーをやったり美しい海に入ったりしましたが、私たちには短すぎたのが残念です。

さて、その日の宿、“つつじエコパーク”到着の後、くつろいだ夕食があり、二回目の自国紹介がありました。しかし、自然の中の丸太小屋で泊まるのは最高でした！

次の朝（3日目）ヤンバルのジャングルの中へ入り、その自然を体感する事は、他に比較できない程の冒険でした。葉月と私とお喋りをしながら歩き、何気なく後ろを振り返った時に、そこにいた“ハブ”の上をまたいだ事に気づき、とても不安になってしまいました。しかし、胸の高さまである水中を泳ぎ、沢山の鮮やかな昆虫を見て、蜘蛛の巣を顔からはらいのけ、そして蜘蛛を顔前に受けても、その楽しさは少しもそがれる

事なく、私達の共同体意識は更に深まりました。休憩の後、午後には最初のエイサーのレッスンがあり、それはとてもおもしろく、クールでしたが、足の運びや上体の正しい動き方などが、簡単ではありませんでした。

夜には、すばらしいバーベキューや楽しいリレーションがあり、そしてその夜の最大フィナーレ“キャンプファイヤー”とても感動的で、その瞬間は、できるものなら何度でも味わいたいものです。

4日目：首里城と周囲の散策（金城町）があり、首里城と国王についての興味深いガイドがありました。午後には、沖縄県立博物館で沖縄の自然と歴史について学びました。その後、那覇市伝統工芸館（テンプス館）へ行き、三線の弾き方を習いましたが、五音部皆や楽譜の記譜法などの違いが、興味深く思いました。また各々、色とりどりの紅型も染めました。夜には二回目のエイサーのレッスンがありましたが、この日の印象としては、この小さな島にこれだけの高い文化や伝統が栄えた事に感嘆しました。

5日目：初めに沖縄平和記念資料館に到着しましたが、そこには重苦しい雰囲気がありました。そこで、沖縄戦のフィルムを見、破壊や、沢山の人の死や悲劇を目のあたりにし、もう2度と戦争があってはならないと思いました。私の祖母も16才の娘時代に幾人もの人の死やクラスの仲間の死を体験しています。平和公園では、その戦争で亡くなった祖々母の名前を“礎”で紙の上になぞりました。その後“ひめゆり記念館”にては、宮良ルリさんの感動的な戦争体験をお伺いし、記念館も見学しました。見学の後には、ドイツで兵役につかない事へのもう一つの確信ができました。（訳者注：ドイツでは18才から男子の9ヵ月間の兵役の義務があり、それを拒否する者は、その期間よりも長い、例えば、病院や、介護施設などでのボランティアにつきます。）

午後には平和通りに出て、その界限と壺屋通り周辺の散策しましたが、公設市場の中では偶然に、ドイツのテレビ（訳者注：長寿をテーマにした沖縄取材した番組）に出ていた92才の売り子のおばあさんと一緒に写真を撮らせていただきました。その夜もエイサーのレッスンがありました。

6日目：再び“てんぶす館”ペルーと日本の間のアイデンティティーの問題に悩むサオリさんのテーマなどのおもしろい問題提示や、リレーションもあったフォークショップがありました。私自身は、半分ドイツ人、半分日本人（ウチナンチュ）で、それで良いと思っています。」4日目のエイサーレッスン、同時に演舞への最終稽古の後、いよいよ本番です。コスチュームに着がえ、両頬にドイツと沖縄の旗のシールをはりつけ、テンブス館前の広場で、テレビの取材がありましたが、祖母、そして知人の前に勇気づけられて、無事、踊り終える事ができました。エイサーの演舞の後にカチャーシー、その後には安堵感の為に涙を流す仲間もいて、名残惜しくその日が終わりました。

最終日：お別れパーティー、涙を流しながら読んだ一人一人のメッセージ、金々録取られた、格式高い認証状授与、世界各地からの友人達のパフォーマンス、そして、もう一度エイサーの演舞をさせていただき、皆で“島人の宝”を歌った事お互いにT-シャツに落書きした事、だれもこのグループの中から離れたくなかった事、そのどれもが感動的でした。

全体の印象として、私の今までの人生の中で、一番素晴らしい一週間が過ごせもう一週間でできればやりたかった程です。この仲間達は、二度とないもので、そして誇りにできる共通のものを持っています。ルーツが沖縄だということ。

辛抱強く、少なくとも1000枚はく下らない写真を撮ってくれたマリアさん、感受性があり、あけっぴろげで、ユーモアいっぱい楽しかった伊地さん、私達の為に裏方でオーガニゼーションに徹した卓也さん、忍耐強くエイサーの指導をして下さったトシさん、最後までこのツアーを導き、指揮された勝連さん、そして最後に、私にこの素晴らしい機会と思い出を与えてくれた私の第2の故郷沖縄にもう一度“心からの感謝”とそして“テアーモ！”を送ります。

敬具

Junior Study Tour 2010

Zunächst einmal möchte ich mich für diese tolle Woche bedanken. Sie haben die Tour sehr gut organisiert, es hat mir eine Menge Spaß gemacht und ich habe sehr viele Erfahrungen fürs Leben gesammelt.

Am ersten Tag war alles noch sehr neu für mich und ich fand zunächst nicht richtig Kontakt zu den anderen. Ich denke, ihnen ging es nicht anders. Ich war sehr aufgeregt, als wir die Selbstvorstellung machten und auch bei der Ländervorstellung war ich recht nervös. Doch die nachfolgenden Spiele lockerten die Atmosphäre und wir lernten uns dadurch besser kennen. Bei der Welcomeparty lernte ich viele verschiedene Leute kennen, und die Rede

des Drittgouverneurs und die Performances von Jessey (Karate), Maho und Akari (Sanshin) u. a. haben mich sehr beeindruckt.

2. Tag: Nach dem Frühstück besuchten wir das Prefectural Government Building, wo wir von der Vize-Gouverneurin eindrucksvoll empfangen wurden. Nach der Zeremonie machten wir uns auf in Richtung Bankoku Shinryoukan. Als wir empfangen und geführt wurden, erfuhren wir, was „Bankoku Shinryo“ bedeutet und dass Okinawa damals die Rolle der Brücke zur Welt sein wollte. (z. B. zu Japan, China, Südostasien u. s. w.)

Das ist deswegen umso interessanter, weil dort im Jahr 2000 der G-8-Gipfel stattfand. Danach besuchten wir den Expo-Park. Das Riesenaquarium mit vielen verschiedenen faszinierenden Fischen und die folgende Delphin-Show haben mich sehr beeindruckt. Am Schluss des Expo-Park-Besuchs waren wir am Strand und spielten Fußball und badeten im schönen blauen Meer. Das war aber für uns leider viel zu kurz. Nach der Ankunft im „Tsutsuji Eco-Park“ gab es ein gemütliches Essen und die 2. Ländervorstellung. Das Wohnen in einer Hütte in der Natur war so toll!

Am nächsten Morgen (3. Tag) machten wir uns auf in den Yanbaru-Dschungel. Die Natur am eigenen Körper zu erfahren war ein einziges Abenteuer. Hazuki und ich unterhielten uns gerade, als wir uns umdrehten und bemerkten, dass wir über eine „Habu“ gelaufen waren. Das hat uns total verunsichert. Durch brusthohes Wasser zu schwimmen, viele Insekten zu sehen, sich die Spinnennetze aus dem Gesicht zu wischen und Angst zu haben, die Spinnen im Gesicht zu haben, hat uns trotzdem nichts von dem Spaß genommen und unsere Gemeinschaft noch einmal gestärkt. Nachmittags hatten wir die erste Eisā-Lesson. Diese war sehr interessant und cool, es war aber nicht einfach, die richtigen Schritte und Körperbewegungen zu lernen. Am Abend gab es das himmlisch schmeckende BBQ und einige lustige Spiele und dann das große Finale, das Campfeuer. Es war einfach wunderschön! Solche Momente würde man gerne wiederholen, wenn man könnte.

Am 4. Tag ging es zur Shurijo-Castle-Besichtigung und zum Kennenlernen der Umgebung (Kinjo-Town). Unser Guide erklärte uns viel über das Schloss und den Kaiser. Am Nachmittag besuchten wir das Okinawa Prefectural Museum, wo wir viel über die Natur und Geschichte Okinawas lernten. Danach fuhren wir zum Naha-City-Traditional-Arts-and-Craft (Tembusu-Kan), wo wir Sanshin spielen lernten. Es hat mir persönlich Riesenspaß gemacht, den Unterschied von Pentatonik und Notation von Noten kennenzulernen. Später fertigten wir dann bunte Bingata an. Am Abend gab es die 2. Eisā-Lesson. Fazit des Tages:

Es ist bewundernswert, dass sich auf einer so kleinen Insel eine hohe Kultur entwickelt hat!

Tag 5: Zuerst besuchten wir das Okinawa Peace Museum. Die Stimmung dort war sehr bedrückend. Wir sahen uns einen Film über den Krieg an und sahen die Zerstörung und den Tod und das Leid vieler Menschen. Uns allen war klar: Es soll nie wieder Krieg geben! Meine Oma hat dies alles als 16-jähriges Mädchen erlebt und gesehen, wie unzählige Kameradinnen starben oder sich selbst umbrachten. Danach gingen wir noch in den Peace Memorial Park, wo ich am Grab meiner Uroma die Zeichen ihres Namens mit Papier abpauste. Schließlich besichtigten wir das Himeyuri Peace Monument, wo wir zunächst Ruri Miyuras bewegenden Kriegserfahrungen zuhörten und dann das Museum besuchten. Nach dem Besuch gab es für mich einen Grund mehr, warum ich nie in den Wehrdienst in Deutschland gehen werde. Am Nachmittag gab es eine Besichtigung in der Heiwadori und in der Umgebung, z. B. im Töpferviertel. Auf dem Markt trafen wir eine 92-jährige Verkäuferin, die wir im deutschen Fernsehen schon einmal gesehen hatten und machten ein Foto mit ihr. Nach dem Abendessen war wieder eine Eisā-Lesson angesagt.

Tag 6: wieder im Tembusu-Kan. Wir machten einen interessanten Workshop mit Spielen und Präsentationen. Darunter waren Themen wie z. B. Saori und ihr Problem mit ihrer peruanisch-japanischen Identität. Ich bin halb deutsch und halb japanisch und das ist gut so. Nach dem 4. Eisā-Training, das zugleich die Generalprobe für unsere Performance war, ging es endlich los. Wir zogen unsere Kostüme an und tätowierten uns die Flaggen von unserem Land und von Okinawa auf die Backen. Auf dem großen Vorplatz vom Tembusu-Kan tanzten wir in Anwesenheit des Fernsehens und vieler Zuschauer. Darunter waren meine Oma und Bekannte, die mir Mut und Energie gaben. Nachdem wir unsere Performance ohne größere Fehler bestanden hatten und dann alle auf dem Platz tanzten, war die Stimmung gelöst. Einige waren zu Tränen gerührt. Leider war dann auch schon Schluss des Tages.

Der letzte Tag: die Abschlussfeier. Alles war so berührend: dass wir fast alle unter Tränen den Abschlussbericht gelesen haben, dass wir alle eine edle, mit Gold verzierte Urkunde bekamen, dass wir die Performance unserer Freunde aus aller Welt sahen, dass wir noch mal Eisā tanzen durften, dass wir alle zusammen „Shimanchu no Takara“ sangen, dass wir uns gegenseitig unsere T-Shirts bemalten und dass sich niemand von unserer Gemeinschaft trennen wollte. Es waren alles sehr schöne Momente. Im Großen und Ganzen kann ich sagen, dass dies die schönste Woche meines Lebens war und dass ich auch noch eine Woche länger hätte bleiben können. Diese Gemeinschaft war

einmalig und wir alle hatten etwas gemeinsam, worauf wir wirklich stolz sein können: Wurzeln in Okinawa.

Vielen Dank an Maria, die geduldig bestimmt 1000 Fotos gemacht hat, Iji, der aufgeschlossen und humorvoll mit uns Späße gemacht hat (Mousse au chocolat!), Takuya, der sehr viel für uns im organisatorischen Bereich getan hat, Toshi, der uns mit viel Geduld Eisā-Tanzen beigebracht hat und Katsuren-San, der uns bis zum Schluss und zur letzten Sekunde geführt und geleitet hat. Es hätte ohne diese Menschen nicht geklappt! Und zu guter Letzt möchte ich Okinawa, meiner zweiten Heimat, danken, die mir diese fantastische Gelegenheit und unvergessliche Erinnerungen geschenkt hat. Noch einmal „Herzlichen Dank!“ und „Teamo“,



ボナヴァンチュール オロール

BONAVENTURE AURORE

15歳 5世

ニューカレドニア Nouvelle-Calédonie

ニューカレドニア沖縄日系人会



沖縄旅行レポート

まず初めに、私を受け入れてくださった皆さん、ありがとうございます。三木さん、日本語の本ありがとうございます。伊地さん、私が伊地さんと過ごした時間はいつも幸福感に満ちていました。へぐみ(?) とともみ、私の二人の通訳、大好きでした。ともみさん、写真ありがとうございます。私のホームステイ先のえがわさん、バーベキューはとてもすてきでした。ホームステイのお父さんとお母さんは何と優しくったことでしょう。山歩きは最高でしたよ。お世話してくださったスタッフのみなさま、何と寛大だったことでしょう。特にキャンプの時やゲームの時、、本当にとても楽しかったです。それから、それ以外にお世話になった皆さま、私の旅行を実現させるために尽力してくださった方々、いくら感謝してもしきれません。

沖縄では私はあの巨大な水族館に圧倒されました。あのように大きな水族館は見たことがありません。首里城はとても美しかったし、博物館には感動と衝撃を覚えました。沖縄の戦時中の歴史や、エイサーは大変勉強になりました。エイサーを教えてくださった先生はとても忍耐強かったと思います。このダンスの踊り方は、とても気に入りました。初めはとても難しかったです。けれども終わりの時もやっぱり難しかったです。でもハートスケジュールの日程の後のエイサーは楽しくてリラックスできました。

沖縄で経験できたことはすべてが、ひとつひとつがドラマのようで語りきれないくらい、心に響きました。お会いしたみなさんすべてが大好きな人になりました。また、ぜひ来年お会いしたいです。

島袋 安生

AKI SHIMABUKURO

兼城中学校三年



ジュニアスタディツアー

1日目

私は、とても人見知りがはげしかったので、顔合わせ＆ミーティングはちょードキドキしました。けど、一緒に座ったしずか♡が話しかけてくれてとってもホッとしました。

2日目

みんなと顔合わせしたけど、またぎこちなくて、怖かったです…。

でも、外人さんとの対面もあり、だんだん仲良く☆なっていました!(^^)

まりえ♡さんも話しかけてくれて、自分も積極的に皆に話しかけていきました! 皿みんな、優しくて♡とっても楽しかったです!(^^)/

その日で、県内組とは、ほとんど友達♡になりました!!

泊まる時も、自分から積極的に話しかけて、みんなと仲良くなりました

3日目

美ら海水族館…(^^)!!

やっぱりちょーキレイでしたッ!! ジンベイザメすごい迫力でしたー^o^

皆と写真パチパチしました!

そして、なんと言っても…! ♡エメラルドビーチッ!!

もおー! なんといってもこの透明感^ ^——!!

みんな、大はしゃぎで海にダーイブッしました^ 皿 ^

少しの時間だったけどもおー最高に楽しかったです♡

4日目

つつじエコパークで…! トレッキングとってもヤバかったです…^ □ ^

初めは、余裕と思ってやりましたが…とってもビックリしました!

水が冷たくてそして、水位が2・3m あって溺れるかと思いました…。

そして、おもしろい魚がいっぱいいました(笑))

なんか、カレイみたいな小さな魚がいました。

とっても可愛かったです◎

そして…!! B.B.Q! キャンプファイヤー!!!

もお、言いあわせない程、サイコーでした!

こんなに楽しい時間は一生のうちにないと思いました。

B.B.Qは、肉が、もおーハンパなく美味しかったです! おにぎりも!

キャンプファイヤーは! 感動しました。泣けるくらいでした^ 皿 ^

一生の思い出♡になりました——(^^)/~~

5日目

首里城に行きました——!

やっぱり、城は大きかったです~!!

そして、ひなさんが迷子になったのがビックリしました(笑)

県立博物館は、テルミとゆめ子とまわりました。

テルミはとっても可愛くて、カエルの標本を見て叫んでいました(笑)

「私、カエルきらい~」っと叫んでいました^ 皿 ^

次にテンブス館で三線を弾きました!

全然センスがなくて、弾けませんでした…(泣)

6 日目

平和学習で、ひめゆり資料館へ行きました。

戦争は残酷だ。と思いました…。

そして、マチクワ散策では、いろんなところを回ったりしました。

とっても暑かったけど、楽しかったです(^)/

7 日目

ワークショップを行った後の弁当 time がたのしかったです！

そして、テンブス館前で「ミルクムナリ」を踊りましたッ！！

とっても緊張して怖かったです！

でも、終わった後は、ちょーたのしかったです！涙がでました..

学習成果発表会では、絶対！泣かないと決めてたのに、話してる時に、一週間がフラッシュバックして、別れたくない———と思ったら、自然に涙があふれていって、とってもヤバかったです…(泣)

私は、Junior Study Tour に参加でき…。

とても、光栄に思ってます！！

私に、一生の思い出に残る経験をさせてくれて

本当に、ありがとうございました！(^)

来年、琉球國祭り太鼓入る予定なので…！

ボランティアとして参加したいと思うので、よろしくお願いします！

Junior Study Tour

比嘉 優仁

YUUNI HIGA

与那原中学校二年



JSTの思い出

僕はJSTで一番年下なので、とっても緊張していました。しかし、19日のオリエンテーションでいろいろな人が話しかけてくれて少し気が楽になりながら、次の日のツアーをむかえました。今思うと、この一週間はあっという間でした。僕はこのツアーでは、数えきれないくらいの思い出を作ることと様々な文化に触れたり、海外の人たちとコミュニケーションをとることが目的でした。

初日、緊張しながらも海外参加者に自己紹介を上手くすることができました。海外参加者の人たちは、とても優しくおもしろかったです。文化や言葉は違っても、大切なのは心だと感じました。

二日目の夜は、男子全員でポーカーをして遊んだことをとても覚えています。僕は普段は早く眠たくなりますが、ツアーの間は毎日が楽しくて遅くまで起きて、たくさんの人と遊んで交流を深めていました。

三日目は、東村でトレッキングでした。ハブが出たりと最初は怖かったですが、奥に進むにつれて怖さを忘れ、大自然の中で楽しく過ごすことができました。夜はキャンプファイヤーがあり、ボランティアの方々がたくさんのゲームを用意してくれて、さらに参加者との交流を深めることができました。

四日目は首里城へ行き沖縄の歴史をすることができ感動しました。夜は僕たちの部屋ので、みんなの連絡先の交換をしたりしてとてもさわぎました海外の話もきけました。

五日目は、三線を弾いたり、びんがたをつくりした夜は、最終の泊なので、広間でみんなと話したりしました。

六日目は、エイサーを踊りました。練習では上手く踊れなかったけれど、本番ではちゃんと踊れたので良かったです。

最後の日のさよならパーティーでは、ツアーが終わってしまうのでとても複雑な気持ちでしたが、みんなに会って嬉しい気持ちになりました。またそれぞれの場所に帰って離れ離れになりますが、みんなに会えないわけではなく、遠くても心が繋がっていると思うと嬉しく思います。

このツアーを通して僕はいろいろな事を感じました。まず、県民であり沖縄にすんでいても分からない沖縄の歴史などあることに気付きました。そして、言葉が伝わらなくても心が大事であることもわかりました。

こんなさまざまな経験ができるツアーで無事成功できたのも、スタッフの皆さんと共にすごした参加者の皆さんのおかげです。

本当にありがとうございます。このツアーで経験したことを今後いかしていきたいです。

前盛 よもぎ

YOMOGI MAEMORI

伊原間中学校三年



国際交流の第一歩

ます。

41人の仲間達と過ごした七日間。短い期間の中で、沖縄の自然や歴史について学び、文化や伝統に触れ、たくさんのことを体験させてもらいました。

初日は、慣れない場への不安や、言葉の壁がある中で初対面の人と活動していくことに緊張がありました。けれど、ツアーが始まってみると、そんな不安だった気持ちを忘れてしまうくらいに、初日からみんなで盛り上がりました。互いに自己紹介をするところから始まり、自国の話などをしていくうちにあっという間にうちとけあい、意味の分からない言葉をしゃべりあいながらも、とても楽しい時間を過ごしました。

共に沖縄の歴史や文化について学習し、共に沖縄の伝統を感じ、同じウチナンチュとして過ごした1週間。活動していく中で、“いちやりばちよーでー”の精神を改めて実感し、海外参加者も含め、皆同じ根っこで繋がっているんだと感じました。そして、色々な国の人と話をするうちに、世界中に住んでいる県系人の方々が沖縄の人々と今なおこんなに強く結びついていることにとても驚きました。海外からの参加者の中には、舞踊や空手、エイサーなど、沖縄の文化に日頃から慣れ親しんでいる人が多くいました。私たちの祖先が、何代も前に移民して以来、異国の地に根を下ろしながらも、故郷である沖縄の文化を、途切れさすことなく受け継いできているのです。そして、沖縄との繋がりをとても大切にし、強いウチナンチュネットワークを作り上げてくれました。今こうして世界中の県人会の人々が沖縄で出会えたのも、大勢のウチナンチュが同じ根っこで繋がっているからです。私は、このネットワークを作ってくれた祖先の方々へとても感謝します。

私がツアー中に印象に残っていることは、エイサー講習と、伝統工芸体験をしたことです。みんなでエイサーの練習をした時間はとても楽しく、最後にエイサーを披露したときにはとても感動して泣いてしまいました。このエイサーのときに使った衣装・パーランクーと伝統工芸体験でつくった巾着は、たくさんの思い出が詰まった私の宝物です。また、移動のバスの中や、部屋でみんなと話すときが1番盛り上がる時間でした。バスの中でみんなで「島人ぬ宝」を歌ったり、部屋でガールズトークをしたり。やっぱり女の子にとって恋バナは世界共通なんだと感じました♪夜中に男子も皆で1つの部屋に集まって、一緒にトランプをしたり、騒いだりして、怒られながらも、本当に楽しく忘れられない時間を過ごしました。そして何より、ウェルカムパーティー、キャンプファイヤー、まちぐあー散策、さよならパーティー?? OB・OGの心配りのおかげで、

自然に皆と言葉を交わすことが出来、とても貴重な思い出になりました。ウェルカムパーティーのときは控えめだったJSTメンバーも、さよならパーティーでは心をついにとても盛り上がり、みんなではしゃぎまわりました。パーティーで披露したエイサーも大成功に終わり、最後に肩を組んで歌ったときにはみんなで号泣でした。

JSTを通じてたくさんの人々が出会えたのは、私たちの祖先が大切に織りなしてきた深い歴史があるからです。平和の礎を見に行ったときに、海外参加者の子が、礎に彫られた先祖の名前を紙に写しているのを見て、改めてそのことを感じました。そして同時に、「私は沖縄に住んでいながら、沖縄の伝統や歴史、そして今の沖縄の現状をきちんと学ばずに暮らしてきたのではないか」とはっとしました。しかし、JSTに参加したことで、ウチナンチュのネットワークを守っていくためには、ウチナンチュの一人一人が自分の根っこ見つめ直し、未来を考えていくことが必要だと知り、沖縄のことをちゃんと考えていこうと思うようになっていきます。

そしてまた、国際交流にとっても魅力を感じました。伊地さんや通訳さんのように、人と人をつなぎ、国際間の架け橋となって働くことは、とても素敵な仕事だと思いました。私はまだ英語もきちんと話すことができず、知らないことがたくさんあります。けれど、このJSTの場をスタート地点として、一歩ずつ歩んでいき、いつかはJSTで出会った方々のような、広い視野を持って活動していける大人になりたいと思っています。

私が今回、JSTに応募したのは「外国の人々と交流したい!」という気持ちと「ツアーの内容がとても楽しそうだから」という単純な思いからでした。しかし、今こうしてJSTでの日々を思い返してみると、たくさんのお会いがあり、素晴らしい体験ができ、今まで気づかなかったこと、知らなかったこと、感じたことのない思いと出会いました。まだ上手く言い表せないけれど、胸に一杯詰まっているこの思いはきっといつか、私にとって大切な糧となり、将来につながっていくものになると強く感じています。

好きなこと、興味があることを発信すると同じ気持ちを持った仲間が集まり、居場所ができる。たった1週間一

緒に過ごただけだったのに、私にとってみんなは、とても大切な友達です。それぞれが自分の場所へ帰り、海を隔てて離れてしまったけれど、今も、深いところで繋がっている気がしています。

このツアーで学んだことが、私の中でどんな形になって将来へ繋がっていくのかは、私自身もわかりません。けれど、努力する方向は見えてきました。まずはたくさんの事に挑戦して自分の可能性を広げていくこと。この新たな目標に向かって、日々、頑張っていきたいと思います。そして、自分のアイデンティティをずっとずっと大切にしていこうと思っています。

夢への第一歩を踏み出させてくれたJST。このJSTを運営し、盛り上げてくれた勝連さん、伊地さんをはじめ多くのスタッフの方々、引率の方々、OB、OGのみなさん、たくさん迷惑をかけたのにあたたかくサポートしてくださって、本当にありがとうございました。私は、このJSTが、沖縄にルーツを持つ子供達にとって、自分のアイデンティティを考える機会になり、交流し合う場となって、継続されていくことを願っています。

そして最後に、41人のみんな☆ 共に学んで、共に騒いで、みんなと笑って、みんなと泣いて・・・一緒に過ごした時間は私の宝物です。本当に、本当にありがとう！

このJSTに関わってくださった多くの方々へ、
しかいとうから みーふあいゆー!! Te amo♡

赤嶺 英美

EIMI AKAMINE

小祿中学校二年



ジュニアスタディツアーが終わって

最初のオリエンテーションでは、とても緊張していて、頭の中が真っ白でした。

また皆でゲームをする時などはあまり話せなくて、この先がとても不安でたまりませんでした。

ジュニアスタディツアーの初日、歓迎パーティーが開かれました。

私はその時、初めて友達ができました。

知念志鶴河という子でサバサバとしていて明るくすぐに友達になれました

その日は皆と親睦を深めるためにゲームをしたり、色々の国から来た人達が自分の国の良い所や名物、その国について紹介をやったりしていました。

紹介は英語やスペイン語などの自分の国の言葉で、よく分かりませんでしたが紹介してくれた国について前より分かったので勉強になり又興味も湧きました。

次の日のバスの中でたまたま、同じ席になったエリカさんというアルゼンチンから来た人と話してみると、エリカさんは日本語がとても上手で話やすく、くったくがなくすぐに仲良くなることができました。

この日は海洋博に行く予定でバスの移動中、エリカさんが「沖縄の海は青くて綺麗で良いね」と、言っていたので私はすぐになんで？と聞き返すと「アルゼンチンの海は茶色くてあまり泳ぎたくない」と答えてくれました。

そういう話をしている内に海洋博に着きました。

着いたのがお昼だったのでまず昼ご飯になりました。

私をふくめて計7人で海が良く見えるところで食べたり、食べたあとはゆっくりしてボーっとしていたりとして水族館を見て回りました。

水族館の中は色とりどりの魚やギネス記録になっている巨大水槽を見た後はイルカショーを見ました。私は始めてイルカショーを見て感動しました。

バスの中で寝ているとなにかうるさくて起きてみるとカラオケをやっていました

眠気が覚め聞いているとアイミが歌を歌っていてすごく上手かったことにびっくりしました。また途中、海洋博近くの海で泳いだりして遊び疲れました。

次に泊まる場所はログハウスで食事をする所と少し離れているけどとてもいいところでした。その日は風呂に入って布団をかぶったらすぐに寝てしまいました。

3日目は山や川での自然学習で川くだりがあり私は濡れるほうを選び進んでいくと最初はくるぶしぐらいまでしかなかった水がいきなり膝、全身まで濡れてしまいました。それに加えてスリッパの中に砂や砂利が入ってくるので足がとても痛かったです。

3時間ほど歩いき、またとても滑りやすいのでとても疲れ、終わったあと風呂にはいって昼寝をしたらグッスリと寝てしまいました。

起こされて起きるとバーベキューが始まる30分前だったのでゆっくりと行くといいのほかけっこう集まっていた、いそいで準備を手伝い、終わったあと誰かがボールを持ってきていて、なぜかバレーになっていました。その後、キョンプファイヤーが始まり、そのあとジュニアスタディツアーの卒業生の皆さんが企画してくれたゲームなどをやって楽しみました。またスナックパインをもらって食べたりなどいい思い出になる夜でした。またその日からエイサーの練習が始まりました

4日目は三線を習ったり、紅型をやったりサミットが実際に行われた場所も行きましたが中でも私は首里城に行ったのがとてもうれしかったです。

首里城のことを詳しく説明するものもありすごく楽しかったです。博物館等にもいけてすごくうれしかったです。

この日は糸満まで移動をして、糸満青年の家で泊まりました。だけど、私達のグループが泊まることになった部屋はアルコール臭がして部屋をかえてもらおうということもおきました。また、一つの部屋にほとんどの人が集まり、電話や住所の交換をしたり楽しかったです。

次の日は平和学習で平和記念公園やひめゆりの塔に行きました。平和記念公園は小学校の時にいったことがあったけど、ひめゆりの塔は初めてなのですこし複雑でした。

そこで聞いたのはひめゆり学徒隊の戦争での話でした。聞いて、とても考えさせられました。最後にひめゆ

り学徒隊の中の一人で話してくれた人が私達の手を握って「ありがとうございます ありがとうございます」と頭をさげていっているのを見て私はこのことは絶対に忘れないようにしようと思いました

平和学習は戦争のことをとても考えさせられました。また、この日で泊まるのが終わりで少し寂しく思いました。

6日目この日はエイサーの本番で、実際に人の前で踊るし、踊る場所が国際通りなのでとても恥ずかしかったです。でも、目の前であの琉球祭り太鼓さんたちの踊りを見れてとてもよかったです。みごとエイサーは成功し、良かった。この日はどこにも泊まらず自分の家や親戚の家などに帰っていきました。

最後の日はさよならパーティーで、昨日披露したエイサーをやったり、自分たちで用意したその国々の踊りなどを披露したりして、会場には家族や親戚、関係者の方たちがたくさん来ていました。

最後はもう大泣きで、楽しかった1週間のジュニアスタディツアーは終わりました。

私はジュニアスタディツアーが終わって国際交流についてとても興味をもちました。

色々な国の人と友達になれるのはとてもいいことだし、自分たちの国のことも教えられ、その結果多くのことが分かります。それで私はもっと国際交流の幅を広げてみたいと思っています。

知念 志鶴河

SHIZUKA CHINEN

知念中学校三年



新しい絆

私達二十一人に加え、各国から来た二十一人の四十二人。この四十二人に新しい絆が出来ました。

私達にとって、ツアー期間の一週間は、とても短かったです。

前日のオリエンテーションでは、不安がつのっていきばかりで、怖かったです。当日でも、「何を話したらいいのか分からない。」と会話の広げ方が分からないまま一日目が終わってしまいました。でも、二日目から気づき始めたことは、「何でもいいからとにかく話してみる。そしたらきっと相手も応えてくれる。」という事でした。意味が少し違っていても、言っている事などはだいたい伝わり、どんどん会話が広がっていきました。水族館やビーチで交流もさらに深まっていきました。話は、広げてもらうものじゃなくて、広げる物だって知りました。

三日目のトレッキングには、持病のため、行けませんでした。洗濯をしたり、スペイン語を勉強する事が出来ました。また、エイサー練習は、ついていくのが大変でした。その後のキャンプファイヤーでのゲームやダンスはとっても楽しかったです。その日「今日からずっと時間が止まればいい。」と思いました。でも、やっぱり止まらないまま四日目に入りました。

四日目は、博物館へ行き、まだ足りない沖縄の事などを頭に入れました。その後の伝統工芸体験の三味線、紅型は、上手に出来ました。この夜のエイサーも大変でした。でも、その後の夜は、皆でたくさん写真を撮ったり、メールアドレスや住所を書いてもらったりと、夜中まで起きて遊んでいました。

五日目は、戦争の事について聞きました。よく聞いている話でも、話者によって、体験した事や苦しさなどの伝わり方が異なっていることに気付きました。その後の社会学習では、いろんな人と、たくさん話が出来たので、良かったです。でも、足がとっても痛くなり、大変でした。五日目で、エイサーの本格的な練習は最後だったので、とっても頑張りました。「自分は他の人と違って出来ない。」と始めは考えていたけど、「出来る出来ないは後にして、まずはやってみる。」という事がとっても大切なんだと知りました。その日はみんなで一つの屋根に寝る事は出来る最後の日だったので、何十枚という数の写真を撮りました。

六日目のワークショップは、自分達の意見をよく聞かれたり、言い合ったりしました。「自分の考えをしっかり持つ」というのは、私の大きな課題で、ペンを持っても、なかなか書けずにいました。その時葉月君が、「志鶴河はどう思う？」と聞かれて、自分は答える事が出来ずにいました。でも、昼食後に再開したワークショップでは、少し自分の意見を言えるようになりました。

最終日は、とっても楽しむ事が出来ました。さよならパーティーでみんなで書き合いをしたTシャツは、今、自分の宝物になっています。今まで楽しく過ごしてきたみんなとも、もう今回が最後だと思うと、とても悲しくなり、涙が出てきました。たてえもう会う事はなくても、思い出はたくさん作ったし、写真もたくさんあるので、絶対に忘れる事はないと思います。

私達二十一人に加え、各国から来た二十一人で四十二人。この四十二人が作った新しい絆が出来ました。その絆の名は「友情」でした。

高里 夢子

YUMEKO TAKAZATO

上山中学校三年



架け橋になりたいくて

私は、「ジュニアスタディーツアー」という海外に住んでいる沖縄系人の人達と交流することが出来てとても良かったです。私がこのツアーに参加したきっかけは、海外の人と交流してみたいと思ったことと、国際交流の架け橋として沖縄の文化を伝える役目を果たしたいと思ったからです。

四泊五日という長いようで短かった会でしたが、いろんな国の方と触れあえたことはこれまでの私の人生で特に印象に残る経験になりました。中でも楽しかった思い出は、みんなで「てんぶす館」の前でエイサーを披露したことです。練習期間はとても短かったのですが、限られた時間で片言の日本語や英語、ジェスチャーを交えながら一生懸命会話しながら覚えました。国際通りを歩く沢山の人の前で演技をすることはとても緊張しましたが、最後まで演技を披露することが出来て良かったなと思いました。一緒に覚えた葉月さんやオーロルさん達もかっこよく踊れたようで満足していました。

この会で大変だったのは、言葉の違いです。英語を話すのが苦手な私はコミュニケーションをとるのに周りの人よりも時間がかかりました。けれども、ジェスチャーなどを交えて相手とコミュニケーションをとることが出来たので相手に気持ちが通じたときは嬉しかったしほっとしました。また、言葉がわからなくても一生懸命に伝えようとする気持ちをもつことが出来て自分自身のためになる良い経験が出来たと思います。

一つだけ心残りなのは、私はツアー中に体調不良でみんなと一緒に行動出来なかった日がありました。一番楽しみにしていたグループ対抗のゲームも出来なくて本当に残念な気持ちでした。けれども、翌日にグループのみんなからゲームでてにした景品を貰った時は参加は出来ませんでした、みんなの優しさがとても嬉しい気持ちになりました。

最後の「さよならパーティー」では、この会に参加した喜びを一人一人発表しました。参加したメンバー全員が号泣です。私も、涙で言いたいことをうまく話せなくて困りました。このときみんなに伝えたかったことは、「このメンバーに会えて良かった。一緒に過ごせて毎日が楽しかった。また会いたい。」という気持ちです。この会のみんなが流した涙は別れの涙じゃなく、また会うときの涙なのかなと私なりに思いました。四泊五日はあっという間に過ぎてしまいましたが、来年は、この沖縄で「世界のうちなーんちゅ大会」が開かれるので、できるのならそのときにみんなにまた会いたいです。

私は、「ジュニアスタディーツアー」に参加出来たことを誇りに思います。また、学校に戻ってもこの経験を生かして勉強にも取り組み大好きな旗頭や生徒会活動にも積極的に頑張り、これからも沢山の仲間を作っていきます。参加させて下さってありがとうございました。

神谷 美帆

MIHO KAMIYA

糸満高等学校二年



ジュニアスタディーツアーを終えての感想

私がこのジュニアスタディーツアーに応募したきっかけは、「外国人と触れ合いたい！」

そんな軽い気持ちでした。正直言葉の壁が薄れることはあっても、無くなることはない。と思っていました。しかし、実際に会うと、確かに最初は壁を感じたものの、いつしか言葉は壁ではなく、私達を繋ぐための大切な手段になっていたのです。

そして、時間がたつにつれて、お互いの文化や違いが見えてきました。

例えば、ブラジルと日本の高校教育の違いなどです。

私達日本の学校は普通、朝7時30分～夕方5時まで授業がありますが、基本ブラジルでは朝7時～昼の12時までで、優秀な大学に入りたい！もっと勉強したい！という人でさえも3時までの学習時間だそうです。

しかし、ブラジルはポルトガル語を使うはずなのに、みんな英語がすごく上手でした。

理由を聞いてみると、ブラジルでは大半のテレビ番組が英語だそうで、小さい頃から慣れ親しんでいるからだということでした。

また、アメリカ人もスペイン語がとても悠長で、日本人がカタコトの英語で頑張って伝えた事を、アメリカ人がスペイン系の人たちに通訳する。という部分もあって、正直悔しかったです。

このようにたった1週間の間にお互いの国の長所や短所もみることができました。

私がこのツアーで一番思い出深かったのは、トレッキングです。山の中の川に入ったりして自然を学びました。そのときに思ったのは、外国人は想像通りのレディーファースト、ということです。日本の男子と違って、外国人の男子は女子が転ばないようにエスコートをしてくれ、後ろの女子のペースに合わせて、危険なところは自分から行って、女子には安全ルートを教えるなど本当に大切にしてくれました。

そこで私は「結婚するなら外国人にしよう。」と心の中で決めました。

あと思い出に残っているのは糸満青年の家の夜の事です。

みんなで1つの部屋に集まり、マジックをしたり、メールアドレスを交換したり、自分の住んでいる国の話をしたり、韓国のお話をしたり、東方神起やBIGBANGのお話をしたり・・・

とてもたわいのない話ばかりでしたが、あの時間がみんなの仲をととても深めてくれたと思います。

さて、最初に書いたように、言葉はいつのまにか私達を繋ぐ手段でした。

特にスペイン語は日本人みんなが興味をもち、1週間で単語をいくつも覚えることができました。そのときに、「留学したら英語がぺらぺらになる。」というのは本当だと思いました。

私自身もスペイン語にととても関心がわき、スペイン語圏の人たちととても仲良くなることができました。

最後に、このジュニアスタディーツアーを支えてくださった皆様に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。キャンプファイヤーや、ゲームなどを一生懸命考えてくださったOBをはじめ、ジュニアスタディーツアーを計画してくれた方、伊地さんやマリアさん。

こんなにすばらしいツアーは今後沖縄と世界を繋ぐ架け橋にきつとなるとと思います。なので、今後もずっと続けてほしいと思いました。

JST最高！！！！

山城 美鈴

MISUZU YAMASHIRO

糸満高等学校三年



ジュニアスタディーツアー

私は今回このスタディーツアーに参加して本物に
 かったと思っています。最初は海外から訪れるウチナ
 チュに会うのを楽しみにしてましたが、同じ沖縄在住の参加者も誰一人知らなかったので、最初はとても緊張
 しました。まず初めに参加者と対面した時は、すぐにでも慣れようと自分から進んで話をかけました。やは
 最初は緊張して、言葉は通じるのかとか不安がありましたが、皆本当に話しやすくてその不安も一気になくな
 りました。

このスタディーツアーでは、皆で美ら海水族館や首里城を訪問しました。沖縄に住んでいる私でも、首里城
 行くのは初めてだったので本当に良い機会だと思いました。また、現地に向かうバスの中では、海外参加者や
 沖縄在住の参加者達とより仲良くなることができました。

朝早くからのアスレチック体験は、初めてだったので本当に楽しかったです。朝起きるのはきつかったけど
 皆で長い間探検することは滅多にできないことだと思います。そのアスレチックの後のバーベキューはとキャ
 プファイアもとても印象に残っています。キャンプファイアでは皆でダンスをしたり、私はリーダーだった
 で火を受け継ぐ役もしました。その後のグループ対抗のゲームも、皆と協力し合ってとても楽しかったです。

皆で観光をしたり、アスレチックやキャンプファイアも楽しかったのですが、私が一番楽しかったのは就寝
 や部屋待機の時に、皆で話をしたこと です。言葉や文化も違う人達と恋愛話やいろいろな話をする事は、中
 できないことなので夜は本当に盛り上がりました。一つの部屋に皆で集まって遊んだ時も 本当に楽しかった
 す。

毎日汗を流して練習したエイサーは、団結力も生まれました。実際、テンプス前で披露したエイサーは本物
 かって良く踊れました。

沖縄の歴史勉強の時に訪れた平和資料館では、地元でもあるので二・三回は訪れたことがあります。海外の
 チナンチュと行った時は、なぜかわからないけれど不思議な気持ちになりました。また、皆先祖が体験してき
 ことをより深く考えられたと思います。私もより一層感じられました。今回皆で平和資料館に行って良かった
 です。

私は今回このスタディーツアーに参加する前は、英語にしかあまり興味がありませんでしたが、今ではいろ
 ろな言語にとっても興味が湧いてきました。まず、言葉が通じなくても伝えたいという気持ちがあれば、世界中
 人々と話すことができるんだなととても強く感じました。私は将来、国際関係の仕事に就きたいと思ってい
 す。今回の経験を生かしていきたいと思います。ジュニアスタディーツアー最高！ Te Amo！

上原 壮登

MASATO UEHARA

浦添高等学校三年



ジュニアスタディツアーを終えて

この7日間のジュニアスタディツアー、振り返ってみると本当に楽しくて、勉強になる、とても良い体験がで

きました。

最初は、言葉や文化の違いで、コミュニケーションとれるか、など、いろいろと不安だらけで、正直、うまくやっていけないんじゃないかと思っていました。でも、みんなフレンドリーで、話しやすく、すぐに仲良くなれました。

初日のウェルカムパーティーの空手や三線、みんなで踊ったサンバは今でも忘れられません。また、ブラジルやカナダなど、いろんな国の話を聞いて、日本とは違った文化も学べて勉強になりました。二日目は、みんなで海に行ったのが印象に残っています。ビーチサッカーでは、カナダのハズキ、ドイツのタクヤ、ブラジルのユウゾウが本場のサッカーを見せてくれて、本当にすごかったです。海で飛んだり、肩車したりして、楽しかったです。この日の夜に夜中2時までポーカールーして遊んだのはいい思い出です。

トレッキングでは、山を登ったり、川を泳いだり、きつかったけど海外からの参加者がリードしてくれて、とても紳士的でした。こういうところもしっかり学ぶことができました。自分がジュニアスタディツアーで一番楽しかったのは、なんといってもバーベキューです。卒業生のみなさんが考えてくれたゲームは本当に盛り上がり、あっという間に時間が過ぎていきました。やっぱり、楽しむ心はどれも一緒だな、と感じました。

また、首里城や県立博物館、紅型を作ったりして、沖縄の歴史や文化を学ぶことができました。こういった歴史、文化を守り、受け継いでいくのが自分達の役目だと実感しました。マチグァー散策では、自分達の沖縄をたくさん紹介することができて楽しかったです。エイサーも練習したかいあって、みんなで心を一つにし、大成功で終わることができました。

こうやって、振り返ってみて、本当に沖縄で生まれて良かったな、ウチナーンチュで良かったな、と強く感じ、また、ウチナーンチュとしての誇りが持てました。最後のさよならパーティーでは、本当に涙が止まらないくらい感動的で、みんなと別れたくなかったです。でも、これで終わりじゃなく、ウチナーンチュの絆で繋がっていると信じています。また、海外からの参加者は、遠くはなれた場所からでも沖縄の文化をしっかり受け継いでいるので、沖縄にいる自分達が文化を守り、受け継ぐことが大切だと思っています。このジュニアスタディツアーがこんなに成功できたのも、影で支えてくれたスタッフのみなさんや卒業生のみなさんのおかげでした。本当に感謝しています。この夏、一生に残る思い出ができました。ありがとうございました。

新垣 日奈子

HINAKO ARAKAKI

南部農林高等学校二年



ジュニアスタディーツアーに参加して

私は、ジュニアスタディーツアーに参加することができ、様々な国のの人々と交流し、いろいろな文化や価値観があ

ることを学ぶことができました。

また、首里城の見学やエイサー体験など、沖縄の文化を再確認することもでき、素晴らしいキズナで結ばれているうちなーんちゅの心や誇りを感じ、自分がうちなーんちゅであることに誇りを持つことができました。

7月19日 オリエンテーションで外国から来た参加者との初対面の日です。みんな緊張している様子でしたが、キャンディーゲームや写真当てゲームなどいろいろなゲームを楽しみました。ゲームが終わるころにはみんな仲良くなっていました。

7月21日 県庁での歓迎セレモニーの日です。参加者の国の旗を持って整列し、副知事から歓迎の言葉をいただきました。私は、新聞記者やテレビ局のカメラが回っていて、とても緊張しました。

7月22日 交流会で発表するためにエイサーの練習が始まりました。なんと先生はカメラマンを担当している国吉先生でした。教え方がとっても上手で、わかりやすかったです。6日目の演舞の日まできちんと踊れるように頑張ります。

7月23日 那覇市伝統工芸館で三線と紅型を体験しました。三線はずっと前から「習いたい」と思っていたので、うれしかったです。

三線は右手で糸を弾き、左手で糸をおさえることを同時に行うので、初心者の中には、とても難しいものでした。でも、最後にみんなで弾いた「安里屋ユンタ」は美しい音色で自分が弾いていることがすごくうれしかったです。三線の練習は家に帰っても、練習を続けてもっと上手に弾けるようになりたいと思いました。

7月24日 平和祈念資料館とひめゆり平和祈念資料館の見学をしました。

この美しい島沖縄が、まるで地獄のようであったといわれる戦争の記録がいろいろと展示されています。

私と同じ年頃なのに、神風特攻隊やひめゆり学徒隊として動員されて、その記録を見ると涙が出てきます。

戦争は恐ろしいものであると改めて認識させられました。戦争はたくさんの人の命や家や学校や大切なものも全て失ってしまいます。

もう二度と起こしてはいけないと思うけれど、私たちの頭上を飛ぶ米軍のヘリコプターや住宅や学校のすぐ側にある基地、常に危険と隣り合わせの状況で私達は生きています。

私は世界中から戦争をなくすために、沖縄県民全員で戦争の悲惨さ、平和の尊さを訴えるべきだと思います。

7月25日 エイサー演舞の日です。覚えたてのエイサーを那覇市伝統工芸館前の広場で披露しました。楽しかったです。

7月26日 最終日のさよならパーティーの日です。私はこんなに素敵な仲間達に出会えたことに感謝しています。ツアーを企画して下さった皆様や支えて下さった皆様本当にありがとうございました。これからもずっと続けてほしいです。

富名腰 明里

AKARI FUNAKOSHI

開邦高等学校一年



ジュニアスタディーツアー

「本当に楽しかったよ。ありがとう」これは、Jr. スタディーツアーを終えて、私の心にあった言葉です。正直、初めは「海外の人達と友達になりたい」そんな軽い気持ちで参加していました。本当に、この体験が私の人生に大きな影響を与えるようになるなんて思っていませんでした。

ツアーの初日、たくさんの不安とたくさんの期待を胸に、参加者のみんなと話しました。最初はみんな他人行儀だったけど、すぐにうちとける事ができました。海外参加者のみんなも、私の下手な英語を一生懸命きいてくれました。そして少しずつ会話ができるようになり、嬉しかったのをよく覚えています。

みんなと仲良くなってからは、とても充実した楽しい日々でした。1日1日がとても短く感じました。みんなといろんな所にいったけど、思いだすのはやっぱり、他愛もないことばかりです。バスの中でみんなで歌ったり、みんなで通訳しあいながら恋バナしたり…。思いだすと涙がでてきてしまいます。海外参加者が帰る時は、空港で泣いてばかりでした。みんなとお別れするのがとても辛かったです。「出会いあれば別れあり」この言葉を初めて強く実感しました。ツアー終了後は本当に辛くて、脱力感に襲われた日々をすごしていました。しかし、今は違います。世界はとても広いけど、ひとつです。みんなとまた会えることを信じています。

また、一週間でこれだけ海外の人達と仲良くなれるんだったら、世界平和も夢ではない気がしました。戦争が世界からなくなる日がくるんじゃないかと考えるようになりました。私達子供でも、互いの文化を理解することができました。私達子供でも、言葉の壁を乗り越えて友達になることができました。だったら、国を運営する大人たちもできるに違いありません。きっと、この事にだれもが気づく時がくるに違いありません。そして私は、世界が少しでも平和に近づくのに貢献できる人になりたいです。このツアーを通してこのように考えるようになりました。

最後に、私は、本当にこのJr. スタディーツアーに参加できたことを感謝しています。最後の最後までたくさんのスタッフの皆様に迷惑をかけてしまいました。ごめんなさい。そして、寝る間もおしず、支えてくれたおかげで、楽しく一週間過ごすことができました。ありがとうございました。

Jr. スタディーツアーでの貴重な体験は、私の宝物です。この広い世界の中でみんなに出会えた奇跡に感謝しています。この体験を胸に、これからも将来にむけてがんばっていきたいです。

根路銘 真歩

MAHO NEROME

開邦高等学校一年



Junior Study Tour

私が、このジュニアスタディーツアーに参加するきっかけとなったのは、友達の勧めからです。私は英語科でもあり、外国の人との交流には大変興味がありました。そのため、自分の語学力がどれくらい通用するか、チャレンジしてみたいという程度で応募しました。

ジュニアスタディーツアーでは、始めは皆の名前を覚える事に必死でした。また、少しでも自分の事を覚えてもらおうと下手くそな英語でコミュニケーションを図りました。皆は私の聞き取りにくい英語を一生懸命、瞬き1つせず聞いてくれました。自分の語学力に自信があったわけではありませんが、皆が優しく、温かいので、楽しい1週間になりました。

様々な国から沖縄という1つの場所に集まって一緒に生活をするというのは、とても不思議な感じで、この出会いは奇跡のように感じました。

しかし、出会いがあれば、別れもあります。別れの日、私は朝から晩まで飛行場に滞在し、仲間の一人一人がそれぞれの国に帰っていつてしまうのを、見送りました。その時、みんながそれぞれの国へ帰ってしまったら、もう二度と会えないかもしれない。という思いが頭をよぎり、私は赤ちゃんに退行しているかのように泣き崩れました。

始めは、1週間という短い期間の上、言葉の違いや文化の違いという壁もあるため、外国の人と「友情関係」を築くことが出来るとは思ってもいませんでした。しかし、言葉が通じなくても、一緒に笑い合いました。文化の違いがあっても、お互いがお互いを理解し、認め合いました。そうして気付いてみると、素晴らしい「友情関係」を築いていました。私は、みんなからこのようなとても大切なことを学びました。それは、言葉の違いや文化の違いなどといった壁などよりも、遥かに大切なものでした。

これからの私の人生の先には星の数程多くの「新しい出会い」があるでしょう。その時にはジュニアスタディーツアーの仲間が教えてくれたことを胸に、新しい「友情関係」を築いていけるよう努めていきたいと思います。とても大切なことを教えてくれたみんな、ほんとうにありがとう。

浜川 涼夏

SUZUKA HAMAKAWA

那覇西高等学校一年



ジュニアスタディーツアー

私は今回のJSTで学んだ事や楽しかった事、初めて体験したことがたくさんあります。

学んだ事は、沖縄の歴史や文化や戦争の悲劇とか各国の文化などです。特に心に残ったのは、戦争を体験した人の話です。ひめゆり学徒隊の人とで話の内容が凄くて、本当にこんなことを体験してきたんだと思いました。もう二度とこんな体験をする人がいないようにしないとイケないなあとと思いました。

体験したことは、びん型体験とエイサー体験です。びん型体験はこの色にはこれって決まっているからとても難しく、色んなバランスとか考えないとイケないんだなあとと思いました。

エイサー体験は、初めてやるのだったからめちゃくちゃ難しかったです。

練習は大変だったけど、皆、毎日上達していったすこしづつ楽しくなっていくって、本番の日には皆で頑張って合わせて、みるくむなり歌ってるひとにも会えたしよかったです!!

夜とかのお泊りは、めっちゃ楽しかったです!各国の言葉を教えてもらったり、JST参加してる男を皆でYESorNOとかで言ったりしてしに爆笑でした他にも、夜第一回ばーりないとしてそこで皆と初めて喋って、写真とかばんない撮って、騒いで怒られて一みたいな感じでめちゃくちゃ楽しかったです!!

第二回のばーりないとは、ピリーがマジック見せてくれたりしてめっちゃ凄かったです(・ω・)

皆、打ち解けやすくて、違う国の言葉喋ってるのになぜか通じ合ったりしてやっぱ沖縄人魂があるんだなあと思いました。

私は正直、最初JSTに参加したときは言葉通じないだろうなとかなんか喋りかけるのが怖いとかであんま喋ったりしなくて、一週間とかしに長い一、とかであんま一だったのに、一日皆と過ごす少し打ち解け、二日たつと皆で冗談言ったり爆笑したりして、一週間が本当にあつとゆうまで、あんなに大変とか思ってた一週間がもう一度あってほしいと思いました。

最後の皆が帰国する日は皆で空港まで見送りいきました。一人一人飛行機に乗るのを見ると、一日一日の楽しかった思いでが浮かんできて本当に悲しくなりました。

最後の二人を見送った時には号泣で涙が止まらなかったです。いつか、海外組に会いに行きたいと思います。JSTで私は本当に成長したし、この一週間は私にとってのかけがえのない宝物になりました。JSTで知り合った友達達は、一生ものだしこれからも一生友達です。

本当に皆に逢えてよかったです。

皆TEAMO\(^o^)/

酒井 真歩

MAHO SAKAI

那覇高等学校一年



ジュニアスタディーツアー

私が最初にこのツアーを知ったのは、姉や友人が以前にこのツアーに参加していたことがきっかけでした。

もともと英語が好きだったし、ツアーに参加した人から勧められて楽しそうだからやってみよう！と思って参加しました。

しかしツアーに参加する以前の私は人見知りするし、直接海外の人と会話をするといった経験がまったくなかったの、ちゃんと話すことができなくて仲良くなれなかったらどうしよう、と不安を抱いていました。

最初は、せっかくの話をする機会を目の前にしても緊張してしまっていて、

自分の気持ちをうまく伝えることができずにいました。けれど、ツアーで企画されていた交流プログラムやウェルカムパーティーを通して少しずつ話をすることができていき、寝る前の部屋での時間では緊張もすっかり忘れてしまいすごく楽しい物となっていて、一日目が終わるのがすごく短く感じました。

そして、二日目からは楽しみにしていた本格的なツアーが始まり、みんなと徐々に仲良くなることが出来ました。

三日目のトレッキングではグループで助け合いながら、大自然の中、危なっかしい山道を歩いたり、川を泳いだりなど普段できない体験をしてとっても楽しかったです。また、この日は一番楽しみにしていたキャンプファイヤーもありグループ対抗のゲームや、ダンス踊ったりしたこととても忘れられないものとなりました。

四日目は、三味線や紅型など沖縄の伝統工芸を体験など私にとっては初めての経験になるものもいくつかありすごくいい思い出となりました。

五日目は、平和記念資料館で宮良ルリさんの戦争体験を聞き、戦争について改めて考えさせられました。

そして最終日、今までみんなで練習してきたエイサーの発表会がありました。進んで自主練習に参加して、質問したりなど一緒に練習に取り組んできて、大成功したのでとても踊っていて楽しかったです。

私はこのツアーで多くの人と多く出会うことができ、その出会いの中で普段の生活では決して学ぶことのできないものを多く学ぶことができました。ここで出会うことのできた仲間は、一週間をともに過ごしたことで私にとって家族のような存在になりました。そんな素晴らしい出会いをくれたこのツアーに参加して、ここでしか得ることのできない素晴らしい経験と、かけがえのない仲間に出会うことが出来て本当に参加してよかった！と思います。このツアーで過ごした一週間は、将来の私にとっての大きな財産となり、忘れることのない一生の思い出になることだと思います。参加者の皆さん、スタッフの皆さん、ほんとうにありがとうございました。

宮城 朱里

AKARI MIYAGI

那覇西高等学校二年



JST2010 !

県内参加者

本当にいい体験になりました。

初めは他の県内参加者が積極的に海外参加者に話しかけ

ているのを見て驚きながら焦っていました。

今考えると、変なところで人見知りを発揮しているなって思います。

でも2日目からは、積極的に話しかけないとなって思い自分から話しかけるようにしました。

私は英語が苦手で本当に簡単な文しか言う事ができないので知っている単語を繋ぎながら話しかけていました。文法も全然わからなくて、海外参加者に話しかけても <???> みたいな顔をされたけど、みんな一生懸命どうゆう意味なのか考えてくれて、いつも笑顔で答えてくれました！

どんどん日が経つうちに本当に仲良くなっていて、「もっと一緒にいたいね」「あと1年一緒にいたい！1週間じゃ全然足りない！」って会話が増えました（笑）

移動のバスの中ではいつもカラオケ大会？があって本当に盛り上がってて楽しかった！！

海外参加者と一緒に沖縄のことを学んでみて沖縄に住んでいてもなかなか行くことがないところに行けたり.... 自分の知らない沖縄を沢山知る事ができました。

Junior Study Tourに参加しなければ自分の住んでいる沖縄についても深く知ることができなかったと思うし、こんなに大切に思える仲間にも会う事ができなかったし、面白くてやさしいスタッフや先輩ボランティアの皆にも会う事ができなかったと思います。本当に感謝の言葉しか出てきません^^

1週間というとても短い期間で、言葉や国の壁を乗り越えることができました。

そして、仲良くなるのに言葉とか関係ないなって...

これからもこの JST2010 ☆で出逢えた素敵な仲間たちと頻繁に連絡を取り合っていきたいです！！

これからもずっとこの JST を続けてくれると嬉しいです^^ ♪

できれば5年後くらいにまたこのメンバーで会おう！という企画も.....（笑）

本当にありがとうございました～！！！！

☆ J S T 2 0 1 0 ☆

＼ T E A M O ♪ ／

金城 海里

KAIRI KINJO

浦添高等学校三年



ジュニアスタディーツアー

私は、ジュニアスタディーツアーに参加し、沖縄の人々の心の奥底にある繋がりを感じた気がしました。という

より人と人が繋がりあえる瞬間をとっても感じました。

私は、このツアーに外国の人々と交流ができると思って参加しました。このツアーでは沖縄の数々の文化的施設に行き、改めて沖縄の文化を確認することができました。ツアーの前日のオリエンテーションで県内参加者ともあまり交流することもできないまま迎えた初日はとてつもなく不安でした。その時は来たの間違いだったかなと思ったりもしました。そんな中で、県外参加者と交流するときは不安でいっぱいでした。だけど、勇気をもってわかる範囲の言葉で、話しかけたら笑顔で触れ合ってくれたので、話しかけて良かったと安心しました。その後ボランティアスタッフの方々が行ってくれた交流プログラムのおかげで、全参加者との距離が縮まったのを覚えています大浴場に入ってお風呂パーティーと大喜びしてる県外参加者と一緒にお風呂を楽しみました。

二日目、バス移動が多い一日でした。そして移動の間はずっとカラオケを歌ってとても楽しかったです。最初は、県内参加者、県外参加者が互いに固まってたのですが、県外参加者が私の名前を呼んで後ろの席に誘ってくれた時はとても嬉しかったです。短い時間だったけどみんなでやったビーチサッカーはみんなのうまさにびっくりしました。

三日目のつつじエコパークでのトレッキングは予想以上の距離、予想以上の深さに体力には自信はあるつもりだったけど、とても疲れしました。その後の休憩時間に、公園でユウゾウとユウキといろんな話をしてとても仲良くなりました。そして待ちに待ったバーベキュー、みんなで頑張ってたのでとてもおいしかったです。そしてキャンプファイヤー、ゲームやダンスを通してみんなとの距離がとても縮まりました。そしてその日の夜、私の部屋は県外参加者だけで、さらに日本語をうまく話せる人もいなくて不安だったけど、知ってる限りの英語で話に交じることができてその日の夜は遅くまで話したのを覚えています。

四日目は、沖縄の歴史を学びながら、県外参加者の意見なども聞きながら学ぶことができたので一つの考えだけが正しくないことを知りました。

五日目に、戦争の恐ろしさを学びました。戦争について知っているつもりだったけど、まだまだ無知だなと思いました。沖縄の伝統工芸に触れられたこともいい経験になりました。

六日目に沖縄移民の歴史を学びました。そしてこの日のために練習してきたエイサー演舞の披露がありました。とても緊張したけど終わった時には喜びがこみあげてきました。

七日目のサヨナラパーティーは、終わるんだという実感がありませんでした。でも、発表の時にみんなが泣いてるのを見て、ああ本当に終わるんだと分かりました。みんなの出し物を見て、みんなで島人ぬ宝を歌って笑顔でパーティを終えました。次の日見送りで、自然と泣いてました。私が思ってた以上にこのツアーの参加者が強い絆で繋がってることに気づきました。言葉の壁も、文化の違いも越えて心で通じ合えることができました。きっとこの繋がりがいつか世界のうちなんちゅを繋ぐ手助けをすると私は信じています。このツアー私の考え方をいい意味で変えてくれてました。私はこの経験が私の人生で重要なことだったといつか知るはずです。最後に、このツアーを成功させるために尽力してくれた人々に感謝したいと思います。

渡 麻里江

MARIE WATARI

那覇国際高等学校二年



JSTに参加して

私はJunior Study Tour in 2010に参加できて本当に良かったと思っています。予想していた以上の経験・感

動を得ることができたと実感しています。

初めて県内メンバーと対面した事前研修。ボランティアスタッフの協力もあって1週間を共に過ごす県内に暮らす仲間と打ち解ける事ができました。

本研修1日目。海外メンバーと初めての対面。そして1週間の旅の始まり。楽しみや期待に胸を膨らませながらも、不安・緊張でいっぱいでした。しかし、自己紹介やゲーム、パーティーを通して交流していく中でメンバーとコミュニケーションを取ることができ、不安や緊張が薄れていくのがわかりました。

2日目。県知事表敬式典では各国旗を持ち、県内メンバーは沖縄県代表として研修に向けてのあいさつをしました。そのあと、サミットが開催された万国津梁館を見学したあとに、美ら海水族館、エメラルドビーチでの海水浴を楽しみました。美ら海水族館は過去に何度も行った事があったので、飽きたような目で見ていたのですが、海外メンバーの質問に答えられなかったり説明できなかったりしたことにとっても衝撃を受け、真剣に見学し、学習しました。そうすることで、それまで知らなかった沖縄の海の現状についてより深く知ることができ、私に出来ることは何か、ということを考えさせられる時間となりました。

3日目。この日はトレッキングをしました。9時から12時までの3時間という長丁場でしたが、お互いが助け合い、協力しながら全員でゴールすることができました。この体験を通して、世界でも生きるユイマール精神を強く感じ、とても印象に残っています。また、この日からエイサーの練習が始まりました。ミルクムナリは踊った経験があるので楽勝だろうと思っていたのですが、細かいタイミング等を意識してみると難しい曲なのだとわかりました。そして、楽しみにしていたキャンプファイヤー。バーベキューも食べてテンションも高くなってとても楽しかったです。灯火儀式をしたり、班対抗のゲームをしたり、ダンスもしたりととても充実した一夜でした。

歴史・文化学習を行った4日目。首里城見学や石畳を歩いたり、博物館を見学し、実際に三線体験・紅型体験もすることができました。正真正銘のウチナンチュに近付けた気がして嬉しかったです。

5日目は平和・社会学習をしました。平和祈念公園に訪れた事はありませんでしたが、ひめゆり平和祈念公園を訪れるのは初めてでした。また、平和の礎ではタクヤが名前を写していて、このような光景を見るのは初めてだったのでとても印象に残っています。午後の社会学習では国際通りを散策しました。普段は行かない裏道も散策でき、違った視点からの国際通りを見ることができ、とても面白かったです。

6日目はテンプス館で色んな国と沖縄の歴史的関わりや、移民について勉強しました。中山さんの体験談も聞くことができ、とても勉強になりました。午後はテンプス館前でエイサー演舞がありました。1週間という短期間でお互いに協力しあい、一生懸命練習した成果を披露することができ、とても感動しました。

そして最終日の7日目。一晩皆と離れただけでも寂しかったのに、皆とこうして騒げるのは今日が最後なんだと考えるととても悲しくなりました。さよならパーティーでは、修了式を受けたり、エイサー演舞をしたり、一人ずつスピーチをしたり、とても感動的な一日でした。あの日皆からたくさんの寄せ書きをもらったTシャツはとても大事な宝物です。

この旅を通して、たくさんの物を得ることができました。一番の目的であった英語力の向上はもちろんのこと、英語圏外に住んでいるメンバーとも話す中で、スペイン語やポルトガル語、ドイツ語、フランス語にも興味を持ちました。各国の文化にも触れることができ、お互いを認め合い、言語などの障害を超えて心が通じ合った時の感動を味わう事ができました。また、海外にも受け継がれている沖縄の血を肌で感じる事ができ、とても嬉しく思いました。きっとこのプログラムに参加しなければ出会えなかった仲間達。短い期間でしたがこんなにも仲良くなり、一緒に笑い合えた事を誇りに思います。この一週間で学校では学べないようなことがたくさん学ぶことができました。この経験を活かし、学校・地域生活を送っていきたいです。Junior Study Tourに参加させて頂き、本当にありがとうございました。これからのTourの発展に期待すると共に、ボランティアという立場からサポートしていきたいと思っています。

T e a m o

崎本 未来

MIRAI SAKIMOTO

那覇西高等学校二年



ジュニアスタディーツアー

ジュニアスタディーツアーに参加して、私は素晴らしい体験ができました。

国が違って、言語が違って、みんなウチナンチュってことがわかりました。

言葉が通じなくても、ジェスチャーで表せば伝わります。

最初は、恥ずかしくて喋れなかったけど

後から、なれてきて仲良くなれました。

恥ずかしがってた時間をもったいないと

みんなと過ごしていくうちに思いました。

1週間という長くて短い期間は

参加者みんなが成長できたと思います。

2日目のキャンプファイヤーは、とても楽しく踊ったり、

チーム対抗でゲームをしたりなど

ここから少しずつ絆が深まりました。

自由時間では、サッカーやバレーをしたり

今、思い出すと泣きそうなくらい充実してました。

そして、みんなでエイサー練習したのも良い経験になりました。

最初のころは、体調を崩す人などいましたが

一人残らず国際通りでエイサーを披露できて良かったです。

最終日には、みんなと離れるのが嫌で

たくさん泣きましたが、みんなからのメッセージが書かれている

ジュニアスタディーツアーのTシャツを宝物とし、

寂しくなったら、いつでも読みたいとおもいます。

最初は、こんなに仲良くなれるとは思わなくて、とても素晴らしい

体験、仲間、思い出、絆ができたと思います。

このジュニアスタディーツアーに応募して良かったです。

この経験を忘れず、これからの生活にいかしたいと思います。

そして、私がお金を稼げるようになったら

みんなの国へ行きたいと思います。

いつでもJSTの心は一つ！！

岸本 麻衣

MAI KISHIMOTO

那覇西高等学校二年



ジュニアスタディーツアー

私わこのジュニアスタディーツアーに参加して沢山の事を学びました。

初めて他国との交流を深め、楽しい事もあれば辛い事もありました。

このスタディーツアーでは海外から参加した人と県内参加者が五泊ともに過ごして、沖縄の自然や文化にふれ交流をし絆を深める事が出来るのです。私は、興味があつたし、それに何よりも外国人と話たいという気持ちがあつたので参加しました！

まず初日はかんぼレクセンターという場所で宿泊しました。初日なのでオリエンテーションをやりました。参加者の自己紹介や班分け、班長紹介などをやりました！それから Welcome パーティーをやりました！みんなでバイキング形式で夕食を食べました。私は初めわ全然話せないし、人見知りをしてしまい話せませんでした。しかし海外参加者のアルゼンチンの子が話をしてくれて話す事ができました！食べた後は、それぞれ出し物をして県内参加者のまほちゃん、あかりちゃんが三線を弾いたり、アメリカ出身のジェイシーが空手を、ブラジル出身の友三とユーキと照美がブラジルダンスを披露してくれました。ブラジルダンスではみんなで舞台上で踊り、初日とは思えないほどみんな打ち解けて最高でした。私は、初日は絶対打ち解けないなと思っていましたが、予想とは違いと〜っても楽しめました！

二日目わ自然学習で海洋博や美ら海水族館に行き、イルカショーやジンベイザメを見ました。私はアルゼンチン出身のパウラと周りまわりました。沢山英語で質問されて初めは戸惑いましたが、私の得意なジェスチャーで何とか通じました！（笑）水族館の後はビーチに行き、みんなで海で泳いだり、おにごっこしたりしました！ホテルに戻るバスではみんな仲良くなり話したり、写メを写して、徐々に慣れてきました。話す時にも私がどうしても分からない会話を日本語が上手なジェイシーが中継をして、話をしたり、一番バスの中が楽しかったです♪

3日目はホテルの山でトッキングをしました。初めての体験でまだ話してない人も多々いて正直不安でした…。しかしみんなフレンドリーで私の不安が一気に吹き飛びました！男女関係なくハイタッチしたり、冗談をいったりして楽しかったです。途中で道を間違えるというハプニングもあって大変でしたが、みんな文句を言わず、逆に楽しんでいました。一番おお〜！っと驚いたのは日本人には中々見られない男子がとてもジェントルマンでガールズに手を貸してくれたり、エスコートしてくれました。少し胸キュンしました（笑）結婚するなら外人がいいな〜と思いました！！（笑）このトッキングで凄く距離が縮まり男女仲良くなれました。3日目から、エイサー練習を初めました。

4日目から6日目も色々な事をやりました。文化学習で沖縄博物館や、首里城にも行きました。三線を習ったり、びん型作りを体験したりしました！県内参加者も海外参加者もみんなで色々な体験が出来てよかったと思います！私は今まで沖縄の文化など知らない部分も沢山ありましたが、このツアーに参加して沢山知る事が出来ました。

6日目はテンプスでみんなで教わったエイサーをお客の前で披露しました！みんなで教えあってとても練習したかいがあり、無事沢山の拍手をもらい成功しました。その瞬間みんなで抱き合いまだ別れでもないのにとても涙が止まりませんでした。私わ前までは他人だったのにこんなに打ち解けてしかも共に感動を味わうなんて思ってたんです。

そしてツアー最終日わお別れパーティーをやりました。私は海外参加者みんなにお土産をプレゼントしました！みんなとても喜んでいてケンには、まい Te amo..!!! と抱きつかれました（笑）私わこのツアーでこんなに仲良くなれるとは思いませんでした♪

最後にツアー参加者全員一分間スピーチをやりました。みんなほとんどが泣いていました。私ももらい泣きをしてしまい上手く話せませんでした…。そんな時にもジェイシーやマッケンジーがマイ〜ガンバレ！と励ましてくれて余計に泣いてしまいました。最後に全員で島ちゅぬ宝を歌って5泊6日の Jr. スタディーが終わりました。最後はみんなで抱き合い、T シャツにメッセージを書いたり、写メを写したり、それぞれ最後の思い出を作りました。

正直私は別れがこんなに辛いとは思いませんでした。このツアーに参加できてよかったと思います♪このツアーは中々ない機会だと思います。またこのツアーを通して将来の道も広がると思います。

このツアーを企画してくれた勝連さんを初め、Jr. スタディーツアーのスタッフ、このツアーを盛り上げてくださったボランティアの皆さん！！最高の Jr. スタディーツアーに参加させて頂きありがとうございます。感謝感謝でいっぱいです！来年はボランティアとして頑張っていきたいです！

Jr. スタディーツアー最高!!! TE AMOOOOO!!!!!!!

名嘉真 千咲

CHISA NAKAMA

那覇国際高等学校二年



ジュニアスタディーツアー

私はジュニアスタディーツアーに参加して、多くの事を学ぶことができました。

1 日目は、私は期待と不安で胸がいっぱいでした。あんなに多くの外国人と交流するのは初めてで、仲良くなれるか心配だったのです。しかし、私がいきなり話しかけたり、カタコトの笑顔を喋っても笑顔で対応してくれてその不安はすぐに消えました。また、一緒にレクやダンスをしたり、外国について学んだりしてすぐに打ち解けることができ、とても嬉しかったです。言葉が通じなくても、身振り手振りで伝えたいと思ったらちゃんと伝わると分かった1日でした。

2 日目は、みんなで美ら海水族館やエメラルドビーチに行きました。移動中のバスで、お喋りをしたりして楽しかったのを覚えています。みんな個性的で、しかも日本語を上手に話せる人が何人もいて驚きました。この日は、前日より外国の人と一緒に行動することが多くて、一緒にご飯を食べたり遊んだりして、もっと仲良くなることができました。また、外国の人と部屋も一緒に、緊張しましたがいろんな話が出来てとても充実しました。

3 日目は、人生初のトレッキングをしました。私は泳ぐことが苦手で、途中何度も深い場所があって大変でしたが、みんなが助けてくれてとても助かりました。みんな優しく、良い人たちだと改めて分かりました。その後は、私が楽しみにしていたバーベキューとキャンプファイヤーをしました。キャンプファイヤーの前のレクでは、ボランティアの方々のおかげ楽しい時間を送ることができました。沖縄にずっと住んでいる私より、外国の人の方が沖縄について詳しくて焦りました(笑)

3 日目は、みんなが大好きになったて、もっとみんなについて知りたいと思った1日でした。

4 日目は、首里城や博物館に行きました。この日は移動中のバスで、ずっとスペイン語を習いました。今までは英語にしか興味がなかった私でしたが、この時にもっといろんな国の言葉や文化について知りたいと強く思いました。夜になると、みんなで1つの部屋に集まっていっぱい騒ぎました。今思えばスタッフや周りの人にとっても迷惑をかけていたと思います(笑)でも、とっても面白かったです。

5 日目は、平和記念公園やひめゆりに行って戦争の悲惨さ、平和の尊さについて学習しました。体験談を聞いたとき、本当に戦争は恐ろしいと思いました。今、こうして平和な毎日を送れていることがとても幸せだと感じました。その後は、那覇に戻ってマチグワァー散策をしました。今まで行ったことの無い場所に案内してもらって、とても楽しかったです。

6 日目は移民について勉強したあと、私たちがずっと練習してきたエイサーを発表しました。今まで頑張ってきたので、間違えずに最後まで踊れたときは思わず涙がでてしまいました。また、このみんなと宿泊せず各自の家へ帰宅だったので、とても寂しかったです。

7 日目はとうとう最終日で、さよならパーティーをしました。みんなのジュニアスタディーツアーの感想を聞いたとき、一日一日の思い出が頭の中に鮮明浮かんで、もっとみんなと一緒にいたいと強く思いました。みんなの出し物や、写真を見てとても充実した長いようで短い一週間だったなと感じました。このツアーに参加して、本当に良かったです。

スタッフや、ボランティア、JST関係者の皆さん、色々ありがとうございました。たくさん迷惑をかけてしまったと思いますが、皆さんのおかげで今までで一番楽しく思い出に残る一週間を送ることが出来ました。そして、10期のこのメンバーに出会えて、本当に私は幸せです。みんな優しく良いところを沢山持っていて、大好きです。一週間と短い間でしたが、みんなと過ごした日々は私にとってとても大切な思い出ばかりです。ジュニアスタディーツアーに参加して、本当に良かったと思います。みんなの事はこれから先絶対に忘れません。またみんなで会えることを楽しみにしています。Te Amo!!

楚南 琴子

KOTONE SONAN

那覇西高等学校一年



ジュニアスタディーツアー

私わこのJSTに参加して本当に良かったと思いますっ
!!♪

最初、参加した時わとても不安だったし、この1週間がとても心配でした(〸_〸)

だけど、STAFFの皆さんが最初から盛り上げてくれて皆と仲良くなれることが出来ましたっ(o^▽^o)

1日目わ外国人の自己紹介やゲームなどをやりました!!

初めわコミュニケーションが上手く出来ず、相手が何を言ってるのかもわからなく、自分が言いたい事も上手く伝えられませんでしたしかし、一緒に過ごしてるうちに言葉とか関係なく無条件で友達になることができました!

仲良くなっていくうちに相手の国の事や、学校の事を知ることができましたっ(*^o^*)

夜わ Welcome partyで沢山美味しい食べ物を食べましたっ♪笑

2日目わ美ら海水族館に行きましたっ!!最初わ自由に回って、水族館の生き物を見ましたっ★そこで外国人と写真を撮ったりしました♪次わイルカショーを見ました!まいサンと キレイと一緒にメッチャ興奮しました(*^o^*)笑

イルカショーを見た後わ皆でビーチに行きました♪~(^0^)

メッチャ天気も良くて気持ち良かったですっ!!女子だけで鬼ごっこもしましたっ★日焼けしたけどとても楽しかったデス!!

この日わツツジエコパークに泊まりましたっ(o^▽^o)

Member わ、美鈴サン、ジャイアン、ゆめこ、オーロル、エリカ、ユキ、アイリちゃんでした♪♪

夜わ皆でフランス語やスペイン語を習ったりしました(^▽^)

3日目わ川登りに行きました★

ちょっとだけ雨が降っていたけどちゃんと最後まで登ることができましたっ(o^▽^o)

初めて川登りをしたので、疲れたけどいい思い出が作れました!!

川登りの後わ2時間ぐらいの休憩がありましたっ♪

私達わグループみんなで恋話をしましたっ(≥▽≤)笑

メッチャ楽しかったデス!!

休憩が終わった後わ BBQでした!!自分達で肉を焼いて、焼きそばを作りましたっ(^▽^)

作った後わカイルのdanceを見ましたっ!!メッチャカッコ良かった!!!笑 そしたら、天気がどんどん良くなってきて虹が出てきました!!←感動っ

BBQが終わったらキャンプファイヤーでした!!!

キャンプファイヤーわ皆でゲームをやりましたっ(o^▽^o)

書いた絵を当てたり、ジェスチャーゲームもやりました(^▽^)

メッチャ盛り上がりました!

私達グループわなんと2位になりました♪~(^0^)まさかなれると思わなかったの、メッチャメッチャ嬉しかったデス!!その後わ Danceをしましたっ♪♪

この日わ本当に最高の1日でした(≥▽≤)

4日目わ沖縄の色々な所を

回りましたっ★

首里城に行ったり、紅型を作ったりしました(o^▽^o)

初めての体験だったけど

お話ししながら出来て良かったですっ♪

5日目わ国際通りをグループで回りました(≥▽≤)

沖縄に住んでいても

まだまだわからない事があるんだなあ~と思いました!!笑

その日わ最後の宿泊だったので、1時過ぎまで皆でPartyをしました!メッチャくちゃ楽しかったデス!

6日目わ国際通りのてんぶす館前で今まで練習したエイサーを披露しました!!緊張したけど、皆と最後まで踊ることが出来て本当に嬉しかったデス!!

この日わ私達. 県内参加者わ自分達の家に帰り. 国外参加者わ Homestay でしたっ誦! 日離れるだけでもとても寂しかったです!!

最終日わさよならpartyでした(ゝ_ゝ)

さよならpartyだけわやりたくありませんでした!

もっと皆といたかったし. もっと仲良くなりたかったからデス!!

1週間という長いようで短いこの時間わとても貴重な物になりました(o^▽^o)

離れるのわとても寂しいけど

大人になったら. いつか会えると信じていますっ!!

空港で皆と抱き合っ大泣きした事も. 皆とバスで歌ったこととかも絶対忘れませんっ!!

だから皆も忘れないでね??

みんなっ!! 大好きっ!

TE AMO (≧▽≦)



呉屋 新城 春美

GOYA ARASHIRO HARUMI

57歳

ブラジル連邦共和国

Federative Republic of Brazil

ブラジル沖縄県人会



2010年度ジュニアスタディーツアー 報告書

5月半ば頃、私はブラジル沖縄県人会会長から今年のジュニアスタディーツアーに参加する3人の引率を依頼されました。私にとって貴重な経験になると思ったことに加えて、沖縄の多くの知人友人にも会える絶好な機会であり、また溜まった休暇が利用できるということも重なり、私はこの話に飛びつきました。

県人会の理事会で正式に承認されるまでの間、先輩引率者の垣花キメイさん、与儀哲夫さん、会長の与儀昭雄さんに色々教えて頂きました。先輩方が口を揃えて言うのは、学生達の勉強であるが引率者にとっても沖縄の文化、地理など多く勉強させられるとのことで、私は大きな期待を持ちました。

サンパウロの与儀・ウイリアン・勇貴さんと玉寄・マリア・エドゥアルダ・輝美さん両名の参加者と話をする機会がありましたが、子がいない自分が他人の子の面倒を見なければならないこともあり、他人の子を世話することの責任の重さを感じました。

私達は7月13日サンパウロのグアルーリオス空港でマット・グロッソ・ド・スール州、カンボ・グランデ市の新里イルトン友三さん、ボリビアから参加した喜久山愛理さん、引率者の責任を分かち合える責任者の新垣マユミさんと合流し、沖縄へ出発しました。

那覇には7月15日午後11時に到着し、在那覇ブラジル名誉領事西原篤一先生ご夫妻を始め、沖縄県交流推進課の伊地さん、今回のツアーを企画したサン・エージェンシーの責任者の方、親戚の方々など大勢のお出迎えを受けました。そこから参加者はそれぞれ4日間のホームステイ先である親戚の方々の家へと向かいました。

沖縄の夏は大変暑く湿気が多いということを聞いて随分心配しましたが、実際は話に聞くほどではありませんでした。アマゾンやブラジル北の地域の暑さに比べると過ごしやすいものでした。

7月20日は、かんぽレクセンターで2010 JST プログラムに関する会議が開かれました。第1回の活動はオリエンテーション会議で、ニューヨーク、ドイツ、ボリビア、キューバとブラジルの引率者、イベントの責任者、県庁の方々に参加しました。自己紹介の

後 JSTの概要とプログラムにそってどのように行動するかということの説明がありました。

昼食後、ブラジル3名；ペルー2名；アルゼンチン2名；ボリビア1名；メキシコ1名；キューバ1名；アメリカ7名；カナダ2名；ドイツ1名；ニューカレドニア1名、10ヶ国から21名、沖縄県から21名、合計42名で会議が開かれました。概要の説明や資料が手渡されました。一般説明のとき、参加者の気分や具合が悪くなっても決してパニックをおこさないこと、周りのものが適正な救援ができるよう落ち着いて対処することなどの注意がありました。

参加者の自己紹介の後、各国の参加者達からそれぞれの国についての紹介がありました。国についての紹介はブラジルからの参加者を皮切りに、皆さん緊張はしていましたが何とか準備していたものを伝えることができていたように思います。

各国の参加者の発言は大変興味深いものでした。感動的なことは日本語を話すために大変な努力をしている子達もいるということでした。

初日のプログラムとして、前年の先輩方からの協力も得て、参加者間の交流ゲームが行われました。このゲーム中に沖縄の学生が気分を悪くし、引きつけを起こしました。ここで感銘を受けたのはこうした事態にあっても責任者が慌てることなく対応していることでした。会議の始めに注意を受けたことがこんなに早く実行されたことに私は驚きました。私はついブラジル人の行動と比較して考えていました、予め注意を受けていても普通のブラジル人なら大声を上げて、為すことを知らず絶望的になるでしょう。幸いにしてその学生は数分後には治まりました。念のため病院で診察を受けましたが、何事も無かったので、コーディネーターがお母さんと相談の上JST活動を続けました。このとき思春期の若者達の体調がいかに予測出来ないものであること、そしてこの子達を引率する責任の重さを感じ、このプログラムの責任者である勝連雅晴さんの統率力とリーダーシップには頭が下がりました。

このゲームの後には、県庁関係の来賓、参加国に關係のある方々150人が集まり”ウェルカム・パーティー”が開かれました。

翌日は県庁を表敬訪問し、安里カツ子副知事から歓

迎のお言葉を頂きました。アメリカと沖縄の学生が御礼の言葉を述べました。その後、副知事を囲んで記念写真を撮りました。

万国津梁館を訪問したとき、この会場で2000年にG8の会議が開催されたことを知り、当時全世界のニュースの焦点となったこの会議が沖縄で開催されたことに大きな誇りを感じました。また海の自然を知るための勉強の一環として、“美ら海水族館”を訪問し、“エメラルドビーチ”で足を濡らしました。沖縄の海は珊瑚と魚が多く生息していますが、飛行機で見た“ていだかんかん”と言う映画で、沖縄の珊瑚が死滅しつつあることを知りました。そこで、海を愛し、昔の綺麗な海を取り返そうとする環境保全家の金城浩二さんのような人がいることを知りました。色々な障害と闘い、資金的な問題も解決し、人工的に珊瑚を産卵できることに成功し飼育する環境を作り沖縄の海に珊瑚を育てる事業を続けているというお話です。彼の人生史の中で最も感動することは資金不足に悩みながらも、再び沖縄の海に珊瑚が成長するのを見届けるまで、そして夢を実現させるために家族全員が一丸となって行動したことでした。そんな立派なウチナーンチュがいることに誇りをもち感動しました。

その夜は、沖縄本島の北に位置する東村の“つつじエコパーク”に泊まりました。つつじエコパークには学生や観光客を収容するための施設が整備されています。翌日は沖縄の自然林の中を歩くプログラムでした。私にとって初めての経験でした。私はアマゾンの原始林をちょっと歩き回った時と比較しました。沖縄の森林は地形が険しく、登り降りが非常に多く、小川が多く水が豊富のようですが、アマゾンの場合は森林の中には水が無く、土地が平らという違いがありました。

首里城と石畳の見学では琉球王国時代の様子を知ることができました。また沖縄文化の発達の過程を探ることができる、県立博物館と美術館も大変参考になりました。

沖縄伝統文化について学生達は三味線、紅型の染めのワークショップ、エイサーの練習にも参加しました。次回からはできれば踊り（琉舞）や沖縄の伝統茶道である“ぶくぶく茶”のワークショップも加えて頂くと大変ありがたいと思います。

沖縄の学生たちと一緒に過ごした”糸満青年の家”での漫画で読んだ学生寮のような体験も大変興味深いものでした。布団6枚をきっちり敷いた部屋で寝て、一つしかないトイレの順番を待ち、食事の時はソーセージかえびの天ぷらが一人2個ずつといったような光景はブラジルでは見ることはできません。最終日はコーディネーターが道具を配り、部屋、廊下、トイレの掃除をさせました。ブラジルの子達は驚いたことでしょうが、良い勉強になったものと思います。なぜな

ら、ブラジルではこのような仕事は教育レベルや給料が低い大人を雇ってさせることが普通だからです。

平和祈念資料館とひめゆりの塔を見学する日の朝、私は起きた時、頭が大変重く感じました。途中バスの中で、もし体調が悪ければ会場へは入らずにバスの中で休んでいた方が良くとアドバイスされていました。コーディネーターと話していたら私の頭痛はこれから訪問する場所にみなぎる強烈なエネルギーの影響だと気が付きました。この見学で戦争の恐怖、国民に与える悲嘆を感じとることができました。しかし実際にこうしたことを体験した者でなければ、戦争がいかにむなしく、不要なものであるかを説明できません。当時生き延びることがいかに大変であったかということは両親や祖母から話を聞いており、知っていました。私は戦争で亡くなった両方の祖父を知りませんし、あった写真は全て戦火で燃えてしまいました。私達孫たちは誰も祖父達の顔を知りません。

平和祈念資料館を見学して、沖縄島民の戦いがいかに悲惨なものであったかを垣間見ることができました。沖縄の将来を担って立つ若者達に平和がいかに大切であるかということを認識させることは大変大事であると思います。戦争を体験した国だけが戦争の悲惨さや国民が受けた人的、物的、特に心理的な苦痛を正確に伝えることができるのです。私の父方祖母は夫を失い、家を焼かれ、銃弾を受け、片脚を切断されながらも必死で生き延び、一人で4人の子を育て上げました。

若い見学者は戦争の悲惨さを知らなかったかもしれませんが、この見学で平和のありがたさがわかったことは大変良かったものと思います。

学生達の友情は7日間の共同生活の中で大変親密になりました。前年参加した先輩たちに協力してもらってゲームを行ったり、ワークショップに参加したり、琉球國祭太鼓の練習の時や就寝前の学生同士の会話など大変貴重なものとなりました。

学生達の物覚えが早いことには驚きました。わずか4日間の練習で“ミルクムナリ”の踊り方を覚え、歌手の日出克さんと共に国際通りで演舞を披露しました。この演舞に参加するため俊宏先生に個人レッスンを受けた学生たちがいたことを知ってその熱心さに感動しました。

学生達は地理、伝統芸術、自然環境の大切さ、融合した平和な世界の構築の必要性を理解したばかりではなく、1週間の共同生活の中から得たもっと大切な心と心の繋がりをや作り上げた友情の絆の大切さを感じとったものと確信しています。このことは学習成果発表のときの皆さんの感動のこもった発表の際に感じたことであり、私達も涙を流しながら彼らの発表を聞きました。言葉が分からなくても心と心は通じていると感じました。

更に気が付いたことは、十分に言葉が通じなくとも、心と心で理解しあうことができるということでした。

JSTプログラムは、沖縄の学生達が多くの外国に居住する学生とふれあうことによって、外国語に興味を持ち、更には海外で勉強してみようということを目覚めさせるきっかけにもなるかと思います。

外国人学生にとってのJSTプログラムは、先祖の文化に触れその知識を高め、日本語又は英語を習得し、積極的にそれぞれの国の県人会活動に参加することにつながり、ひいては世界のあらゆるところでの沖縄文化の継承に貢献するものであると考えられます。

今回このすばらしいプログラムに参加させていただく機会を与えて下さったブラジル沖縄県人会並びに沖縄県庁の皆さんには心より御礼申し上げます。また、このJSTプログラムが末永く継続しますよう祈念いたします。

Relatório de Junior Study Tour 2010

Em meados do mês de maio, eu recebi convite do Presidente da Associação Okinawa Kenjin do Brasil para ser responsável pelos 03 jovens brasileiros que iriam participar do Junior Study Tour deste ano e eu aceitei de pronto pois além de participar de uma experiência inédita para mim, seria uma oportunidade de reencontrar os parentes e amigos de Okinawa, e tinha férias deste ano que poderia usufruir.

Enquanto aguardava a aprovação da Diretoria pela minha indicação, comecei a pensar sobre o programa e consultei os "sempais" que já tinham participado como responsável "引率者", Senhor Kimei Kakinohana e o Senhor Tetsuo Yogui e o próprio Presidente Akeo Yogui. Todos eles disseram que é muito interessante e legal participar desse programa e que é uma oportunidade para nós os acompanhantes também aprendermos mais sobre a arte, cultura e geografia de Okinawa, o que me deixou mais tranquila.

Quando eu fiz a reunião com os bolsistas de São Paulo Willian Yuki Yogui e a Maria Eduarda Terumi Tavares Tamayose, senti o peso da responsabilidade de cuidar de filhos dos outros. Eu que não tenho filhos, iria cuidar de filhos dos outros.

Fiquei imaginando como seria visitar Okinawa no verão, pois ouvia muitos comentários sobre o calor úmido e sol muito quente. A realidade mostrou que nem é tão quente como havia nos dito. O calor da região de amazonas ao norte do Brasil é mais insuportável.

A nossa partida do Brasil foi no dia 13 de julho de Aeroporto Internacional de Guarulhos, estado de São Paulo onde encontramos o participante de Campo Grande,

estado de Mato Grosso do Sul, Hilton Yuzo Shinzato e a participante de Bolívia, Airi Kikuyama e a responsável Mayumi Arakaki o que me tranqüilizou por ter com quem dividir a responsabilidade.

Chegamos em Okinawa, no Aeroporto de Naha, dia 15 de julho, em torno de 23h00 e fomos recepcionados pelo Professor Tokuchichi Nishihara, Cônsul Honorário do Brasil em Okinawa e sua Senhora, Funcionário responsável pelo JST do Governo de Okinawa, os responsáveis pela organização do JST da SunAgency, amigos e parentes. Fomos diretamente para home stay, cada um na casa de seu parente durante quatro dias.

No dia 20 de julho nos reunimos para o início do programa JST 2010 no Kampo recucenter. A primeira atividade foi uma reunião de orientação juntamente com os responsáveis (引率者) vindos de Nova York, Alemanha, Bolívia, Cuba e Brasil, mais os promotores e os funcionários do governo de Okinawa. Foi feita a auto apresentação, resumo do que seria o JST e como deveria ser o nosso procedimento durante a programação.

Após o almoço foi feita a reunião com todos os bolsistas, 21 do exterior, sendo 03 do Brasil, 02 de Peru, 02 de Argentina, 1 de Bolívia, 01 de México, 01 de Cuba, 07 de Estados Unidos, 02 de Canadá, 01 da Alemanha e 01 de Nova Caledônia. Foi passada a orientação geral, descrição do material e a distribuição do questionário. Nessa orientação foi dito ainda que se algum estudante passasse mal, não entrássemos em pânico que todos deveríamos manter a calma para que pudéssemos encontrar a melhor forma de atendimento.

Após a auto apresentação dos participantes e dos líderes foi feita a apresentação de pontos interessantes dos Países e os Brasileiros foram os primeiros a apresentarem. Apesar do nervosismo dos estudantes brasileiros, acho que eles conseguiram transmitir o que prepararam.

Foi muito interessante a apresentação de cada País participante. Foi louvável o esforço de cada um em procurar falar em japonês.

Estava na programação desse primeiro dia a atividade de integração dos participantes, com a ajuda dos voluntários graduados no ano anterior. Durante essa atividade, uma estudante de Okinawa, passou mal e teve convulsão. O que mais me marcou nesse episódio foi a calma de todos para lidar com a situação, conforme havia sido orientado no início. Eu não imaginei que a orientação inicial teria a aplicação tão rápida na prática. Não pude deixar de comparar com o comportamento dos brasileiros que com certeza, apesar da orientação, teria gente falando alto e desesperado sem saber como proceder. Felizmente a estudante voltou ao normal após alguns minutos e foi

levada ao hospital por precaução e após a conversa do Coordenador com a mãe, continuou participando no JST. Nesse dia constatei que os adolescentes são imprevisíveis e que responsabilidade de cuidar deles é muito grande e quero externar o meu respeito e admiração pela Coordenação e Liderança do Senhor Massaharu Katsuren, responsável pelo programa.

Ainda no primeiro dia teve a recepção de início do programa "well come party", com a presença de em torno de 150 pessoas, alguns convidados do Governo e os amigos que tinha relação com os Países participantes.

As atividades do dia seguinte foi de visita à casa de Governo de Okinawa e lá ouvimos as palavras de boas vindas da Vice Governadora, Katsuko Assato. Uma estudante Americana e um de Okinawa dirigiram as palavras de agradecimento ao Governo de Okinawa. Após cerimônia tiramos as fotos oficiais juntamente com a Vice governadora, para guardarmos de lembrança.

Na visita ao BankokuShinryoukan ficamos sabendo que foi o local onde realizou a reunião de G8 em 2000. Fiquei orgulhosa do poder da Província de Okinawa que conseguiu trazer essa reunião para esse local, tornando-se o centro das notícias na ocasião.

Pudemos ainda visitar "Churaumi Suizokukan" Aquário e molhar os pés em "Emerald Beach", praia, como parte do estudo para conhecer a natureza marinha. O mar de Okinawa é muito rico em espécies de corais e peixes que habitam e fiquei sabendo Através do filme " teeda kankan" que assisti no avião, de que os corais do mar de Okinawa estão morrendo mas existem pessoas como Koji Kinjo, ambientalista e amante do mar que se preocupa em recuperar o mar límpido outrora. Lutou contra todas as adversidades, superou a falta de apoio financeiro e conseguiu criar um ambiente artificial para a desova do coral e está trabalhando na reposição dos corais no mar de Okinawa. O que marca a história da vida dele é que a família inteira se dedicou para a realização desse sonho, mesmo passando pela dificuldade financeira, mantiveram-se unidos para ver novamente os corais crescendo no mar de Okinawa.

Nessa noite pernoitamos no Tsutsuji Ecopark que fica ao norte de Okinawa no Higashi-son. É um parque maravilhoso com toda a infra-estrutura para acomodar os estudantes e os turistas. No dia seguinte fomos caminhar no meio da floresta de Okinawa, foi uma experiência inédita para mim. Não pude deixar de comparar com o pedaço de floresta amazônica que conheci e caminhei. A floresta de Okinawa é mais acidentada cheia de subidas e descidas e a impressão são de que tem água em abundância espalhados em pequenos riachos, enquanto que em Amazonas as águas estão

definidas em grandes rios e as florestas são mais planas.

A visita ao Castelo de Shuri e os caminhos de pedras foi educativo para explicar a época do Reinado de Ryukyu. A visita ao Museu Estadual e de Belas Artes foi muito interessante também para conhecimento da evolução da cultura de Okinawa.

Em relação às artes tradicionais de Okinawa, os estudantes tiveram o workshop de sanshin e da pintura de bingata e tiveram o ensaio de eisá. Acho que poderia ainda acrescentar os workshops de danças (ryubu), de buku buku tyá que é a cerimônia de chá tradicional de Okinawa.

Na pousada em Itoman Casa dos Jovens (seinen no ie) foi o lugar onde vivenciei a vida de estudante de Okinawa que conhecia apenas pela leitura de "manga". Dormir num quarto onde só cabia seis funtons certinho e fazer fila para tomar banho com um chuveiro só. Na hora da refeição ter o número de salsicha ou tempurá de camarão já definido em duas unidades para cada um, são tipo de educação que não se vê no Brasil. No último dia, o coordenador fez a distribuição de alunos para a limpeza dos quartos, corredores, e para lavagem dos banheiro coletivos imagino que assustaram as crianças brasileiras mas foi muito educativo. No Brasil esse tipo de trabalho é feito pelos adultos contratados que tem baixo nível de escolaridade e de salário.

Na manhã em que iríamos visitar o Parque da Paz (平和祈念資料館) e Himeyuri no Tô (ひめゆりの塔) levantei com a cabeça pesada. Foi passada a instrução dentro do ônibus de que se alguém estivesse passando mal não era para entrar para fazer as visitas e deveria ficar descansando no ônibus. Conversando com o Coordenador, constatei que o peso na minha cabeça estava relacionado com o ambiente de energia muito densa que iríamos visitar. Nessas visitas pudemos constatar o horror de uma guerra e a tristeza que causa para a população de uma nação. Somente as pessoas que passaram por isso sabem explicar o quanto é inútil, desnecessária e triste a guerra. Eu conhecia a história particular da minha avó e dos meus pais que na época eram adolescentes e contam como foi a luta para sobreviver nessa época. Eu não conheci os dois avós, materna e paterna porque morreram lutando na guerra. As fotos que tinham deles queimou-se na guerra e nós, netos não sabemos como eram a fisionomia deles. Visitando o museu do parque da paz deu para ter idéia do que foi a luta do povo de Okinawa. Essa preocupação dos okinawanos de conscientizar a importância da paz para os jovens que serão futuros dirigentes é de vital importância. Somente o país que vivenciou os horrores da guerra, consegue repassar com tanto realismo o sofrimento do povo e os danos causados tanto físico, material e principalmente o psicológico. A minha avó paterna perdeu o marido, a casa

em que morava e sobreviveu a guerra com uma perna amputada por causa de bala e ainda teve que criar quatro filhos adolescentes sozinha.

Acredito que muitos adolescentes presentes não conheciam de perto o estrago que uma guerra causa e essa visita foi bom para conscientizar sobre o valor da paz.

A integração entre os estudantes foi muito intensa nesses 07 dias que passaram juntos, através de jogos realizados com os voluntários veteranos que participaram em anos anteriores e pela participação nos workshops, nos ensaios de Ryukyukoku Maturidaiko e principalmente nas conversas no quarto antes de dormir.

Foi admirável o aprendizado dos estudantes que com apenas 04 dias de ensaio conseguiram tocar o Mirukumunari e fizeram a apresentação ao público no Kokusaidoori com acompanhamento do cantor dessa música Hidekatsu. A apresentação foi emocionante, principalmente sabendo que alguns alunos se dedicaram solicitando a aula particular com o Toshi sensei para tocar em grupo.

Tenho certeza de que os estudantes ampliaram os seus conhecimentos de geografia, arte tradicional, a importância da preservação da natureza e a necessidade de construir um mundo de harmonia e paz, mas o que eles lembrarão para o resto da vida é essa convivência e a união de corações que edificaram em uma semana de convivência. Isso ficou muito claro no relatório cheio de emoção que cada participante fez no dia do encerramento. Nós ouvimos com lágrimas nos olhos a fala de cada um.

Constatei também que mesmo não conseguindo se comunicar com palavras, conseguem se comunicar de coração para coração.

Para as crianças de Okinawa foi uma oportunidade de conhecer a cultura estrangeira através de convivência com os estudantes de outros Países e provavelmente despertou interesse em conhecer e estudar línguas estrangeiras e quem sabe estudar fora de Okinawa, ampliando a sua área de atuação.

Para as crianças de outros países o Programa de JST servirá para despertar interesse em aprofundar o conhecimento sobre a cultura de seus ancestrais, em aprender a língua japonesa e o inglês para conseguirem se comunicar, participar das atividades da associação Okinawa de seu País e contribuir para a preservação das tradições e Culturas de Okinawa em diversas partes do mundo.

Estarei orando para que o programa Junior Study Tour continue ainda por muitos e muitos anos.

Meus agradecimentos à Associação Okinawa Kenjin do Brasil e ao Governo da Província de Okinawa pela oportunidade a mim concedida para participar desse

programa.



新垣 まゆみ

ARAKAKI MAYUMI

33歳 2世

ボリビア多民族国 Plurinational State Bolivia

ボリビア沖縄県人会



ジュニアスタディーツアー 2010 世界に出来た私の宝！！

13歳から17歳という、エネルギーに満ち溢れた子供達。

初日は、緊張と不安の入り乱れた様子でスタートし、と言うのもアッ！と言う間でとても楽しそうに触れ合うジュニア達。

一人一人がそれぞれの個性を持ち、日々使用する言語も習慣も異なる十一カ国のメンバー。しかし、その違いなど全く問題でもなく、さすが！！そこはウチナンチュ魂！！世界どこに居ても私達はその心で繋がっているのだと子供達を通し強く実感させられました。

親元を離れ、親は子を手放すのは、考えられないくらい心配で、子供は子供で、ワクワクしながらも不安に打ち砕かれそうな思いが伝わる空港でのお別れ。

一週間という短期間のスケジュールで、日に日に、ジュニア達の目の輝きも相手を尊重する気持ちも、そして、絆がとても強くなっていくのが身にしみて感じられていくのには感激でした。

一番、難しい年頃の子供達。

私は正直、上手く面倒見てあげられるかどうか、不安でいっぱいでした。でも、子供達と出逢ったその瞬間から、目の輝くカワイイ子供達を見て、不安から“このジュニア達が最高のツアーが送られるよう、しっかり見守ってあげよう”という気合と強い愛情へと変わったのです。

一人一人、42名のジュニア達は本当にこのツアーで人生の中で物凄く大切な学びをし、それぞれにこれから先への道が大きく開け、視野も広がり、素晴らしいチャンスを手にしたものと思います。

出逢いと学ぶチャンスを下さった、沖縄県庁の皆様、ツアーを企画して下さったコンダクターの皆様、快く受け入れて下さった県民の皆様、そして何よりも、いつも支えてくれ、走り回ってくれた両国の家族への感謝を胸に、ウチナンチュとしての誇りを持ち、将来の目標を大きく掲げ成功者として立派に成長してくれる事でしょう。

私自身、引率者として、世界のウチナンチュジュ

ニア達、いつも支え合った他国の引率者、沖縄県の沢山の素晴らしい方々との出逢い、そしていつも私の為に、あれこれ手取り足取りお世話してくれた家族と、再会できた機会を与えて頂いた事には、この上ない感謝の気持ちでいっぱいです。

私には、このツアーを機に、世界十一カ国に42名もの可愛い素晴らしい子供達できました。本当に、この子供達は私の宝です！！

世界に散らばっている現実ではありますが、ウチナンチュである事は、魂に宿っていることでしょう。そして、心に刻まれているのは、誰もが感じた同じことだと確信しています。

これから先も、この最高に素晴らしいツアーが途切れることなく継続していく事を強く願い、心の奥から感謝申し上げ、皆様一人一人のご健康とご活躍を祈っております。

心から有難うございました。

Espectacular Junior Study Tours 2010 Mis tesoros del mundo!!

Junior Study Tours , realmente un programa super espectacular!!

Los participantes y los protagonistas de este tours son los chicos descendientes okinawenses de 13 a 17 años de 11 países, con el alma lleno de entusiasmo y mucha ilusión.

Realmente es un encuentro de uchinanchu's pero, con la absoluta diferencia de idioma, cultura y las costumbres de la vida cotidiana.

La experiencia de salir a un lugar desconocido, alejados de sus seres más querido; para los padres imagino que debe de ser una gran pena por sus hijos, y para los chicos de la misma manera a la vez de la emoción y muchas ilusiones que llevan dentro, cargan con la extraña sensación de miedo y preocupaciones, pero al inicio del programa se dan cuenta de que todo esas preocupación estaba demás; ya que todas esas diferencias que tienen entre si no era ningún obstáculo para ellos que están lleno de energía positiva y el espíritu de uchinanchu que lleva en su alma y en la sangre es la que hace que nada sea imposible.

Yo personalmente, luego de aceptar de ser tutor de los chicos, me llené de preocupaciones ya que los chicos de esta edad son muy difíciles en todo aspecto.... pero a primera vista me dí cuenta lo suficiente de cuan maravillosos y super genial eran cada unos de ellos. Es más, me transmitieron un inmenso ánimo y gran sentimiento de cuidarlos y protegerlos más de lo que pensaba para que ellos logren con un gran éxito este tours.

Estoy más que segura de que los 42 integrantes han logrado encontrar muchos valores y aprendido muchísimas cosas que solo en este tours lo podía conseguir.

El significado de este tours es tan grandioso; ya que en tan solo una semana de programa, cada uno de los chicos demuestran un increíble aprendizaje y una maravillosa conducta de superación. Realmente es muy sorprendente!! Sin duda alguna participar en este tours les ha sido una experiencia muy importante que marcaron en su vida, ya que cada uno de ellos ha conseguido lograr y encontrar un propósito para seguir luchando para su futuro.

Deseo desde el fondo de mi alma, que jamás olviden el sentimiento de agradecer a todas las personas que les brindaron esta espectacular oportunidad, junto al orgullo de ser uchinanchu y siempre estén seguros de sí mismo que son suficientemente inteligentes para lograr y conseguir todo lo que se propongan.

Cada uno de los 42 chicos para mí son muy especiales, ya que se han convertido como mis verdaderos hijos, se ganaron el gran cariño con mucho muchísimo amor por sus mismas virtudes.

Agradezco muchísimo a todos que me han brindado la gran oportunidad de ser tutor y poder acompañar a estos grandiosos y maravillosos chicos a la Prefectura de Okinawa, a los conductores del tours, a mis compañeros tutores que me trataron siempre con gran cariño, a todos los okinawenses que nos recibieron con sus calurosos sentimientos de uchinanchu, y sobre todo a nuestra gran familia que siempre nos apoyo en todo momento ya que sin ellos no lograríamos este éxito.

Muchísimas Gracias!!

Deseandoles de todo corazón:

Que sus vida estén llenos de mucha salud y muchísima Felicidad.



ゴンザレス 石川 ロベルト

GONZALEZ ISHIKAWA ROBERTO

35歳 3世

キューバ共和国 Republica de Cuba

キューバ沖縄県人会



ジュニアスタディーツアー 2010

私の名前はロベルト・ゴンザレス・イシカワです。この度ジュニアスタディーツアー 2010のために沖縄を訪問しました。このツアーで私の祖先の故郷を訪ねることができました。沖縄は母方の祖父の出身地です。それから滞在中に祖父の子どもたち一叔父さん達に会いました。沖縄で親戚やJSTの主催者やスタッフや沖縄キューバ友好協会の皆さんからも大歓迎を受けました。他の参加者も私と同じように、自分の祖先の故郷を訪問する名誉を与えられました。沖縄の人々の歴史と文化に触れ、他の国の参加者とも交流ができました。

私は親戚と会って、一緒に生活して、習慣と伝統を学びました。首里城、平和祈念公園、ひめゆり平和祈念資料館へ行くことができ、とてもいい経験でした。一生私の大切な記憶として残ります。何故かという、訪問したところは全部、沖縄の歴史の上で代表的な場所、同じ目的や夢を持っている、世界中の人々の平和の願いの場所でもあるからです。

最後に、沖縄県、JSTの主催者、スタッフ、伊地高洋さん、勝連雅晴さん、太田卓也さん、直美さん、他の引率者、ブラジルの春美さん、ボリビアのまゆみさん、ドイツの聡さん、アメリカのイバンさん、麻莉亜さんと私を受け入れてくれた親戚にも、心から感謝申し上げます。沖縄滞在中、私をサポートしてくれてどうもありがとうございます。

Junior Study Tour 2010

Mi nombre es ROBERTO GONZALEZ ISHIKAWA visite OKINAWA recientemente por motivo del JUNIOR STUDY TOUR 2010 el cual me dio la posibilidad de conocer la TIERRA de mis ancestros ,la tierra donde nació mi abuelo -materno .La tierra donde aún viven sus hijos mayores los cuales conocí durante mi visita a Okinawa , donde fui recibido por mi familia, por los organizadores del JST y por el grupo de amistad Okinawa-CUBA esta visita me dio la posibilidad de acercarme más a la historia y cultura del pueblo Okinawense. También interactuar con los participantes de los otros países presentes en el

evento .Qué al igual que yo tuvieron el honor de visitar la tierra de nuestros ancestros .Conocer a mi familia, convivir con ellos, aprender sus costumbres y tradiciones. Visitar lugares como Castillo SHURI,EL parque de LA PAZ,EL museo HIMEYURI fue una experiencia muy bonita ya que ellos representan la cultura y la historia de Okinawa .todos los lugares visitados tanto turísticos como sociales serán recordados con mucho cariño y agrado .YA que los mensajes que trasmiten solamente tienen un objetivo, un propósito ,un sueño 'LA PAZ 'de todos los pueblos del mundo .Por eso quiero darle las gracias al GOBIERNO de la PREFECTURA de OKINAWA ,A los organizadores del JST, al señor KOUYO IJI ,al señor KATSUREN MASA HARU, al señor OTA TAKUYA ,a la señorita NAOMI, a los demás tutores participantes ,señora HARUMI de Brasil . señora MAYUMI de Bolivia, al señor SATOSHI de Alemania, al señor IVAN de los estados unidos ,a la señorita MARIA Y demás personas que brindaron su apoyo a la realización de este evento Y a mi FAMILIA por tener el honor de conocerla y el apoyo recibido durante mi estancia en OKINAWA GRACIAS A TODOS DÓMÓ ARIGATO GOZAIMASU



喜久山 イヴァン

KIKUYAMA IVAN

27歳 3世

アメリカ合衆国

United States of America

ニューヨーク沖縄県人会



ジュニアスタディーツアー 2010レポート

ジュニアスタディーツアーは、引率者達にとっても大変貴重な経験になったと思います。こんなに素晴らしいプログラムは滅多に参加出来るものじゃないと思います。

参加者達やスタッフ、引率と言った様々な役割がある中で、みんなで力を合わせて最初から最後までプログラム全部を通して大成功に修めた結果は本当に素晴らしいと思います。しかし、一番感動を覚えたのはやっぱりジュニアスタディーツアーの主人公である参加者達が見事にお互いに深い絆を作れたと言う事です。

個人的に僕もそうですけど、参加者の子供達は間違はなく、ジュニアスタディーツアーがもっと長かったらよかったのにと望んでいたはずです。なぜなら、このツアーの思い出と印象はこれから長い間ずっと鮮明に頭に残るだろう事を、みんなは分かっていたはずだからです。それだけのインパクトを年頃の参加者達に与えたこのジュニアスタディーツアーと言うプレゼントはやっぱり素晴らしいとしか言いようがないと思います。

引率者として、一番心に残った事はやっぱり普段ではあまりする事のない同時通訳だったり、大勢の人数の前で大声で喋ったりする事でした。普段からあまり慣れていない事だったので最初は疲れるし大変だなと思っていましたが、やっぱり慣れてくると結構楽しい事だなと感じてきました。色んな子達が日本語で話を聞いてて分からない事があったりすると、分かりたくてしょうがなくて、すぐに自分のところに来て、“ね、今なんて言ったの？”などと聞いてくる事がしょっちゅうありました。参加者達は一生懸命“参加”しようとしてるんだなぁと思うと、“こっちも一生懸命みんなの為に出来る事は全部やらないと”って言う気持ちになってきます。そう言う意味でも通訳をやってみてよかったなと思いました。僕にとってもジュニアスタディーツアーは新しい事にチャレンジ出来た良い機会だったと思います。

新しく学んだ事はまだまだたくさんあります。その中の一つはやっぱり沖縄の素晴らしさでした。沖縄に行くのは今回で2回目でしたが、改めて沖縄っていい

ところだなあとつくづく思いました。みんなで訪問した場所、自然にしても街にしても、どれを取ってもまた来たいって思えるところばかりでした。僕はアメリカに住んでますけど、どちらかを選べるとしたら、絶対に沖縄に住む事を選びます。それだけやっぱり僕も沖縄が好きなんだと改めて思いました。ただ、そんな感動の数々を自分一人だけでなく、他の引率や参加者達と一緒に味わえた事に僕はさらに喜びを感じます。中には沖縄に初めて訪れた者や、沖縄に行った事はあっても沖縄の素晴らしさが他にももっとたくさんあった事を知らなかった人達もいたので、結局みんなで一緒にのものに一緒に感動したり、一緒に悲しんだりと常にみんな一緒でした。

ワークショップの前夜、通訳の方々と引率者は夜遅くまで翻訳の仕事をしました。次の日のワークショップの内容だったり、その日やるゲームのやり方、一通りの流れなどの説明を受けたあと、翌日参加者達に配られる個人体験談の話や資料などの日本語の物を通訳のみんなはそれぞれの言語に訳したりしてけっこう大変でした。一番大変だったのが日本語のものを英語とスペイン語と両方に訳す事でした。やっぱりあんまりした事のない事だったので大変でしたけどやりがいがあったと思います。その上、みんなで色んな話も出来たので楽しかったです。通訳をやって楽しい事、大変だと思う事、疑問に思う事など、お互いに通訳者として違ったスタンスから見た通訳についての想いなどをみんなで初めて話せた事も非常に楽しかったです。そう言う事もまた僕にとって新しい事だったのでいい経験になりました。ワークショップ当日はグループで話をする時間もありました。グループ内でもみんなに通訳をする時は楽しかったです。ワークショップ全部を通してスムーズに進んだのでみんなと一緒に頑張ってたよかったなと思いました。やっぱり誰かのために何かをするって言うのは素晴らしい事なんだなと思いました。

みんなのエイサーのパフォーマンスは最高のものでした。参加者の誰もがきっと、自分達のエイサーは世界一と思ったに違いありません。そして僕ももしかしたら、みんなのエイサーが一番感動したものなのかもしれません。エイサーの練習を見てても、出来る人は

出来てない人に教えたりとみんなで助けあいました。
トシ先生も嬉しかったはずです。

エイサー本番では、彼らは見事に最高のものを見せてくれました。間違った人もいたかもしれない。リズムが少しずれた人もいたかもしれない。けれど僕は、彼らのエイサーを世界一と言いたい・・・長年離ればなれになっていたきょうだい達が彼らに夢を託した祖先達の島に戻って来て、何百年ぶりに出会って、一緒に伝統のエイサーを踊ったなんて思ったりすると鳥肌が立ちます。沖縄の代々伝わる伝統と思いは、何年たっても強く今の世代の子供達の中で生きている事を思い知らされました。そして、これからも沖縄の伝統と文化は次の世代へとバトンタッチをしていかなければなりません。数々あった感動の中から一番って言うものを選ぶのは難しいかもしれませんが、彼ら、参加者達が沖縄への思いとお互いの絆を形で見せられたのがエイサーなんじゃないでしょうか。

みんなの絆が深まるに連れてお別れの日がやってきました。最後のお別れパーティーは参加者達にとっても、引率者にとっても、ため息がつく日だったに違いありません。でもそんな事とは裏腹にみんなは楽しそうに修了式のリハーサルをやったり、バックステージで遊んだり最後までわいわいはしゃいでいました。そして修了式本番では、一人ずつ自分のジュニアスタディーツアーへの思いとみんなへの思いを伝えました。これも感動もので、ふと気が付けば、色んな人達がみんなに“Te Amo”, スペイン語で“愛してる”と叫んでいました。これだけの短い期間で愛してると言える人が何人も作れるのでしょうか？ ツアー中はみんながおもしろがって“Te Amo”を連呼していたけど、最後のこの時は、真剣に“愛してる”と言っていたに違いありません。

みんなは自分の国の踊りをやったり、楽器の演奏、歌などを披露して最後までみんなでみんなを盛り上げました。最後にもう一度だけみんなで踊った自分達だけのエイサーはやっぱり素晴らしいものでした。またいつか未来でみんなでもう一度自分達のエイサーをまた全員で一緒に踊れる日が来る事を僕は願っています。

今回のジュニアスタディーツアーでは、色んな事を学ばせていただきました。そして色んな事に気付く事ができました。僕個人も勉強しないといけない事がたくさん見えたし、これからの自分の生き方にも刺激をくれた貴重な体験となりました。このお返しとして、僕も将来はいつか、何か沖縄のために出来る事があったらなんでもしていきたいと心に誓いました。今回はジュニアスタディーツアー 2010年に、引率者として参加出来た事を心より感謝しています。関係者の方々、スタッフ、引率者、そして僕に色んな事を教えてくれた参加者のみんなに感謝します。ジュニアスタディ

ツアー 2010, TE AMO!!!

Junior Study Tour 2010 Report

I believe the Junior Study Tour has been a very meaningful experience for me and the other chaperones as well. I don't think anybody can have the opportunity to participate in special occasions such as this one.

Looking back to the first day to the last, I would say it was a great job having everybody including the participants, staff and chaperones join their hands together to bring the Junior Study Tour to a great success. Nevertheless, the best achievement we had was the bond that was created between every single participant that came to the tour.

In my own opinion, I was saying the tour should have lasted a little longer, but more than me, especially the participants must've hoped the tour lasted a little longer as well. The reason being, everybody knew that the good impressions and memories they had during the whole tour was going to stay in their mind for a good long time. That is, the Junior Study Tour was definitely a real good gift given to all these young people, and this gift will stay in their mind and heart forever.

As a chaperone, I was challenged to try things I hadn't done much before in my life. Some of them are interpreting, talking in front of a lot of people, and things like that I am not used to. It was not an easy job at first, and it would get tiring but I realized how fun it was as I kept working on it. There were many times when the participants wouldn't understand something they were listening to in Japanese, they would immediately come up to me and ask "what did he just say?" or "what does that mean?" so I learned that the guys were really trying hard to participate in whatever we were doing. I started to feel more responsibility for the participants so I said to myself I have to really do my best for everybody. And that became a motivation for me. I was glad I had the opportunity to help people by translating. So again, the Junior Study Tour was a good chance for me to try new things

There were more countless amounts of things I learned besides that. I got to realize how beautiful Okinawa was. It was my second time visiting Okinawa, but the trip there, gave me more reasons to like Okinawa even more. Whether it was the nature study or walking in the cities, everywhere we would go made me think to myself "I want to come back here."

I've been living in the United States for about 11 years now, but if I had the choice to pick a place where I want to live for the rest of my life, I absolutely will pick Okinawa.

The island is just the perfect place to live for me. From now on every time I visit Okinawa I will repeat the same thing over and over. The one interesting thing is that, I was not the only person feeling that way. I find it very nice how all the other chaperons and participants were feeling the same way about Okinawa. Some participants were there for the first time in their life, and some people had been to Okinawa before but still, there was a lot about Okinawa that they didn't know about. So again, whenever we learned something new during the tour, we would all laugh together, or get sad together. Whatever it was we were feeling or doing, we were all together.

The night before we had the workshop, the translators and chaperons got together to have a meeting regarding the workshop. We were explained the way they wanted to organize the workshop. They explained to us all the games they were planning to do, and basically everything they had in mind. After that the translators and the chaperones started working on translating stories the participants were to read the next day. Each one of us translated the stories into their corresponding language. The toughest part for me was that I needed to translate some papers from Japanese to both English and Spanish. It was not easy at first because it wasn't something I do on the regular basis, but at the end, I think it was worth doing it because it was all work for our participants, and they deserve the best support. We stayed up pretty late but we had fun at the same time because we talked about a lot of things. We got to share our experiences with translating for people, what we think or what are our thoughts on translating and things like that. It was a fun experience spending some time and working with people working on the same field. Everything went smooth at the workshop. I think seeing the kids having fun at something we organized was enjoyable. At the workshop we also worked in little groups and there again, I was translating and interpreting for the participants but also having fun myself knowing we did something good.

The Eisa dance by everybody was excellent. I bet every single participant was proud of their Eisa and maybe was thinking that their Eisa was the best in the world. During the practices people who were good were helping people who were having trouble with it. But everybody was together at all time. Toshi sensei must've felt good seeing how everybody was trying to collaborate with him.

On the day of the Eisa performance, they gave us the best dance ever. There probably were some people who messed up on the steps. There might have been a few who lost the rhythm. But I will say their Eisa was the best in the whole world... It was so amazing. It was as if seeing brothers and sisters who were separated for hundreds of years returning

to their motherland, embracing the dreams and hopes of their ancestors, and once again dancing their traditional dance Eisa. Every time I think of that I get goose bumps. I felt that Okinawa's tradition and culture are still living strong in the young hearts. And the tradition and culture must be carried on to the next generations too. It is tough to choose what was the best moment in the Junior Study Tour. But I think they got to show us their love toward Okinawa and their new born friendship by dancing their Eisa, and that's what I liked about it.

As everybody keeps getting closer and closer to each other, the last day of the tour came. I thought the goodbye party was going to be a very depressing moment for everybody including the chaperones. But instead, these guys did the opposite by not being sad. They did the rehearsal with no problem, and were hanging out and laughing in the backstage. Always with laughter until the end. At the closing ceremony, each participant got the chance to do a speech about what they thought about the Junior Study Tour. It was very touching how everyone said "Te Amo", which is "I love you" in Spanish, to everybody. I said, "how is it possible to make best friends in such a short time and you can tell them you love them?" that doesn't happen often. During the tour, we would always hear the words "Te Amo" every now and then. Maybe they were just playing around. But this time, at the end, when they said "Te Amo" for the last time, I think they really meant it.

After that, we saw some people do dances from their country, people playing instruments and some people singing too. They also performed their Eisa dance for one last time. It was amazing this time too. It was so good. I am hoping for another day. Another day where they all can dance their Eisa together once again.

Overall, I got to learn a lot of things during the Junior Study Tour. I got to realize a lot of things, and also found some things in myself that I should improve. It was just a rare experience full of positive things. I know that this experience is going to help me become a person I need to be. I will never forget I was part of this Junior Study Tour. I would like to become a person that someday could give back a lot for Okinawa. And if there's anything I can do, I will do it with my best for Okinawa. It was an honor for me to have been able to participate as a chaperone for the Junior Study Tour 2010. I want to thank all the people in charge of the Junior Study Tour, the staff, chaperones, and last but not least, all the wonderful participants for giving us wonderful moments during the whole tour. Junior Study Tour 2010, TE AMO !!!



中山 聡

NAKAYAMA SATOSHI

51歳 1世

ドイツ連邦共和国

Bundesrepublik Deutschland

ドイツ沖縄県人会



ジュニアスタディーツアー 2010

今回の「ジュニアスタディーツアー 2010」の御成功を心より祝福申し上げます。伊地さんをはじめ、県の観光商工部交流推進課の皆様と、勝連さん、太田さん他の沖縄産業計画の皆様の連携によって、用意周到、綿密に計画され、ツアー期間中も常に柔軟にたいししながらも、同時に確信をもって行動したことが、ツアーを成功に導いた事と思い、皆様に心から敬意を表し、また沖縄県に対しては、世界から、そしてまた沖縄からの次代を担う若者達に人材育成の為に素晴らしい機会と惜しめない経済的援助を与えてくださる事にたいして海外に住む沖縄人の一人として心から感謝と畏敬の念を表します。

私は、1982年に東京での4年間の音楽大学の実習、教育課程を修了し、更に、どうしても本場ヨーロッパ（ドイツ）での見聞を広めたいとの志をいदैて渡欧してきました。1984年には運よく、トゥリアー市フィルハーモニックオーケストラのオーディションに合格し、1985年より演奏を始め現在に至っています。さて、私がこの28年間のドイツ生活で得た貴重な体験と経験の一つに、ドイツ人（ヨーロッパ人）の文化、芸術に対する誇りと、それを後世の人達に継承する為に、人材的、また経済的に援助を惜しまない事に深く感心することがあります。ドイツも敗戦国として、北から南まで徹底的に破壊されましたが、戦後たゆまず働きながら修復、再建されたものは、往々にして昔から受け継がれてきた美しい街並みや、文化遺産でした。これは観光のために再築したものではなくて、自分達の誇りと祖先、祖国に対する尊敬の表れでした。ドイツにも数多くの有名な世界遺産がありますが、結果としてこれも莫大な観光資源になっています。ドイツ人の一つの特性として、深く洗練された文化、芸術に対して、またそれを継承する努力に対して深い敬意を表すことがあります。どんなに経済的に発展していても、ぶんか、芸術を大切にしないところには、あまり関心を寄せません。私は沖縄が過去、まだ課題はあるにしても、多くの文化遺産を再興、復建してきたことに對し、本当に心から嬉しく重い、誇りに思っています。ドイツは16の州分けられた連邦共和国で、それぞれの州がお

国ぶりを発揮し、文化を大切にしていますが、その中でも南のバイエルン州は特異な存在です。彼らは、自分達の音楽、民族衣裳、踊りましてや言葉の訛りに對しても誇りを持っています。沖縄県が、日本の中で歴史的、文化的に得意な発展を遂げてきたことは、誰も知るところですが、ウチナーンチュがそれに対してもっと誇りをもっていいと思っています。他の都道府県が、その独自性を見習ってもいいと思っているくらいです。（日本の北から南までの駅前や繁華街が、見事なくらい非個性的で一律化されているのを見るといいでしょう。）

さて、今回私は、海外引率者の一人として招待され、沖縄とそして海外から招待された若者達と、寝起きを共にし、一週間の行動を共にする機会にあずかりました。幸い私の息子も海外組みの一人として参加させていただきましたが、彼は、世界地図の中で見て、豆つぶ程の大きさの島々に、風光明媚はさることながら、高い文化や、芸術、芸能がある事に感嘆し、そして自分自身が半分沖縄の血を継いでいる事に誇りを持っています。海外から参加した若者達は、当然地元からの参加者と違う目で沖縄全体を見て感じています。このツアーでは、沖縄のほんのサワリを見たにすぎないものですが、彼らが自国へ帰り、その体験と印象を昇華し、また新しい沖縄像を自身の中に描きだしているのは、自分の息子を通して見えています。今回、この参加者の中から、いずれ沖縄県と海外県系社会の架け橋を担う人材が輩出してくる事を期待し、祈るばかりですが、彼らが将来何らかの形でそれに関わってくことは確かです。そういう意味においてもこのツアーが、若者達に一つの大切なきっかけを与えていることは、大きな意義があると思います。人材育成には長い時間と沢山の費用がかかりますが、今後も沖縄県が大きな視野をもって、この事業に取り組んでいってくれることを、海外で暮らすウチナーンチュの一人として心より願っています。最後に、今回もそうでしたが、いつでも大きな手を広げて暖かく迎えてくれる故郷沖縄があり、そしてウチナーンチュがいる事を実感できる事を本当に心より幸福に思っています。

資 料 編

受 入 実 績

(1) 海外参加者・引率者の国別内訳 【() はそのうち引率者の人数】

国名	年度	H13 (引率者大会)	H14	H15	H16	H17	H18 (引率者大会)	H19	H20	H21	H22	計
ボ リ ビ ア		5(1)	2	3(1)	2	2	5(1)	3(1)	1	1	1(1)	25(5)
ブ ラ ジ ル		7(1)	3(1)	2	3(1)	3(1)	5(1)	3(1)	3(1)	3(1)	2(1)	34(9)
〃 (カンボグランデ)		3(1)	1	2(1)	1	1	2	1	1	1	1	14(2)
アルゼンチン		5(1)	3(1)	2	3(1)	3(1)	3	2	3(1)	2	2	28(5)
ペ ル ー		5(1)	3(1)	3(1)	3(1)	3(1)	4(1)	3(1)	1	3(1)	2	30(8)
ベ ネ ズ エ ラ		2(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2(1)
メ キ シ コ		3(1)	0	0	0	0	1	0	0	1	1	6(1)
キ ュ ー バ		0	2(1)	2(1)	2(1)	0	2(1)	0	2(1)	2(1)	1(1)	13(7)
フ ラ ン ス		2(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2(1)
イ ギ リ ス		2(1)	0	0	0	2(1)	2	0	0	0	0	6(2)
ド イ ツ		2(1)	0	0	0	0	0	1	0	0	1(1)	4(2)
米 国(ハワイ)		0	2	3(1)	1	0	1	0	1	1	0	9(1)
〃 (グアム)		1	0	2(1)	0	0	0	0	0	0	0	3(1)
〃 (本 土)		20(4)	6(2)	5(2)	5(1)	6(1)	11(2)	6(1)	4(1)	6(1)	13(1)	82(16)
カ ナ ダ		6(2)	2(1)	1	1	1	2	1	1	1	2	18(3)
フィリピン		4(1)	3(1)	3(1)	1	1	1	1	0	0	0	14(3)
シンガポール		0	2(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	2(1)
マレーシア		0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2(0)
ニューカレドニア		0	0	0	0	0	0	0	1(1)	1	1	3(1)
計		67(17)	29(9)	28(9)	22(5)	22(5)	40(6)	21(4)	19(5)	22(4)	21(5)	291(69)

(2) 海外参加者内訳
世 代 別

国名	年度	H13 (引率者大会)	H14	H15	H16	H17	H18 (引率者大会)	H19	H20	H21	H22	計
1 世		0	0	0	1	2	1	0	1	0	0	5
2 世		26	5	6	6	3	14	5	2	5	8	80
3 世		21	8	10	8	9	13	8	5	8	7	97
4 世		3	7	3	2	3	5	4	7	5	5	44
5 世		0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
計		50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	228

男 女 別

国名	年度	H13 (引率者大会)	H14	H15	H16	H17	H18 (引率者大会)	H19	H20	H21	H22	計
男子		30	9	5	7	6	15	6	4	6	9	97
女子		20	11	14	10	11	19	11	11	12	12	131
合計		50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	228

(3) 県内・県外参加者内訳
学 校 別

国名	年度	H13 (引率者大会)	H14	H15	H16	H17	H18 (引率者大会)	H19	H20	H21	H22	計
小学生		9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
中学生		24	13	7	5	4	11	4	4	5	6	83
高校生		17	11	18	15	15	22	13	11	13	15	150
計		50	24	25	20	19	33	17	15	18	21	242

男 女 別

国名	年度	H13 (引率者大会)	H14	H15	H16	H17	H18 (引率者大会)	H19	H20	H21	H22	計
男子		15	6	4	4	5	7	3	3	4	3	54
女子		35	18	21	16	14	26	14	12	14	18	188
合計		50	24	25	20	19	33	17	15	18	21	242

平成22年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏 名	年 齢	性 別	学 校 名	
1	島 袋 安 生	AKI SHIMABUKURO	14	女	兼城中学校
2	比 嘉 優 仁	YUUNI HIGA	13	男	与那原中学校
3	前 盛 よもぎ	YOMOGI MAEMORI	14	女	伊原間中学校
4	赤 嶺 英 美	EIMI AKAMINE	13	女	小禄中学校
5	知 念 志鶴河	SHIZUKA CHINEN	14	女	知念中学校
6	高 里 夢 子	YUMEKO TAKAZATO	14	女	上山中学校
7	神 谷 美 帆	MIHO KAMIYA	16	女	糸満高校
8	山 城 美 鈴	MISUZU YAMASHIRO	17	女	糸満高校
9	上 原 壮 登	MASATO UEHARA	17	男	伊良部高校
10	新 垣 日奈子	HINAKO ARAKAKI	17	女	南部農林高校
11	富名腰 明 里	AKARI FUNAKOSHI	15	女	開邦高校
12	根路銘 真 歩	MAHO NEROME	15	女	開邦高校
13	浜 川 涼 夏	SUZUKA HAMAKAWA	15	女	那覇西高校
14	酒 井 真 歩	MAHO SAKAI	15	女	那覇高校
15	宮 城 朱 里	AKARI MIYAGI	16	女	那覇西高校
16	金 城 海 里	KAIRI KINJYO	17	男	浦添高校
17	渡 麻里江	MARIE WATARI	16	女	那覇国際高校
18	崎 本 未 来	MIRAI SAKIMOTO	16	女	那覇西高校
19	岸 本 麻 衣	MAI KISHIMOTO	16	女	那覇西高校
20	名嘉真 千 咲	CHISA NAKAMA	16	女	那覇国際高校
21	楚 南 琴 子	KOTONE SONAN	15	女	那覇西高校

海外参加者名簿

	氏 名	年令	性別	世代	国名	県 人 会 名
1	輝美 タバレス 玉寄 マリア エドゥアルダ TERUMI TAVARES TAMAYOSEMARIA EDUARDA	17	女	4 世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	与儀 ウイリアン 勇貴 YOGI WILLIAN YUKI	15	男	2 世		
3	新里 友三 イルトン 鈴木 SHINZATO SUZUKI YUZO HILTON	16	男	3 世		カンボグランデ沖縄県人会
4	大城 エリカ クリスティナ OSHIRO ERIKA CRISTINA	16	女	3 世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
5	呉屋 パウラ ダニエラ GOYA PAULA DANIELA	17	女	3 世		
6	喜久山 愛理 AIRI KIKUYAMA	17	女	2 世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
7	カナシロ ナカミネ カルロス ヤスヒデ KANASHIRO NAKAMINE CARLOS YASUhide	16	男	3 世	ペルー	ペルー沖縄県人会
8	ムラタ ウエズ ナミエ エリカ MURATA UEZU MAMIE ERIKA	13	女	3 世		
9	ペレス ギューラー 日出美 PEREZ GUERRA HIDE MI	13	女	4 世	メキシコ	メキシコ沖縄県人会
10	フォンテス ゴンザレス キレイ FONTES GONZALEZ KIREY	16	女	4 世	キューバ	青年の島県人会
11	ケイ ジュリア アン KAYE JULIA ANNE	15	女	2 世	アメリカ	ミシガン沖縄県人会
12	パニス ロバート ケネス PANIS ROBERT KENNETH	16	男	3 世		北米沖縄県人会
13	山城 カイル アレフ YAMASHIRO KYLE ALEPH	15	男	4 世		
14	伊佐 プラトニック リアナ ISA LIANA	16	女	2 世		コロラド州沖縄県人会
15	当銘 紀沙 HISA KRISTINA TOUME	17	女	2 世		サンフランシスコ沖縄県人会
16	喜久山 ユキ YUKI KIKUYAMA	17	女	3 世		ニューヨーク沖縄県人会
17	ボロウス ジェシー ケンタ BURROUGHS JESSEY KENTA	16	男	2 世		フロリダ沖縄県人会(がじゅまる会)
18	比嘉 マッケンジー サチ HIGA MACKENZIE SATCHI	14	男	4 世	カナダ	トロント球陽会
19	ハリデー 葉月 クイン HALLIDAY HAZUKI QUINN	15	男	2 世		
20	中山 ローベルト 拓也 NAKAYAMA ROBERT TAKUYA	14	男	2 世	ドイツ	ドイツ沖縄県人会
21	ボナヴァンチュール オロール BONAVENTURE AURORE	15	女	5 世	ニューカレドニア	ニューカレドニア沖縄日系人会

海外引率者名簿

	氏 名	年齢	性別	世代	国名	県人会等名
1	呉屋 新城 春美 GOYA ARASHIRO HARUMI	57	女	世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	新垣 まゆみ ARAKAKI MAYUMI	33	女	2 世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
3	ゴンザレス 石川 ロベルト GONZALEZ ISHIKAWA ROBERTO	35	男	3 世	キューバ	キューバ沖縄県人会
4	喜久山 イヴァン KIKUYAMA IVAN	27	男	3 世	アメリカ	ジョージア琉球郷友会
5	中山 聡 NAKAYAMA SATOSHI	51	男	1 世	ドイツ	ドイツ沖縄県人会

平成21年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏 名	年 齢	性 別	学 校 名
1	山 城 金太郎 KINTARO YAMASHIRO	14	男	伊江中学校
2	小那覇 祐 希 YUKI ONAHA	12	女	古蔵中学校
3	神 里 阿侑香 AYUKA KAMIZATO	14	女	南西中学校
4	仲 村 デーニー DANNY NAKAMURA	13	男	名護中学校
5	新 里 陽菜子 HINAKO SHINZATO	12	女	伊波中学校
6	眞榮城 駿 SHUN MAESHIRO	17	男	真和志高校
7	新 崎 仁 雄 JINYU ARASAKI	17	男	沖縄尚学高校
8	花 澤 千 裕 CHIHIRO HANAZAWA	17	女	伊良部高校
9	玉 城 瑠 璃 RURI TAMASHIRO	17	女	糸満高校
10	徳 本 り さ RISA TOKUMOTO	17	女	那覇商業高校
11	玉 城 理 沙 RISA TAMAKI	17	女	首里高校
12	名嘉真 美 咲 MISAKI NAKAMA	18	女	浦添高校
13	宮 平 優 想 YU MIYAHIRA	17	女	那覇商業高校
14	安 里 久美子 KUMIKO ASATO	16	女	西原高校
15	新 垣 玲央菜 REONA ARAKAKI	16	女	中部商業高校
16	仲 里 なつき NATSUKI NAKAZATO	15	女	陽明高校
17	普天間 友 美 TOMOMI FUTENMA	16	女	首里東高校
18	ブースクリ 満理奈 MARINA BOUSCKRI	15	女	沖縄尚学高校

平成21年度 海外参加者名簿

海外参加者名簿

	氏 名	年齢	性別	世代	国名	県 人 会 名
1	仲宗根 グスタヴォ 学 NAKASONE GUSUTAVO MANABU	17	男	2 世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	翁長 セーリア 美和 ONAGA CELIA MIWA	16	女	3 世		
3	安中 安慶名 レシチア アケミ YASUNAKA AGUENA LETICIA AKEMI	15	女	3 世		カンボグランデ沖縄県人会
4	小池 エドアルド 直征 KOIKE EDUARDO ERNESTO	17	男	3 世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
5	仲宗根 ニコラス 啓 NAKASONE NICOLAS CRISTIAN	18	男	2 世		
6	中村 利沙 RISA NAKAMURA	14	女	3 世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
7	宮城 仲本 治至 ディエゴ MIYAGUSUKU NAKAMOTO HARUYUKI DIEGO	17	男	4 世	ペルー	ペルー沖縄県人会
8	安座間 平良 キオミ クラウディア AZAMA TAIRA KIOMI CLAUDIA	14	女	3 世		
9	エステラ ロサノ 仲程 ESTELA LOZANO NAKAHODO	14	女	4 世	メキシコ	メキシコ沖縄県人会
10	ウエンディ ロイス タマキ WENDY LOYS TAMAKI	18	女	4 世	キューバ	キューバ沖縄県人会
11	座喜味 ケリ アン キミコ ZAKIMI KELLI ANN KIMIKO	17	女	4 世	アメリカ	ハワイ沖縄連合会
12	新垣 有紀 YUKI SHINGAKI	17	男	2 世		北米沖縄県人会
13	カティア ヒミコ リベラ RIVERA KATIYA	15	女	2 世		ジョージア琉球郷友会
14	真喜志 直美 NAOMI MAKISHI	15	女	2 世		ワシントン DC 沖縄会
15	ルーカ マイケル ライル LUKE MICHAEL RYLE	17	男	3 世		インディアナ沖縄県人会
16	ジェシカ ダニエル ブラック BLACK JESSICA DANIELLE	16	女	3 世		フロリダ沖縄県人会 (がじゅまる会)
17	親川 愛 AI OYAKAWA	16	女	3 世	カナダ	トロント球陽会
18	レカイユ ユキ アンドレア LECAILLE YUKI ANDREA	18	女	4 世	ニューカレドニア	ニューカレドニア沖縄日系人会

海外引率者名簿

	氏 名	年齢	性別	世代	国名	県人会等名
1	与儀 哲雄 YOGUI TETSUI	69	男	2 世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	弘中 山城 ルイス フェルナンド HIRONAKA YAMAGUSUKU LUIS FERNANDO	22	男	3 世	ペルー	ペルー沖縄県人会
3	ナカソネ ソニア マリア NAKASONE SONIA MARIA	50	女	2 世	キューバ	キューバ沖縄県人会
4	米盛 克之 KATSUYUKI YONEMORI	37	男	1 世	アメリカ	ジョージア琉球郷友会

平成20年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏 名	年 齢	性 別	学 校 名
1	宮 里 明衣子	MIYAZATO MEIKO	14 女	伊江中学校
2	下 門 楓	SHIMOJO KAEDE	13 女	潮平中学校
3	福 里 那 央	FUKUZATO NAO	14 男	高江洲中学校
4	豊 里 源	TOYOZATO GEN	13 男	那覇中学校
5	豊 永 優 姫	TOYONAGA YUKI	17 女	コザ高等学校
6	新 垣 美 樹	ARAKAKI MIKI	17 女	開邦高等学校
7	酒 井 知 奈	SAKAI CHINA	16 女	那覇高等学校
8	村 田 ゆうこ	MURATA YUKO	15 女	那覇西高等学校
9	花 城 亜紀子	HANASHIRO AKIKO	16 女	那覇西高等学校
10	玉那覇 祐利香	TAMANAHA YURIKA	17 女	西原高等学校
11	宜 保 有 樹	GIBO YUKI	17 男	中部農林高等学校
12	池 村 愛 美	IKEMURA AIMI	16 女	豊見城高等学校
13	友 利 麻 羽	TOMORI MAU	16 女	首里東高等学校
14	新 城 祥 子	ARASHIRO SHOKO	17 女	八重山高等学校
15	兼 城 凜 子	KANESHIRO RIKO	16 女	首里高等学校

平成20年度 海外参加者名簿

海外参加者名簿

	氏 名	年令	性別	世代	国名	県 人 会 名
1	天久 レニラ 阿弓 AMEKU LENIRA AYUMI	15	女	2 世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	与那嶺 モニカ 多美 YONAMINE MONICA TAMMY	15	女	3 世		
3	中馬 渡慶次 カーレン TIGUMAN TOKESHI KAREN	18	女	4 世		カンボグランデ沖縄県人会
4	名城 エベリン マルセラ NASHIRO EVELYN MARCELA	17	女	3 世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
5	饒平名 さゆり YOHENA SAYURI	18	女	3 世		
6	安座間 上地 カテリネ 直未 AZAMA UECHI KATHERINE NAOMI	16	女	4 世	ペルー	ペルー沖縄県人会
8	島袋 里菜 SHIMABUKURO RINA	14	女	3 世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
9	ガルシア ウエマ ダニエル GARCIA UYEMA DANIEL	15	男	4 世	キューバ	キューバ沖縄県人会
10	森部 マーシ 美幸 MORIBE MARCIE MIYUKI	15	女	4 世	アメリカ	ハワイ沖縄連合会
11	上運天 クリスティーナ アイ UEUNTEN CHRISTINA AI	17	女	4 世		サンフランシスコ沖縄県人会
12	ウィレット ザックリー WILLETT ZACHARY	13	男	2 世		ワシントン州沖縄県人クラブ
13	チョ アレクサンダー ディー ジン CHO ALEXANDER DAE JIN	16	男	3 世		沖米沖縄県人会
15	山城 清光昭 ブレット YAMASHIRO BRETT ALEXANDER	16	男	4 世	カナダ	カルガリーオキナワンクラブ
16	福里 友理 FUKUZATO YURI	15	女	2 世	マレーシア	マレーシア沖縄会
17	ヴォニティシ セノキ モルガン ファビエラ テレーズ VONITHSI-ZENOKI MORGANE FABIELLA THERESE	19	女	4 世	ニューカレドニア	ニューカレドニア沖縄日系人会

海外引率者名簿

	氏 名	年齢	性別	世代	国名	県人会等名
1	垣花 輝明 KAKINOHANA KIMEI	67	男	2 世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	大城 ディエゴ セバスティアン OSHIRO DIEGO SEBASTIAN	21	男	3 世	アルゼンチン	ボリビア沖縄県人会
3	サンチェス タマキ ロベルト SANCHEZ TAMAKI ROBERTO	44	男	3 世	キューバ	ペルー沖縄県人会
4	稲福 紀子 INAFUKU NORIKO	24	女	1 世	アメリカ	ワシントン州沖縄県人クラブ
5	小出 友視 KOIDE TOMOMI		女		ニューカレドニア	沖縄ニューカレドニア友好協会

平成19年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏 名	年 齢	性 別	学 校 名	
1	栗 國 志 帆	AGUNI SHIHO	14	女	真和志中学校
2	金 城 華奈子	KINJO KANAKO	13	女	潮平中学校
3	宮 城 玲 奈	MIYAGI RENA	13	女	美里中学校
4	安 里 翼	ASATO TATSUMI	14	女	与那原中学校
5	玉 城 美耶子	TAMAKI MIYAKO	16	女	那覇西高等学校
6	上 間 瑞 樹	UEMA MIZUKI	17	女	開邦高等学校
7	与那覇 智 都	YONAHA CHISATO	16	女	開邦高等学校
8	瑞慶山 美 咲	ZUKEYAMA MISAKI	17	女	コザ高等学校
9	宮 城 聖 乃	MIYAGI SYONO	15	女	コザ高等学校
10	狩 俣 友 恵	KARIMATA TOMOE	17	女	宮古高等学校
11	上 原 善 男	UEHARA YOSHIO	21	男	南部工業高等学校
12	宮 城 和 哉	MIYAGI KAZUYA	18	男	西原高等学校
13	川 満 大 祐	KAWAMITSU DAISUKE	17	男	西原高等学校
14	岸 本 りいま	KISHIMOTO RIIMA	16	女	宜野湾高等学校
15	許 田 侑 加	KYODA YUKA	18	女	興南高等学校
16	源 河 花乃子	GENKA KANOKO	17	女	首里高等学校
17	宇 座 愛 希	UZA AIKI	15	女	浦添高等学校

平成19年度 海外参加者名簿

海外参加者名簿

	氏 名	年齢	性別	世代	国名	県 人 会 名
1	宮里 賢征 MIYAZATO UETA MAURY MASSAYUKI	17	男	3 世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	上江洲 小百合 シルビア UESU SILVIA SAYURI	15	女	4 世		
3	ヴィヴィアネ ユミ ハラサキ VIVIANA YUMI HARASAKI	17	女	3 世		カンボグランデ沖縄県人会
4	新城 パブロ アリエル PABLO ARIEL ARAGUSUKU	18	男	4 世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
5	仲宗根 ゆかり YUKARI NAKASONE	17	女	2 世		
6	真栄城 仲宗根 カリーナ 初江 KARINA HATSUE MAESHIRO NAKASONE	17	女	3 世	ペルー	ペルー沖縄県人会
7	伊佐 与儀 幸子 カロリーナ SACHIKO CAROLINA ISA YOGUI	16	女	3 世		
8	大城 広大 KODAI OSHIRO	13	男	3 世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
9	クダカ 美咲 MISAKI KUDAKA	15	女	3 世		
10	ジャスティン トヨサト JUSTIN TOYOSATO	13	男	4 世	アメリカ	北米沖縄県人会
11	麗矢 マーロウ LAIYA MARLOW	14	女	2 世		コロラド州沖縄県人会
12	マケラ レネー コール MICHAELA RENE COLE	17	女	3 世		アトランタ沖縄県人会
13	トモコ レネー レオナード TOMOKO RENEE LEONARD	17	女	2 世		インディアナ沖縄県人会
14	クリスティーナ チハル ヘンリー CHRISTINA CHIHARU HENRY	17	女	2 世		スペースコースト沖縄県人会 ゆいまーる会
15	ジョシュア マイケル キャンベル JOSHUA MICHAEL CAMPBELL	15	男	4 世	カナダ	レスブリッジ沖縄県人会
16	ク リ ス チ ア ン サ ン MACALINTAL CHRISTIAN SANTOS	18	男	3 世	フィリピン	フィリピン沖縄県人会
17	比嘉 紀乃 KOTONO HIGA	14	女	2 世	ドイツ	ドイツ沖縄県人会

海外引率者名簿

	氏 名	年齢	性別	世代	国名	県人会名
1	カネシロ ジョゼ マツオ KANESHIRO JOSE MATSUO	56	男	2 世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	儀間 いつ子 ITSUKO GIMA	30	女	2 世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
3	城間 呉屋 カリーナ ジセーレ KARINA GISSELLE SHIROMA GOYA	27	女	3 世	ペルー	ペルー沖縄県人会
4	マユミ マーレイン コール MAYUMI MARLENE COLE	48	女	2 世	アメリカ	アトランタ沖縄県人会

平成18年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏 名	学年	性別	学 校 名	
1	国 吉 明 太 示	KUNIYOSHI MEINA	3	女	中城村立中城中学校
2	久手堅 憲 稀	KUDEKEN NORIKI	3	男	西原町立西原東中学校
3	比 嘉 夏 海	HIGA NATSUMI	3	女	浦添市立浦添中学校
4	富名腰 彩 乃	FUNAKOSHI AYANO	3	女	那覇市立首里中学校
5	豊見山 佐 妃	TOMIYAMA SAKI	3	女	那覇市立松島中学校
6	前 里 雅	MAESATO MIYABI	3	女	那覇市立松島中学校
7	中 村 春 葵	NAKAMURA HARUKI	3	女	豊見城市立長嶺中学校
8	与 坂 勇 姫	YOSAKA YUKI	1	女	南城市立玉城中学校
9	比 嘉 美 幸	HIGA MISAKI	3	女	与那原町立与那原中学校
10	崎 原 佑 介	SAKIHARA YUSUKE	3	男	与那原町立与那原中学校
11	島 袋 正 志	SHIMABUKURO MASASHI	1	男	多良間村立多良間中学校
12	諸 見 正 太	MOROMI SHOTA	3	男	石川高等学校
13	津 波 義 弥	TSUHA YOSHIYA	3	男	北谷高等学校
14	山 内 祐 奈	YAMAUCHI YUUNA	3	女	普天間高等学校
15	喜 納 亜沙美	KINA ASAMI	3	女	普天間高等学校
16	川 節 太 示 那	KAWASETSU NANA	3	女	西原高等学校
17	屋比久 ま り	YABIKU MARI	3	女	浦添工業高等学校
18	運 天 美由紀	UNTEN MIYUKI	3	女	浦添工業高等学校
19	池 原 ななえ	IKEHARA NANAE	3	女	那覇国際高等学校
20	上 間 もえみ	UEMA MOEMI	3	女	那覇国際高等学校
21	狩 俣 彩 乃	KARIMATA AYANO	1	女	首里高等学校
22	久 貝 博 文	KUGAI HIROFUMI	1	男	小禄高等学校
23	大 城 ひろか	OSHIRO HIROKA	2	女	那覇西高等学校
24	岩 田 彩	IWATA AYA	1	女	那覇西高等学校
25	稲 福 奈実子	INAFUKU NAMIKO	3	女	那覇商業高等学校
26	城 田 麻莉亜	SHIROTA MARIA	3	女	那覇商業高等学校
27	謝敷 アリー二	JASHIKI ALINI	1	女	沖縄尚学高等学校
28	宮 城 若 名	MIYAGI WAKANA	2	女	沖縄女子短期大学附属高等学校
29	下 地 由英子	SHIMOJI YUFUKO	2	女	開邦高等学校
30	照 屋 美友貴	TERUYA MIYUKI	2	女	知念高等学校
31	糸 数 舞	ITOKAZU MAI	2	女	知念高等学校
32	金 城 将 吾	KINJO SHOGO	3	男	糸満高等学校
33	平 良 優 圭	TAIRA YUKA	3	女	久米島高等学校

海外参加者名簿

	氏 名	性別	世代	国名	県 人 会 名
1	ガブリエレ エリ 比嘉 GABRIELLE ERY HIGA	女	2 世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	カリナ イズミ 具志堅 KARINA IZUMI GUSHIKEN	女	3 世		
3	カレン ユミ 宮城 KAREN YUMI MIYASHIRO	女	4 世		
4	レチシア チエミ 高良 LETICIA TIEMI TAKARA	女	3 世		
5	マリオ セルジオ いさお 小波津 MARIO SERGIO ISSAO KOHATSU	男	3 世		カンボグランデ沖縄県人会
6	レナタ ちえみ 城間 RENATA TIEMI SHIROMA	女	3 世		
7	宮平 レオナルド マルティン LEONARDO MARTIN MIYAHIRA	男	2 世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
8	新垣 あかね AKANE ARAKAKI	女	1 世		
9	喜納 パウラ ミカエラ ミユキ PAULA MICAELA KINA	女	3 世		
10	新垣 金城 ジーミ ホルヘ JIMMY JORGE ARAKAKI KANASHIRO	男	4 世	ペルー	ペルー沖縄県人会
11	具志堅 大城 ガブリエラ イサベル GABRIELA ISABEL GUSHIKEN OSHIRO	女	3 世		
12	渡嘉敷 国頭 ダニエラ DANIELA TOKASHIKI KUNIGAMI	女	4 世		
13	比嘉 さゆり SAYURI HIGA	女	3 世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
14	眞榮城 弥生 YAYOI MAESHIRO	女	3 世		
15	安里 健 KEN ASATO	男	2 世		
16	ホカマ 栄 SAKAE HOKAMA	男	3 世		
17	イダルゴ カネド フランシスコ エイジ FRANCISCO EILLY HIDALGO CANEDO	男	4 世	メキシコ	メキシコ沖縄県人会
18	キヨミ トレス ゴンザレス KIYOMI TORRES GONZALEZ	女	4 世	キューバ	キューバ沖縄県人会
19	高田 シャンテル 真由美 CHANTELLE MAYUMI TAKATA	女	5 世	アメリカ	ハワイ沖縄連合会
20	ダニエル マコト バンバード DANIEL MAKOTO BOMBARD	男	2 世		北米沖縄県人会
21	又吉 まりこ リン MARIKO LYN MATAYOSHI	女	2 世		北カリフォルニア沖縄県人会

平成18年度 海外参加者名簿

海外参加者名簿

19	高田 シャンテル 真由美 CHANTELLE MAYUMI TAKATA	女	5 世	アメリカ	ハワイ沖縄連合会
20	ダニエル マコト バンバード DANIEL MAKOTO BOMBARD	男	2 世		北米沖縄県人会
21	又吉 まりこ リン MARIKO LYN MATAYOSHI	女	2 世		北カリフォルニア沖縄県人会
22	ウェットセル ミッシェル ケイコ MICHELLE KEIKO WHETSELL	女	2 世		ワシントン州沖縄県人クラブ
23	デイル アレン シュレイン DALE ALLEN SCHLEHLEIN III	男	3 世		中西部沖縄県人会
24	アシュレイ 紀子 シャンクス ASHLEY KIKO SHANKLES	女	2 世		ニューメキシコ沖縄県人会
25	イアン トーマス ダグラス IAN THOMAS DOUGLAS	男	3 世		ニューヨーク沖縄県人会
26	フェングラー 美花 MIKA LEILANI FENGLER	女	2 世		アトランタ沖縄県人会
27	アッシー ブルック シングルトン ASHLIE BROOKE SHINGLETON	女	3 世		ジャクソンビル沖縄県人会
28	クリストファー ジェフリー エドワーズ CHRISTOPHER JEFFREY EDWARDS	男	2 世		ミシガン沖縄県人会
29	パターン アンドリュー 義輝 ANDREW YOSHIKI PATTERSON	男	2 世	カナダ	バンクーバー沖縄県友愛会
30	比嘉 史 NICHOLAS CHIKASHI HIGA	男	2 世		トロント球陽会
31	ブライアン メア ヤキテン YAQUITEN BRYAN MEJIA	男	3 世	フィリピン	フィリピン沖縄県人会
32	比嘉 麻耶 MAYA HIGA	女	2 世	マレーシア	マレーシア沖縄会
33	石垣 幸夫 SACHIO LUCIAN ISHIGAKI	男	2 世	イギリス	イギリス沖縄県人会
34	石垣 優児 YUJI ISHIGAKI	男	2 世		

海外引率者名簿

	氏 名	性別	世代	国名	県人会名
1	与儀 上原 昭雄 AKEO UEHARA YOGUI	男	2 世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	譜久原 アントニオ FUKUHARA ANTONIO	男	3 世	ペルー	ペルー沖縄県人会
3	イノウエ 悦子 ETSUKO INOUE	女	2 世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
4	ジュリエタ フォンテ 伊波 JULIETA FONTE IHA	女	3 世	キューバ	キューバ沖縄県人会
5	ジャネット 亜希子 山内 JANET AKIKO YAMAUCHI	女	2 世	アメリカ	北米沖縄県人会
6	上原 さやか SAYAKA UEHARA	女	1 世	アメリカ	ニューヨーク沖縄県人会

平成17年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏 名	年 齢	性 別	学 校 名	
1	具志堅 靖 知	GUSHIKEN YASUTOMO	14	男	沖縄市立コザ中学校
2	城間 ひかる	SHIROMA HIKARU	14	女	那覇市立石嶺中学校
3	伊 地 侃 海	ICHI TADAMI	14	男	与那原町立与那原中学校
4	又 吉 奈保子	MATAYOSHI NAOKO	14	女	石垣市立伊原間中学校
5	金 城 千 尋	KINJO CHIHIRO	16	女	北部工業高等学校
6	幸 地 長 治	KOUCHI CHOUJI	16	男	名護高等学校
7	金 城 エリナ	KINJO ERINA	17	女	読谷高等学校
8	大 城 奈 々	OSHIRO NANA	17	女	具志川高等学校
9	玉 城 美 優	TAMAKI MIYU	18	女	具志川高等学校
10	山 城 杏 奈	YAMASHIRO ANNA	16	女	普天間高等学校
11	宇 根 あみ菜	UNE AMINA	17	女	浦添高等学校
12	大 城 李理子	OSHIRO RIRIKO	15	女	那覇高等学校
13	斉 藤 愛 里	SAITO AIRI	16	女	那覇国際高等学校
14	又 吉 扶	MATAYOSHI TASUKU	17	男	那覇国際高等学校
15	上 原 麻 衣	UEHARA MAI	15	女	小禄高等学校
16	小那覇 祥 子	ONAHA SHOKO	16	女	豊見城高等学校
17	番 園 亨	BANZONO TORU	16	男	糸満高等学校
18	翁 長 琴 乃	ONAGA KOTONO	17	女	久米島高等学校
19	伊良部 夏 美	IRABU NATSUMI	18	女	宮古工業高等学校

平成17年度 海外参加者名簿

海外参加者名簿

	氏 名	性別	世代	国名	県 人 会 名
1	大城 直美 マヤラ MAYARA NAOMI DE ALCANTARA OSHIRO	女	2 世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	宮城 明子 ベアトリス BEATRIZ AKIKO MIYASHIRO	女	3 世		
3	川波 エンリッケ ケンジ HENRIQUE KENJI KAWANAMI	男	3 世		カンボグランデ沖縄県人会
4	屋宜 宣広 アレハンドロ ALEJANDRO DANIEL YAGI	男	3 世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
5	岸本 ユカリ YUKARI KISHIMOTO	女	1 世		
6	仲里 国頭 エミ カロリーナ EMY CAROLINA NAKASATO KUNIGAMI	女	4 世	ペルー	ペルー沖縄県人会
7	亀甲 亀甲 たかし アレハンドロ TAKASHI ALEJANDRO KAMEGO KAMEKO	男	3 世		
8	親川 千草 カサンドラ CHIGUSA CASANDRA OYAKAWA	女	3 世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
9	ジャンニ ブラジル JANNY BRASIL TAMASHIRO	女	3 世		
10	ヤマシロ ミッシェル MICHELLE ALEXANDRA YAMASHIRO	女	4 世	アメリカ	北米沖縄県人会
11	イタリアーノ チャンス ケンイチ CHANCE KENICHI ITALIANO	男	1 世		ユタ州沖縄県人会
12	イーブリー マケーナ ヴィカーシャ MCKENNA VIKASHAA EASLEY	女	2 世		ワシントンDC沖縄県人会
13	ラックエル 笑美 コンドン RAQUEL EMI CONDON	女	3 世		インディアナ沖縄県人会
14	クリストファー ジョシア ワールターズ CHRISTOPHER JOSHUA WALTERS	男	3 世		フロリダ沖縄県人会
15	ジョーダン カミオ サワダ JORDAN KAMIO SAWADA	男	4 世	カナダ	レスブリッジ沖縄県人会
16	ジャスミン マリー ドフレド デ ヘスス JASMINE MARIE DE JESUS	女	3 世	フィリピン	フィリピン沖縄県人会
17	ゴンザレス 優子 エリザベス YUKO ELIZABETH GONZALES	女	2 世	イギリス	イギリス沖縄県人会

海外引率者名簿

	氏 名	性別	世代	国名	県人会名
1	松堂 忠顕 CHUKEN MATSUDO	男	1 世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	新里 ファビアナ カルメン FABIANA CARMEN SHINZATO	女	2 世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
3	安座間 喜屋武 シェイラー パトリシア SHEILLAH PATRICIA AZAMA KIYAN	女	3 世	ペルー	ペルー沖縄県人会
4	牧志 啓和 HIROKAZU MAKISHI	男	1 世	アメリカ	ユタ州沖縄県人会
5	伊敷 久子 HISAKO ISHIKI	女	1 世	イギリス	イギリス沖縄県人会

平成16年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏 名	年 齢	性 別	学 校 名	
1	棚 原 琴 希	TANAHARA KOTOKI	14	女	宜野湾市立宜野湾中学校
2	糸 数 梨 乃	ITOKAZU RINO	13	女	那覇市立小禄中学校
3	国 吉 美 樹	KUNIYOSHI MIKI	14	女	久米島町立具志川中学校
4	高 原 茉 奈	TAKAHARA MANA	14	女	平良市立平良中学校
5	前上里 李衣奈	MAEUEZATO LIINA	13	女	石垣市立伊原間中学校
6	幸 地 美 琴	KOUCHI MIKOTO	17	女	名護高等学校
7	平 良 楨 子	TAIRA MAKIKO	17	女	石川高等学校
8	小 谷 仁 人	KOTANI KIMIHITO	17	男	石川高等学校
9	池 原 春 太	IKEHARA HARUNA	18	女	読谷高等学校
10	又 吉 毅	MATAYOSHI TAKESHI	17	男	美里高等学校
11	上 原 唯	UEHARA YUI	18	女	球陽高等学校
12	崎 濱 優 希	SAKIHAMA YUUKI	18	女	与勝高等学校
13	沖 吉 ハンナ	OKIYOSHI HANNA	16	女	普天間高等学校
14	運 天 美 里	UNTEN MISATO	16	女	首里高等学校
15	久銘次 美奈江	KUMEJI MINAE	16	女	那覇国際高等学校
16	謝敷 エミリー	JASHIKI EMILY	16	女	那覇国際高等学校
17	金 城 のぞみ	KINJOU NOZOMI	17	女	那覇西高等学校
18	許 田 卓 史	KYODA TAKAFUMI	18	男	興南高等学校
19	金 憲 禎	KIM HUNJUNG	16	男	沖縄尚学高等学校
20	細 田 愛	HOSODA MANA	15	女	豊見城高等学校

平成16年度 海外参加者名簿

海外参加者名簿

	氏 名	性別	世代	国名	県 人 会 名
1	比嘉 理恵 デボラ DEBORA LIE HIGA	女	3 世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	知念 まゆみ クリスチーナ CRISTINA MAYUMI CHINEN	女	2 世		
3	城間 ロドリーゴ シゲイロ RODRIGO SHIGUEIRO SIROMA	男	3 世		カンポグランデ沖縄県人会
4	又吉 アンドレス MATAYOSHI ANDRES PABLO	男	3 世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
5	米須 ノルマ ビルヒニア KOMESU NORMA VIRGINIA	女	3 世		
6	エスコバル 伊礼 ジョアナ エツコ ESCOBAR YREY JOHANNA ETSUKO	女	4 世	ペルー	ペルー沖縄県人会
7	比嘉 シンボ エリック ハビエル HIGA SHIMBO ERIC JAVIER	男	3 世		
8	中村 稲嶺 真由美 NAKAMURA INAMINE MAYUMI	女	2 世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
9	新垣 サトル ARAKAKI SATORU	男	2 世		
10	サユリ ゴンザレス ナカソネ GONZALEZ NAKASONE SAYURI	女	3 世	キューバ	キューバ沖縄県人会
11	ミッシェル ミヨリ パニス PANIS MICHELLE MIYORI	女	3 世	アメリカ	沖米沖縄県人会
12	ウィリアム ウォルター ストレリー STRALEY WILLIAM WALTER	男	2 世		ペンサコーラ沖縄県人会
13	コラオ クリスタル CORRAO CRYSTAL MARIE	女	2 世		シカゴ沖縄県人会
14	新城 アントニ 大陸男 ARASHIRO ANTHONY MUTSUO	男	2 世		サンディエゴ沖縄県人会
15	ジェシー・マイ カイアオ ア カマラニ・ホリ HORI JESSIE MAI KAIAO A KAMALANI	女	4 世		ハワイ沖縄連合会
16	喜久川 可奈 KIKUKAWA KANA	女	1 世	カナダ	バンクーバー沖縄県友愛会
17	レンド ジャン ボニファシヨ BONIFACIO RHEND JAN	男	3 世	フィリピン	フィリピン沖縄県人会

海外引率者名簿

	氏 名	性別	世代	国名	県人会名
1	与儀 上原 昭雄	男	2 世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	新垣 アリエル	男	2 世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
3	松田 美津江	女	2 世	ペルー	ペルー沖縄県人会
4	ミユキ イトカズ モラレス	女	3 世	キューバ	キューバ沖縄県人会
5	光江 上原 コーチ	女	1 世	アメリカ	シカゴ沖縄県人会

平成15年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏 名	年齢	性別	学 校 名
1	宮 本 詩 織 Miyamoto Shiori	12	女	港川中学校
2	島 袋 希 Shimabukuro Nozomi	15	女	首里中学校
3	山 城 貴 徳 Yamashiro Takanori	14	男	糸満中学校
4	比 屋 根 安 尚 Hiyane Yasunao	13	男	南星中学校
5	長 嶺 一 司 Nagamine Kazushi	13	男	南星中学校
6	古 波 蔵 直 子 Kohagura Naoko	14	女	南星中学校
7	比 嘉 淳 子 Higa Junko	18	女	八重山農林高等学校
8	吉 村 苑 華 Yoshimura Sonoka	17	女	読谷高等学校
9	高 良 南 Takara Minami	18	女	球陽高等学校
10	玉 城 幸 Tamaki Miyuki	17	女	浦添高等学校
11	安次富 紗綾香 Ashitomi Sayaka	16	女	浦添商業高等学校
12	比 嘉 こ な み Higa Konami	17	女	首里高等学校
13	安 里 み ち よ Asato Michiyo	17	女	首里東高等学校
14	新 垣 怜 子 Arakaki Reiko	17	女	那覇高等学校
15	新 崎 奈 央 Arasaki Nao	17	女	那覇高等学校
16	前 田 那 美 子 Maeda Namiko	18	女	那覇国際高等学校
17	大 本 紗 哉 Ohmoto Saya	16	女	那覇国際高等学校
18	金 城 美 菜 Kinjo Mina	17	女	那覇商業高等学校
19	大 城 桃 香 Oshiro Momoka	16	女	沖縄尚学高等学校
20	真栄城 智恵美 Maesiro Chiemi	16	女	沖縄尚学高等学校
21	稲 福 陽 香 Inafuku Haruka	15	女	興南高等学校
22	村 吉 梨 華 子 Murayoshi Rikako	15	女	興南高等学校

県外内参加者名簿

	氏 名	年齢	性別	学 校 名
1	金 城 幸 代 Kinjo Sachiyo	15	女	兵庫県立宝塚私立高司中学校
2	上 原 勝 也 Uehara Katsuya	17	男	兵庫県立宝塚高等学校
3	小 山 奈 未 Koyama Nami	18	女	日本福祉大学附属高等学校

平成15年度 海外参加者名簿

海外参加者名簿

	氏 名	性別	世代	国名	県 人 会 名
1	新城 真由美 Monica Mayumi Arashiro	女	3 世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	仲村 カロリーナ みどり Carolina Midori Nakamura	女	2 世		
3	新里 チエミ アンネ Anne Thiemy Suzuki Shinzato	女	3 世		カンボグランデ沖縄県人会
4	井口 セシリア ミドリ Iguchi Cecilia Midori	女	3 世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
5	諸喜田 マリネ Shokida Marine	女	3 世		
6	仲本 山城 ダニエラ Nakamoto Yamagusuku Daniella	女	3 世	ペルー	ペルー沖縄県人会
7	渡慶次 山城 マリア ガブリエラ Tokeshi Yamagusuku Maria Gabriela	女	3 世		
8	神谷 ナオミ Kamiya Pedraza Naomi	女	2 世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
9	比嘉 浩二 Higa Koji	男	2 世		
10	アレマン レオナルド ホルヘ エルネスト Aleman Leonard Jorge Ernesto	男	4 世	キューバ	キューバ沖縄県人会
11	キャサレン アーヌ シロマ Katharine Anne Shiroma	女	4 世	アメリカ	ハワイ沖縄県人会
12	タイ ジン コバシガワ Ty Jin Kobashigawa	男	4 世		北米沖縄県人会
13	玉城 由美 Tamashiro Yumi	女	2 世		
14	柳田 コリン タケシ Yanagida Colin Takeshi	男	2 世		
15	アシュリー フリック Ashley Frick	女	3 世		ニューヨーク沖縄県人会
16	仲原 オリバー 竜司 Nakahara Oliver Ryoji	男	2 世	カナダ	カルガリー沖縄県人会
17	ディナマエ エロイ リェゴ Llego Dinahmae Eroy	女	3 世	フィリピン	フィリピン沖縄県人会
18	パトリシア レジーナ ノセダ ロペス Lopez Patricia Resyna Noceda	女	3 世		
19	レドナ ジェニファー 祐紀 Redona Jennifer Yuki	女	3 世	アメリカ	グアム沖縄県人会

海外引率者名簿

	氏 名	性別	世代	国名	県人会名
1	屋富祖 正一	男	1 世	ブラジル	カンボグランデ沖縄県人会
2	安座間 平敷 ファン 喜勝	男	3 世	ペルー	ペルー沖縄県人会
3	比嘉 次雄	男	1 世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
4	上間 大兼久 ホルヘ	男	2 世	キューバ	キューバ沖縄県人会
5	タランティニ 裕子 伊波	女	1 世	アメリカ	北米沖縄県人会
6	曾野 知雄	男	2 世		ニューヨーク沖縄県人会
7	島袋 カオル ネイディー	女	2 世		ハワイ沖縄県人会
8	アセルデン マリア コラソン エバンヘリオ	女	2 世	フィリピン	フィリピン沖縄県人会
9	奥濱 レドナ 悦子	女		アメリカ	グアム沖縄県人会

平成14年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏 名	年 齢	性 別	学 校 名	
1	宮 里 諒 哉	Ryoya Miyazato	15	男	名護市立大宮中学校
2	奥 間 友里恵	Yurie Okuma	14	女	金武町立金武中学校
3	與那城 美姫乃	Mikino Yonashiro	12	女	沖縄市立安慶田中学校
4	伊良波 一 美	Kazumi Iraha	14	女	沖縄市立山内中学校
5	嘉 敷 真 菜	Mana Kakazu	13	女	浦添市立浦西中学校
6	比 嘉 麻 臣	Asami Higa	13	女	那覇市立松城中学校
7	平 敷 綾	Aya Heshiki	15	女	那覇市立小禄中学校
8	山 城 信 裕	Nobuhiro Yamashiro	14	男	与那原町立与那原中学校
9	杉 山 星 河	Seika Sugiyama	12	女	豊見城市立伊良波中学校
10	川 平 一 之	Kazuyuki Kawahira	14	男	城辺町立福嶺中学校
11	宮 城 聖里香	Serika Miyagi	17	女	辺土名高等学校
12	大 城 奈津紀	Natsuki Ohshiro	16	女	石川高等学校
13	山 城 夢 乃	Yumeno Yamashiro	15	女	美里高等学校
14	宮 里 あすか	Asuka Miyazato	17	女	宜野湾高等学校
15	嵩 本 哲 也	Tetsuya Takemoto	16	男	西原高等学校
16	西 筋 理 奈	Rina Irisuji	15	女	那覇高等学校
17	玉 城 智 佳	Chika Tamaki	18	女	沖縄女子短大附属高等学校
18	國 場 雄 作	Yusaku Kokuba	16	男	豊見城高等学校
19	又 吉 香穂利	Kahori Matayoshi	15	女	糸満高等学校
20	石 井 雄 大	Takehiro Ishii	17	男	八重山高等学校

県外内参加者名簿

	氏 名		年齢	性別	学 校 名
1	川 崎 麻奈美	Manami Kawasaki	13	女	鶴見中学校
2	金 城 香 奈	Kana Kinjo	13	女	鶴見中学校
3	與那嶺 美 香	Mika Yonamine	12	女	大阪市立天下茶屋中学校
4	糸 洲 久美子	Kumiko Itosu	17	女	明浄学院高等学校

平成14年度 海外参加者名簿

海外参加者名簿

	氏 名	性別	世代	国名	県 人 会 名
1	当間 嗣栄 マウリシオ Mauricio Shiei Touma	男	4 世	ブラジル	ブラジル 沖縄県人会
2	高良 グラウシヤ ネンシー Glaucia Nancy Takara	女	3 世		
3	志良堂 ジャケリネ Jacqueline Shirado	女	4 世		カンボグランデ 沖縄県人会
4	米須 トマス Tomas Komesu	男	2 世	アルゼンチン	在亜沖縄県人 連合会
5	島袋 エリアーナ ビルヒーニア Eliana Virginia Shimabukuro	女	3 世		
6	広中 山城 ルイス フェルナンド Luis Fernando Hironaka Yamagusuku	男	4 世	ペルー	ペルー 沖縄県人会
7	ゴンザレス 平良 ハイメ Jaime Gonzales Taira	男	3 世		
8	仲里 秋奈 Akina Nakazato	女	2 世	ボリビア	ボリビア 沖縄県人会
9	ロニー ヴェレス 真栄城 Rony Velez Maeshiro	男	3 世		
10	ナリマン ピーニャ フォンテ Narryman Piña Fonte	女	4 世	キューバ	キューバ 沖縄県人会
11	清本・伊舎良 マッシュー 誠 Matthew Makoto Kiyomoto-Isara	男	4 世	アメリカ	ハワイ 沖縄県人会
12	伊良波 クリストファー マイケル Christopher Michael Iraha	男	4 世		
13	比嘉 クリスティン ミヨシ Cristan Miyoshi Higa	女	4 世		北米 沖縄県人会
14	パウチャー 飛鳥 Asuka Christine Boutcher	女	2 世		ワシントン D.C. 沖縄会
15	ジョナサン サンダース Johnathan David Saunders	男	3 世		アトランタ 沖縄県人会
16	ジョセフ リー バザード Joseph Lee Buzzard	男	3 世		北加 沖縄県人会
17	藤田 エリザベス 由利子 Elizabeth Yuriko Fujita	女	2 世	カナダ	トロント 球陽会
18	ミシェル アベダニア ペベニト Michelle Abedania Pebenito	女	3 世	フィリピン	フィリピン 沖縄県人会
19	ジョネロベス コメロス イグナシオ Jonerobeth Comerros Ignacio	女	3 世		
20	照屋 なつ子 Natsuko Teruya	女	2 世	シンガポール	星琉会

海外引率者名簿

	氏 名	性別	世代	国名	県人会名
1	具志堅 ジーナ 美千代	女	2 世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	新里 ダニエル エステバン	男	2 世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
3	赤嶺 光弘	男	1 世	ペルー	ペルー沖縄県人会
4	エステル タマキ トーレス	女	3 世	キューバ	キューバ沖縄県人会
5	呉屋 君子	女	1 世	アメリカ	北米沖縄県人会
6	大城 順市	男	1 世		北加沖縄県人会
7	藤田 みどり	女	1 世	カナダ	トロント球陽会
8	エステーラ アレホ アドルフォ	女	2 世	フィリピン	フィリピン沖縄県人会
9	橋本 真理	女	1 世	シンガポール	星琉会

平成13年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏 名	学 年	性 別	学 校 名	
1	知 名 倫 子	Rinko China	小学4年	女	宜野座小学校
2	仲 田 尚 仁	Naohito Nakada	小学4年	男	南風原小学校
3	又 吉 椎 菜	Shiina Matayoshi	小学5年	女	漢 那 小 学 校
4	平 良 久美子	KuIniko Taira	小学5年	女	志 真 志 小 学 校
5	仲 本 達 郎	Tatsuro Nakamoto	小学5年	男	城 西 小 学 校
6	新 垣 史 織	Shiori Arakaki	小学5年	女	知 念 小 学 校
7	目取真 輔	Tasuku Medoruma	小学5年	男	北 玉 小 学 校
8	城 間 祥 大	Shoudai Shiroma	小学6年	男	若 狭 小 学 校
9	照 屋 寛 佳	Hiroyoshi Teruya	小学6年	男	城 南 小 学 校
10	玉 城 匠	Takumi Tainaki	中学1年	男	コ ザ 中 学 校
11	知 念 鈴 奈	Suzuna Chinen	中学1年	女	伊 江 中 学 校
12	仲 間 良 成	Yoshinari Nakama	中学1年	男	越 来 中 学 校
13	牧 山 梨 紗	Risa Makiyama	中学1年	女	沖 縄 尚 学 中 学 校
14	仲 程 祐 介	Yusuke Nakahodo	中学1年	男	古 蔵 中 学 校
15	成 底 徹	Toru Narisoko	中学1年	男	港 川 中 学 校
16	仲 里 彩 夏	Ayaka Nakazato	中学1年	女	知 念 中 学 校
17	屋嘉比 梢	Kozue Yakabi	中学1年	女	東 風 平 中 学 校
18	玉 城 彩 衣	Ai Tamaki	中学1年	女	那 覇 中 学 校
19	松 本 佳 子	Yoshiko Matsunoto	中学1年	女	那 覇 中 学 校
20	東 江 真理子	Mariko Agarie	中学2年	女	伊 江 中 学 校
21	与那嶺 悠	Haruka Yonamine	中学2年	男	伊 良 波 中 学 校
22	古 謝 ち ひろ	Chihiro Koja	中学2年	女	嘉 手 納 中 学 校
23	比 嘉 紗 苗	Sanae Higa	中学2年	女	鏡 が 丘 養 護 学 校
24	仲 程 若 菜	Wakana Nakahodo	中学2年	女	古 蔵 中 学 校
25	平 田 吉 郎	Yoshiro Hirata	中学2年	男	佐 敷 中 学 校
26	比 嘉 彩 賀	Ayaka Higa	中学2年	女	松 城 中 学 校
27	比 嘉 亜 樹	Aki Higa	中学2年	女	興 南 中 学 校
28	古 堅 葵	Aoi Furugen	中学3年	女	安 田 中 学 校
29	佐久川 俊 介	Shunsuke Sakugawa	中学3年	男	沖 縄 尚 学 中 学 校
30	謝 花 千 夏	Chinatsu Jahana	中学3年	女	宮 里 中 学 校
31	普天間 一 樹	Kazuki Futenma	中学3年	男	小 禄 中 学 校
32	玉那覇 優 香	Yuka Tamanaha	中学3年	女	西 原 東 中 学 校
33	宮 城 鮎 子	Ayuko Mayagi	中学3年	女	西 原 東 中 学 校
34	高 田 真奈美	Manami Takada	高校1年	女	小 禄 高 等 学 校
35	翁 長 里 美	Satomi Onaga	高校1年	女	小 禄 高 等 学 校
36	上 原 恵理佳	Erika Uehara	高校1年	女	昭和薬科大学附属高等学校
37	与那覇 恵 梨	Eri Yonaha	高校1年	女	石 川 高 等 学 校
38	徳 里 麗 華	Reika Tokuzato	高校1年	女	石 川 高 等 学 校
39	中 村 晴 枝	Harue Nakamura	高校1年	女	那 覇 国 際 高 等 学 校
40	伊 計 美 希	Miki Ikei	高校2年	女	宮 古 高 等 学 校
41	仲宗根 智 世	Tomoyo Nakasone	高校2年	女	宮 古 農 林 高 等 学 校
42	佐久田 智 世	Tomoyo Sakuda	高校2年	女	宮 古 農 林 高 等 学 校
43	川 口 真 未	Mami Kawaguchi	高校2年	女	首 里 東 高 等 学 校
44	池 原 理 一	Riichi Ikehara	高校2年	男	普 天 間 高 等 学 校
45	宝蔵寺 祐 司	Yuji Hozoji	高校2年	男	普 天 間 高 等 学 校
46	仲 間 明 奈	Akina Nakama	高校3年	女	宮 古 高 等 学 校
47	茶 畑 美 加	Mika Chabata	高校3年	女	小 禄 高 等 学 校
48	新 崎 舞	Mai Arasaki	高校3年	女	小 禄 高 等 学 校
49	比屋根 恵 美	Megumi Hiyane	高校3年	女	南 風 原 高 等 学 校
50	真 謝 絵 美	Emi Maja	高校3年	女	名 護 高 等 学 校

平成13年度 海外参加者名簿

海外参加者名簿

	氏 名	性別	国 名	県 人 会 名	引 率 者
1	与儀 エリカ ERIKA YOGI	女	ブラジル	ブラジル沖縄県人会	松堂 ひろみ
2	太田 デオゴ DIOGO TAKAKE OTA	男			
3	知花 ムリロ MURILLO CHIBANA	男			
4	諸見里 春美 KARINEHARUMI MOROMIZATO	女			
5	崎間 ビクトル 達由鯉 VICTORTA TSUYURI SAKIMA	男			
6	宮里 昌宏 MARCELO MASAHIRO MIYAZATO UETA	男			
7	宮城 ガストン GASTON MIYASHIRO	男	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会	安里エステラ アレハンドラ
8	比嘉 フェルナルド FERNANDO EZEQUIEL HIGA	男			
9	玉那覇 ノルベルト NORBERTO TAMANAHA	男			
10	大城 ノエリア NOELIA OSHIRO	女			
11	伊芸 ヘラルド GERALDO IGEI KOHATSU	男	ペルー	ペルー沖縄県人会	仲宗根 吉修
12	亀甲 マサル MASARU ARTURO KAMEGO	男			
13	山城 イサベル ISABEL YAMASHIRO NAKACHI	女			
14	比嘉 盛繁 HECIOR ALEXANDER HIGA SHIROMA	男			
15	比嘉 恵理子 ERIKO CAROLINA HIGA YAMASHIRO	女	ボリビア	ボリビア沖縄県人会	安谷屋 敬
16	大城 ニカリ NIKARI OSHIRO MURARA	女			
17	中田 弘喜 FERNANDO HIROKI NAKATA	男			
18	仲村 美恵子 MIEKO NAKAMURA SOKEI	女			
19	仲村 ミツオ JOSE MITSUO NAKAMURA OROZCO	男	メキシコ	メキシコ沖縄県人会	中村 イルマ ヌネス
20	仲村 ヤスヒロ YASUHIRO NAKAMURA OROZCO	男			
21	島田 バグネル 和良 WAGNER KAZUYOSHI SHIMADA	男	ブラジル	カンボグランデ沖縄県人会	具志堅 弘
22	具志堅 ノブユキ ANDERSON NOBUYUKI GUSHIKEN	男			
23	古謝 景士 RAUL KEISHI KOJA	男	ベネズエラ	ベネズエラ沖縄県人会	古謝 いそえ
24	宜保 亜由美 カレン AYUMI KAREN GIBO	女	カナダ	バンクーバー沖縄友愛会	仲宗根 功
25	嶺井 真実 MELISSA MAMI MINEI	女			

海外参加者名簿

26	金城 茜 MARGARET AKANE KINJO	女	カナダ	レスブリッジ沖縄県人会	浦崎 ジョージ
27	目取真 ジャネル ミホコ JANELLE MIHOKO MEDORUMA	女			
28	玉栄 チャールズ CHARLES MASATOMO TAMAE	男	アメリカ	北米沖縄県人会	前田 洋子 (北米沖縄県人会)
29	ジョセフ ジョーンズ JOSEPH FREDRIC JONES	男		サンディエゴ 沖縄県人会	
30	ブライアン デイビス BRYAN KIYOSHI DAVIS	男		ユタ州沖縄県人会	
31	デイビット レイモンド DAVID RICHARD RAYMOND	男		ワシントン沖縄県人会クラブ	トシコ パートリー
32	アリシア 恵子 プレンズ ALICIA KEIKO BERENZ	女		シカゴ沖縄県人会	洋子 サンダリン (シカゴ沖縄県人会)
33	テイル リチャーズ DALE KAORU RICHARDS	男		遊友会	
34	ティファニー フィドラー TIFFANY FIEDLER	女		オハイオ 沖縄友の会	
35	比嘉 龍児 RYUJI HIGA	男		米国東海岸沖縄県人会	
36	落合 北斗 HOKUTO CREIG OCHIAI	男		ニューヨーク沖縄県人会	
37	ロバート ファンチェス ROBERT JAMES FUNCHES	男		ワシントンDC沖縄県人会	ルイス 高江洲 佳代子 (アトランタ沖縄県人会)
38	ケイラ ケンプ KAYLA RENEE CAMP	女		アトランタ沖縄県人会	
39	アンディー ライダー ANDY KIYOSHI RIDER	男		D FW 沖縄県人会	
40	キム ビセッ KIM BISSETTE	女		ジャクソンビル沖縄県人会	
41	マイケル ハーカー MICHAEL ALAN HARKA	男		フェイエットビル沖縄県人会	
42	クリスタル スワンソン CRYSTAL LYNN SWANSON	女		ペンサコーラ沖縄県人会	引率者無し
43	テレサ マリコ モートン TERESA MARIKO MORTON	女		フロリダ沖縄郷友会(がじまる会)	
44	クリストファー ポーティン CRISTOPHER PORTIN	男		ゲアム沖縄県人会	
45	マリア ジェイリン ディキアツコ MA. JAYLYNC. DIQUIATCO	女	フィリピン	フィリピン沖縄県人会	トヨコ照屋エリセオ
46	チヨミ サンタローサ ランセス CHIYOMI STA. ROSA RANCES	女			
47	嶋崎 妙恵美 TAEMI SHIMAZAKI	女			
48	知念 賢吾 KENGO CHINEN	男	フランス	フランス沖縄県人会	知念 睦子
49	石垣 優児 YUJI JOE ISHIGAKI	男	イギリス	イギリス沖縄県人会	石垣 栄康
50	松川 ルカ LUCA TOM MUSASHI MATSUKAWA	男	ドイツ	ドイツ沖縄県人会	松川 力

知 事 表 敬 式 次 第

日時：平成22年7月21日（水）

場所：県庁1階 県民ホール

司会：上地 聡（交流推進課主幹）

8：45 開 会 司会

8：47 参加者紹介 司会

8：50 歓迎の挨拶 沖縄県副知事 安里 カツ子

9：00 参加者代表挨拶 海外参加者代表

県内参加者代表

9：05 閉 会 司会

写真撮影（県民ホール）

ウェルカムパーティー式次第

日時：平成22年7月20日（火）18:30～20:00

場所：かんぱの宿 那覇レクセンター 4F 研

18:30 開 会

18:32 歓迎の挨拶 沖縄県観光商工部参事監兼観光交流統括監
知念 英信

18:37 宣 誓 ニューヨーク沖縄県人会
喜久山 ユキ

18:40 乾杯の音頭 沖縄カナダ協会
会長 大山 盛稔

食事・懇談

19:30 余 興 司会：ジュニアスタディーツアー卒業生

19:30 空手 ボロウス ジェシー ケンタ（アメリカ）

19:35 ボリビア東部の民族舞踊 喜久山 愛理（ボリビア）

19:40 三線&唄 根路銘 真歩（開邦高等学校）
富名腰 明里（開邦高等学校）

19:45 キューバのダンス フォンテス ゴンサレス キレイ（キューバ）

19:50 ブラジルの踊り 輝美 タバレス 玉寄 マリア エドゥアルダ（ブラジル）
与儀 ウイリアン 勇貴（ブラジル）

20:00 終 了

さよならパーティー式次第

日時：平成22年7月26日（月）

場所：那覇ぶんかテンプス館

司会：眞榮城 駿（JST9期生）

下門 楓（JST8期生）

17:00	開会	司会
17:02	乾杯の音頭	沖縄ブラジル協会
	食事・懇談	会長 西原 篤一
17:50	エイサー演舞	琉球國祭り太鼓
18:00	ピアノ	中山 ローベルト 拓也（ドイツ）
18:05	ペルーの踊り	カナシロ ナカミネ カルロス ヤスヒデ （ペルー） ムラタ ウエズ ナミエ エリカ（ペルー）
18:10	伝統舞踊（八重山）	前盛 よもぎ（伊原間中学校）
18:15	アルゼンチンタンゴ	大城 エリカ クリスティナ（アルゼンチン） 呉屋 パウラ ダニエラ（アルゼンチン）
18:30	カチャーシー	参加者全員
18:30	閉会	司会
	～終了～	

ジュニアスタディーツアーグループ表

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
1	神谷 美帆 (女)	山城 美鈴 (女)	上原 壮登 (男)
	Miho Kamiya	Misuzu Yamashiro	Masato Uehara
	日本	日本	日本
2	島袋 安生 (女)	比嘉 優仁 (男)	前盛 よもぎ (女)
	Aki Shimabukuro	Yuuni higa	Yomogi Maemori
	日本	日本	日本
3	新垣 日奈子 (女)	富名腰 明里 (女)	根路銘 真歩 (女)
	Hinako arakaki	Akari Funakoshi	Maho Nerome
	日本	日本	日本
4	浜川 涼夏 (女)	酒井 真歩 (女)	宮城 朱里 (女)
	Suzuka Hamakawa	Maho Sakai	Akari Miyagi
	日本	日本	日本
5	輝美 タバレス 玉寄 マリアエドゥアルダ (女)	大城 エリカ クリスティナ (女)	ムラタ ウエズ ナミエ エリカ (女)
	Terumi Tavares Tamayose Maria Eduarda	Oshiro Erika Cristina	Murata Uezu Mamie Erika
	ブラジル	アルゼンチン	ペルー
6	カナシロ ナカミネ カルロス ヤスヒデ (男)	ケイ ジュリア アン (女)	伊佐 ブラトニック リアナ (女)
	Kanashiro Nakamine Carlos Yasuhide	Kaye Julia Anne	Isa Liana
	ペルー	アメリカ	アメリカ
7	山城 カイル アレフ (男)	中山 ローベルト 拓也 (男)	比嘉 マッケンジー サチ (男)
	Yamashiro Kyle Aleph	Nakayama Robert Takuya	Higa Mackenzie Satchi
	アメリカ	ドイツ	カナダ
引 率	呉屋 新城 春美 (女)	新垣 まゆみ (女)	ゴンザレス 石川 ロベルト (男)
	Goya Arashiro Harumi	Arakaki Mayumi	Gonzalez Ishikawa Roberto
	ブラジル	ボリビア	キューバ

ジュニアスタディーツアーグループ表

	Dグループ	Eグループ	Fグループ
1	金城 海里 (男)	渡 麻里江 (女)	崎本 未来 (女)
	Kairi Kinjyo	Marie Watari	Mirai Sakimoto
	日本	日本	日本
2	赤嶺 英美 (女)	高里 夢子 (女)	知念 志鶴河 (女)
	Mai Kishimoto	Yumeko Takazato	Shizuka Chinen
	日本	日本	日本
3	岸本 麻衣 (女)	名嘉真 千咲 (女)	楚南 琴子 (女)
	Mai Kishimoto	Chisa Nakama	Kotone Sonan
	日本	日本	日本
4	呉屋 パウラ ダニエラ (女)	与儀 ウイリアン 勇貴 (男)	新里 友三 イルトン 鈴木 (男)
	Goya Paula Daniela	Yogi Willian Yuki	Shinzato Suzuki Yuzo Hilton
	アルゼンチン	ブラジル	ブラジル
5	当銘 紀沙 (女)	ペレス ギューラー 日出美 (女)	喜久山 愛理 (女)
	Hisa Kristina Toume	Perez Guerra Hidemi	Airi Kikuyama
	アメリカ	メキシコ	ボリビア
6	ボロウス ジェシー ケンタ (男)	喜久山 ユキ (女)	フォンテス ゴンザレス キレイ (女)
	Burroughs Jessey Kenta	Yuki Kikuyama	Fontes Gonzalez Kirey
	アメリカ	アメリカ	キューバ
7	ボナヴァンチュール オロール (女)	ハリデー 葉月 クイン (男)	パニス ロバート ケネス (男)
	Bonaventure Aurore	Halliday Hazuki Quinn	Panis Robert Kenneth
	ニューカレドニア	カナダ	アメリカ
引率	喜久山 イヴァン (男)	中山 聡 (男)	小出 友視 (女)
	Kikuyama Ivan	Nakayama Satoshi	Tomomi Koide
	アメリカ	ドイツ	日本



この冊子は環境に配慮し、古紙配合率100%の再生紙
及び大豆インキを使用しています